

—茨城県土浦市—

坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚

畠地帯総合整備事業（担い手支援型）
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

土浦市教育委員会
有限会社 毛野考古学研究所

—茨城県土浦市—

坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚

—— 煙地帯総合整備事業（担い手支援型） ——
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

土浦市教育委員会
有限会社 毛野考古学研究所

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川など豊富な水資源に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところであります。そのため市内には、集落跡や貝塚、古墳など数多くの遺跡が存在しています。これらの遺跡は、当時の人々の生活や環境を知る手掛かりとなります。また、現代に生きる私たちが、豊かな生活を送ることのできる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化財を保護し後世に伝えることは、私たちの重要な任務であり、また、郷土の発展のために大切なことがあります。

この度、上坂田地区と下坂田地区において大規模な畠地帯総合整備事業が計画され、今年度は下坂田中台遺跡と下坂田貝塚、坂田台山古墳群の記録保存を目的とした発掘調査が行われました。

調査の結果は本文に記載されているとおりですが、土浦の古代の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、関係者の皆様のご協力とご支援に対し厚く御礼を申し上げます。

平成25年3月

土浦市教育委員会

教育長 井坂 隆

目次

ごあいさつ		第5章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区	17
例言・凡例		第1節 壺穴住居跡	17
目次・図版目次・表目次・写真図版目次		第2節 溝跡	37
第1章 調査に至る経緯と経過	1	第3節 土坑	42
第1節 調査に至る経緯	1	第4節 井戸跡	52
第2節 調査の経過	1	第5節 建物跡	54
第2章 遺跡の位置と環境	2	第6節 ピット	54
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2	第7節 地点貝塚	57
第2節 歴史的環境	3	第8節 遺構外出土遺物	59
第3章 調査の方法と基本層序	5	第6章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区	62
第1節 調査の方法	5	第1節 壺穴住居跡	62
第2節 基本層序	5	第2節 溝跡	63
第4章 坂田台山古墳群	11	第3節 土坑	64
第1節 壺穴住居跡	11	第4節 ピット	68
第2節 溝跡	12	第5節 遺構外出土遺物	69
第3節 土坑	13	第7章 まとめ	71
第4節 古墳	14	付章	74
第5節 ピット	15	写真図版	
第6節 遺構外出土遺物	16	報告書抄録・奥付	

挿図目次

第1図 調査地点位置図	2	第15図 1~3・6号ピット	15
第2図 遺跡分布図	4	第16図 3号ピット出土遺物	15
第3図 基本層序	5	第17図 遺構外出土遺物	16
第4図 調査区位置図	6	第18図 1号住居跡	17
第5図 グリッド配置図	7	第19図 1号住居跡カマド	18
第6図 坂田台山古墳群全体図	8	第20図 1号住居跡出土遺物	19
第7図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区全体図	9	第21図 1号住居跡出土遺物	20
第8図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区全体図	10	第22図 1号住居跡出土遺物	21
第9図 1号住居跡・1号住居跡出土遺物	11	第23図 2号住居跡	22
第10図 1号住居跡出土遺物	12	第24図 2号住居跡出土遺物	23
第11図 1・2号溝跡	12	第25図 3号住居跡	24
第12図 1~3号土坑	13	第26図 3号住居跡出土遺物	25
第13図 1号土坑出土遺物	13	第27図 4号住居跡・4号住居跡出土遺物	26
第14図 屋敷付古墳・1号周溝	14	第28図 5号住居跡・5号住居跡出土遺物	27

例 言

1. 本書は、土浦市坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚の発掘調査報告書である。
2. 調査は、土浦市より委託契約を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
3. 調査については、土浦市教育委員会の指導の下に行った。
4. 遺跡の所在地・調査面積・調査期間等は下記の通りである。

所在地 茨城県土浦市下坂田 1467番地外
調査面積 2760m²
調査期間 平成23年12月14日～平成24年3月21日
調査指導 比毛君男（土浦市教育委員会）
調査担当 柴田洋孝（有限会社毛野考古学研究所）
調査作業員 市村浩男 江口弥男 榎戸洋子 遠藤幸子 大沼義則 表豊 加藤透紀 清原卓
小角みや子 相良麻美 下山豊二 寺崎清次 萩原和宏 針ヶ谷紀夫 平林敬子
宮本富夫 矢口克（50音順）
5. 整理期間と整理従事者は以下の通りである。

整理期間 平成24年10月6日～平成24年3月8日
整理作業員 荒井佳子 石山亜希子 大滝千晶 鬼山由子 木村宏次 菅谷万須美 仙波菜津美
高橋真弓 土井範平 成田恵美 松本正子
6. 本書の原稿執筆分担は以下の通りである。

第1章第1節を比毛、第1章第2節～第7章を柴田が担当した。
7. 住居跡出土遺物の写真撮影は有山怪世（毛野考古学研究所）、その他は柴田が担当した。
8. 本遺跡から出土した貝・獸骨類の分類作業は常深尚（毛野考古学研究所）が担当した。
9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の方々、諸機関より御教示・御協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（敬称略）

茨城県教育委員会文化課 茨城県県南農林事務所 国立歴史民俗博物館 常洋建設工業株式会社
坂田地区県営畑地帯総合土地改良事業実施協議会 土浦市産業部耕地課
独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館 公益財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
富山市教育委員会埋蔵文化財センター 魚津市教育委員会
青木正博 斎藤弘道 下川浩一 高山茂樹 納屋内高史 西本豊弘 町田賢一
10. 本報告書に関わる出土品および記録図面・写真などは、一括して上高津貝塚ふるさと歴史の広場で保管している。

凡 例

1. 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図のうち、平面図の方は座標北を、土層断面図の水準高の数値は海拔標高を示す。
2. 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。

S I : 穴住居跡 SD : 溝 SK : 土坑 SE : 井戸 SB : 掘立柱建物跡 SZ : 周溝 貝 : 貝塚
SX : 性格不明遺構 P : ピット K : カクラン
3. 遺構平面図・断面図の縮尺は1/30・1/60・1/150・1/200、遺物実測図の縮尺について土器は1/3、土製品は1/1・1/2・1/3、石製品は1/1・1/3、貝製品・骨角器は1/1・1/2・1/3にて掲載し、スケールを明示している。また、遺物写真是遺物実測図とほぼ同縮尺である。
4. 観察表における（ ）は推定値を、（ ）は残存値を示す。
5. 各遺構番号は調査区ごとに振り分けを行い、本報告書においても一部を除き調査時の番号のまま報告している。なお、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区における12号住居跡、4・17号土坑、2・13～15・25・26・28号ピット、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区における3・9・23号ピットは欠番となっている。
6. 遺構図中における [] は炭化物を、[] は焼土を、[] は硬化面（柱あたり）を、
[] は貝を示す。
7. 遺物実測図中における [] は黒色処理を、[] は赤彩を、[] は油煙を、
[] は鉄釉を、[] は被熱を、[] は纖維を示す。
8. 本書中の色調に関する表現は、「新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2002年版）」に従った。
9. 引用・参考文献は一括して文末に記した。

第 29 図	6 号住居跡・6 号住居跡出土遺物	28	第 51 図	23・25～27 号土坑出土遺物	49
第 30 図	6 号住居跡出土遺物	29	第 52 図	27 号土坑出土遺物	50
第 31 図	7 号住居跡	29	第 53 図	1 号井戸跡	52
第 32 図	7 号住居跡出土遺物	30	第 54 図	1 号井戸跡出土遺物	53
第 33 図	8 号住居跡	30	第 55 図	1 号建物跡	54
第 34 図	8 号住居跡出土遺物	31	第 56 図	1・5～8 号ピット	55
第 35 図	9 号住居跡・10 号住居跡	32	第 57 図	20～24・35 号ピット	56
第 36 図	11 号住居跡・11 号住居跡出土遺物	33	第 58 図	ピット位置図	56
第 37 図	13 号住居跡	34	第 59 図	ピット出土遺物	57
第 38 図	13 号住居跡出土遺物	35	第 60 図	地点貝塚・地点貝塚出土遺物	58
第 39 図	14 号住居跡出土・14 号住居跡出土遺物	36	第 61 図	遺構外出土遺物	59
第 40 図	15 号住居跡	37	第 62 図	遺構外出土遺物	60
第 41 図	3・5・7・8・10・11 号溝跡	38	第 63 図	1 号住居跡	62
第 42 図	9・12～14 号溝跡	39	第 64 図	2 号住居跡	62
第 43 図	2・3・5・7・8・9・11・12 号溝跡 出土遺物	40	第 65 図	1・2 号溝跡	63
第 44 図	12・13・16 号溝跡出土遺物	41	第 66 図	1 号土坑	64
第 45 図	2・3 号土坑	43	第 67 図	2・3・6・9・14 号土坑	65
第 46 図	6・9・11～13 号土坑	44	第 68 図	1 号土坑出土遺物	65
第 47 図	15・16・21・23～27・29 号土坑	45	第 69 図	1・2・3・6 号土坑出土遺物	66
第 48 図	9・11・12 号土坑出土遺物	46	第 70 図	6・9・14 号土坑出土遺物	67
第 49 図	12・13・15 号土坑出土遺物	47	第 71 図	ピット出土遺物	69
第 50 図	15・16 号土坑出土遺物	48	第 72 図	遺構外出土遺物	69
			第 73 図	遺構外出土遺物	70

表 目次

表 1	調査地周辺の遺跡一覧表	4	表 14	6 号住居跡出土遺物観察表	29	表 27	11 号溝出土遺物観察表	42
表 2	1 号住居跡出土遺物観察表	12	表 15	7 号住居跡出土遺物観察表	30	表 28	12 号溝出土遺物観察表	42
表 3	溝跡一覧表	12	表 16	8 号住居跡出土遺物観察表	32	表 29	13 号溝出土遺物観察表	42
表 4	土坑一覧表	13	表 17	11 号住居跡出土遺物観察表	33	表 30	16 号溝出土遺物観察表	42
表 5	1 号土坑出土遺物観察表	13	表 18	13 号住居跡出土遺物観察表	35	表 31	土坑一覧表	43
表 6	ピット一覧表	15	表 19	14 号住居跡出土遺物観察表	36	表 32	9 号土坑出土遺物観察表	50
表 7	3 号ピット出土遺物観察表	15	表 20	溝跡一覧表	37	表 33	11 号土坑出土遺物観察表	50
表 8	遺構外出土遺物観察表	16	表 21	2 号溝跡出土遺物観察表	41	表 34	12 号土坑出土遺物観察表	50
表 9	1 号住居跡出土遺物観察表	21	表 22	3 号溝跡出土遺物観察表	41	表 35	13 号土坑出土遺物観察表	50
表 10	2 号住居跡出土遺物観察表	23	表 23	5 号溝出土遺物観察表	41	表 36	15 号土坑出土遺物観察表	50
表 11	3 号住居跡出土遺物観察表	25	表 24	7 号溝跡出土遺物観察表	41	表 37	16 号土坑出土遺物観察表	51
表 12	4 号住居跡出土遺物観察表	27	表 25	8 号溝出土遺物観察表	41	表 38	23 号土坑出土遺物観察表	51
表 13	5 号住居跡出土遺物観察表	28	表 26	9 号溝出土遺物観察表	41	表 39	25 号土坑出土遺物観察表	51

表 40	26号土坑出土遺物観察表	・51	表 49	溝跡一覧表	・・・・・	63	表 58	ピット出土遺物観察表	・・・	69
表 41	27号土坑出土遺物観察表	・51	表 50	土坑一覧表	・・・・・	64	表 59	遺構外出土遺物観察表	・・・	70
表 42	1号井戸跡出土遺物観察表	・53	表 51	1号土坑出土遺物観察表	・・	67	表 60	土壤洗浄・貝分類表	・・・	73
表 43	ピット一覧表	・・・・・	55	表 52	2号土坑出土遺物観察表	・・	67			
表 44	ピット出土遺物観察表	・・	57	表 53	3号土坑出土遺物観察表	・・	68			
表 45	地点貝塚一覧表	・・・・・	58	表 54	6号土坑出土遺物観察表	・・	68			
表 46	1号地点貝塚出土遺物観察表	・58	表 55	9号土坑出土遺物観察表	・・	68				
表 47	2号地点貝塚出土遺物観察表	・59	表 56	14号土坑出土遺物観察表	・・	68				
表 48	遺構外出土遺物観察表	・・	60	表 57	ピット一覧表	・・・・・	68			

写真図版 目次

P L. 1	1号住居跡全景・1号住居跡遺物出土状況・1・2号溝跡全景・1号土坑全景・2号土坑全景・3号土坑全景・屋敷付古墳調査前全景・1号周溝全景	P L. 6	24号土坑全景・25号土坑注口土器出土状況・1号建物跡検出状況・1号井戸跡全景・地点貝塚検出状況・20～23号ピット全景・1区南側東西線全景・1区北側東西線全景
P L. 2	1号住居跡全景・1号住居跡カマド・2号住居跡全景・2号住居跡白玉出土状況・3号住居跡全景・3号住居跡遺物出土状況・4号住居跡全景・4号住居跡遺物出土状況	P L. 7	1号住居跡全景・2号住居跡全景・1号溝跡全景・2号溝跡全景・1号土坑セクション・2号土坑セクション・3号土坑全景・2区全景
P L. 3	5号住居跡全景・5号住居跡遺物出土状況・6号住居跡全景・6号住居跡遺物出土状況・7号住居跡全景・7号住居跡遺物出土状況・8号住居跡全景・8号住居跡遺物出土状況	P L. 8	出土遺物
P L. 4	9号住居跡全景・10号住居跡全景・11号住居跡全景・11号住居跡遺物出土状況・13号住居跡全景・13号住居跡遺物出土状況・13号住居跡土製模造鏡出土状況・14号住居跡全景	P L. 9	出土遺物
P L. 5	14号住居跡石製模造品出土状況・2号溝跡遺物出土状況・6号溝跡全景・7・8・10号溝跡全景・9号溝跡硬化面検出状況・12号溝跡全景・13号溝跡全景・11号土坑馬骨出土状況	P L. 10	出土遺物
		P L. 11	出土遺物
		P L. 12	出土遺物
		P L. 13	出土遺物
		P L. 14	出土遺物
		P L. 15	出土遺物
		P L. 16	出土遺物
		P L. 17	出土遺物
		P L. 18	出土遺物
		P L. 19	出土遺物
		P L. 20	出土遺物
		P L. 21	出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

1995（平成7）年2月、新治村（当時）教育委員会教育長宛に茨城県土浦土地改良事務所から、下坂田・上坂田の台地上縁辺部にかけて県営畠地帯総合土地改良事業を計画しており、その予定地内の埋蔵文化財の有無について照会が提出された。現地踏査を行ったところ、貝塚・古墳群の存在が確認されたため、試掘確認調査が必要である旨を回答した。2002（平成14）年8月、茨城県土浦土地改良事務所から、埋蔵文化財の有無と遺跡が存在した場合の取扱についての照会が提出された。

2006（平成18）年2月に新治村が土浦市と合併すると、当事業は計画が具体化し、同年6月に土浦市教育委員会は全域の現地踏査を行った。2008（平成20）年3月には、赤弥堂遺跡の西側から事業区域西端の坂田峯の台古墳群にかけて、事業区域内全体に試掘確認調査を行った。これら試掘確認調査の結果をもとに、土浦市教育委員会は茨城県土浦土地改良事務所・土浦市産業部耕地課と協議を継続し、道路建設対象箇所に対して記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。2008（平成20）年3月25日、茨城県知事と土浦市長との間で坂田地区の埋蔵文化財取扱全般に関する覚書を締結。2011（平成23）年度は、事業地のほぼ中央にあたる下坂田中台遺跡・下坂田貝塚・坂田台山古墳群と、事業地の東端にあたる下坂田塙台遺跡・坂田塙台古墳群の2地点の発掘調査を実施しており、当報告書は前者分に当たっている。

今回の調査に関する文化財保護法関連の手続は、2008（平成20）年6月17日付けで茨城県土浦土地改良事務所長（呼称は当時）より当事業全体に関する埋蔵文化財の発掘の通知（文化財保護法第94条）が土浦市教育委員会に提出され、6月27日付けで茨城県教育長宛に進達した。調査年度の2011（平成23）年度には、一部道路の線形変更があったため、これにつき平成23年9月6日付けで茨城県農林事務所長より埋蔵文化財の発掘の通知が土浦市教育委員会に提出され、9月29日付けで茨城県教育長宛に進達した。発掘調査は有限会社毛野考古学研究所が実施することとなり、埋蔵文化財発掘調査の届出（文化財保護法第92条）を、9月30日付けで茨城県教育委員会教育長宛に進達した。11月10日付けで茨城県教育長より埋蔵文化財発掘調査の通知を受けている。なお、平成24年3月29日付けで発掘調査の終了確認依頼の進達を行い、同年3月31日付けで茨城県教育委員会教育長より終了確認の通知を受けた。

第2節 調査の経過

発掘調査は平成23年12月14日～平成24年3月21日まで、整理作業は平成24年10月6日～平成25年3月8日まで行った。経過は以下の通りである。

平成23年12月期：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。坂田台山古墳群から調査を開始する。また、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区（以下1区）の表土除去も一部行う。坂田台山古墳群における調査は28日で終了。平成24年1月期：1区の調査を開始。住居・土坑を複数確認。調査区の西端で地点貝塚を確認。工事の進捗状況に伴い、終了した区域から部分的に明け渡しを行う。2月期：下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区（以下2区）の重機掘削を行う。3月期：2区の調査を開始。土坑とピットを多数検出した。1区の調査は13日で、2区の調査は16日で終了。21日、発掘器材の撤収を行い、全ての発掘調査業務は終了となる。

平成24年10月期：遺物の洗浄作業を開始し、洗浄終了したものから注記作業を行う。遺構平面図・セクション図のデジタルトレースを行う。11月期：遺物の接合作業を開始。12月期：遺物の写真撮影・実測作業を開始する。平成25年1月期：引き続き遺物の実測作業を行い、中旬に終了。遺物実測図のデジタルトレース作業を開始し、1月中旬に終了。2月期：図版の版組み・原稿作成・編集作業を行い、中旬に入稿。3月期：報告書を刊行し、教育委員会に納品する。

第2章 遺跡の位置と環境

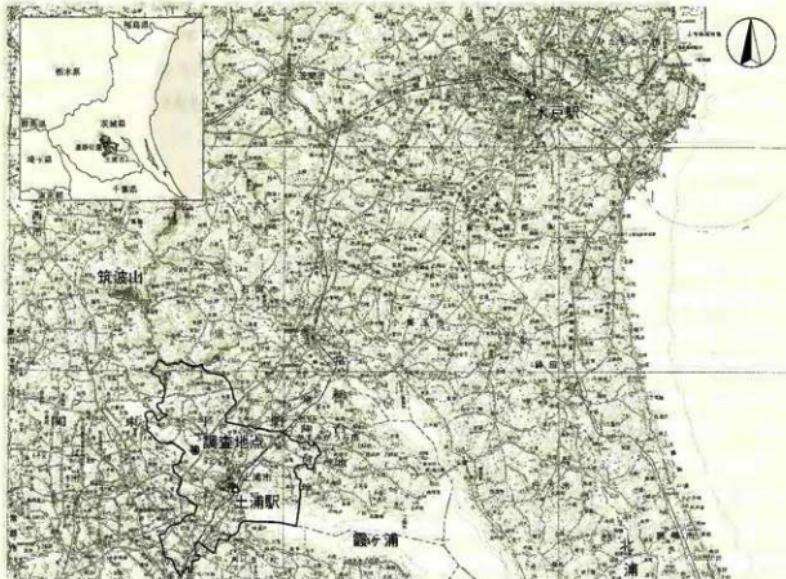
第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図）

坂田山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚は、現在土浦市下坂田に所在しているが、2006年の合併以前は新治郡新治村の所在であった。土浦市は茨城県の南部に位置し、北は石岡市、西はつくば市、東はかすみがうら市、南は牛久市・稲敷郡阿見町と接し、北西には筑波山を望むことができる。

土浦市の中央部には桜川が霞ヶ浦に向かって流れ、河口部は土浦入りを形成している。土浦市はこの桜川を境に、左岸は新治台地、右岸は筑波・稲敷台地が広がり、桜川の周囲は低地（幅2～3km）となっている。本遺跡は桜川の左岸である新治台地の縁辺部（標高28～29m）に位置している。

土浦市を含む霞ヶ浦周辺の地形の形成は今から約30,000年前までさかのほると考えられ、古鬼怒川によつて形成された谷地形（桜川周辺の低地帯も含む）が元になっている。約18,000年前（後期旧石器時代）から温暖化に伴う海面の上昇が徐々に始まり、約9,000年前頃（縄文早期）から谷地形に海水が流入し始め、入江が形成される。約6,000年前の縄文海進期（縄文前期）には海水の流入がピークを迎え、桜川低地帯の汽水域（淡水と海水の混在域）は現在の湖岸より4kmほど内陸まで広がっていたとされる。ちょうど、本遺跡が位置している下坂田地区辺りの低地までと考えられている。

現在、本遺跡を含む下坂田周辺は畠地・果樹園が広がり、台地の縁辺部には針葉樹林が形成されている。遺跡の北部には土浦市街地に向かう国道125号線が走り、西部には国道を縱断する形で常磐自動車道が走るなど、交通の要所が集中する地域でもある。また、下坂田の西側は上坂田となり、両地区を合わせて坂田地区と呼称している。



第1図 調査地点位置図（国土地理院発行『水戸』1:200,000を50%縮小して加筆）

第2節 歴史的環境

本遺跡を含めた新治台地の周辺で確認されている遺跡の概要について各時代別に述べることとする。

旧石器時代 旧石器時代の遺跡は常磐自動車道の東側に位置している常名台遺跡群【25～30】で確認されているが、その数は少ない。神明遺跡【27】第4次調査ではローム層中から石器ブロック1基、隣接する山川古墳群【29】第2次調査でもローム層中から石器ブロック3基と炉跡を検出している。炉跡から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、約32,000年前のものであるとした測定結果が示されている。

縄文時代 縄文時代の遺跡は集落だけでなく地点貝塚も広く分布している。上坂田北部貝塚【4】は前期の地点貝塚で、ハイガイを主体とした貝層が住居内に確認されている。また、上坂田寺裏貝塚【8】・下坂田馬場先貝塚【14】・赤弥堂【18】でも前期の地点貝塚が確認されている。神明遺跡【27】では中期の土坑からサルボウやハマグリが主体の地点貝塚が、下坂田貝塚【★】は筑波大学による畑地帯の確認調査によって後晩期の地点貝塚であることが確認されている。新治台地で確認された地点貝塚はいづれも小規模なものであるが、広範囲にわたって点在している状況が調査によって判明している。

弥生時代 弥生時代に該当する遺跡は少なく、確認されていたとしてもその遺構数はさらに乏しいものである。山川古墳群【29】第3次調査では後期に比定される住居跡2軒が確認されているが、依存状態が悪く遺物も小片が出土したに留まっている。北西原遺跡【28】第2次調査でもわずかに1軒の住居跡が確認されたのみである。本遺跡周辺の赤弥堂遺跡【18】や下坂田塙跡【12】などでもわずかに弥生土器の小片が採集されているが、現時点では該期の遺構を確認している遺跡はない。

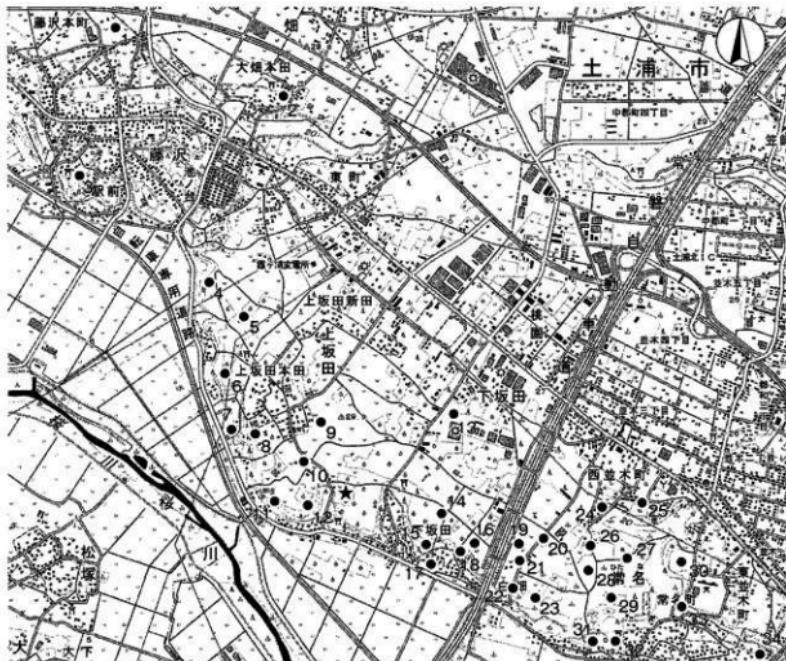
古墳時代 古墳時代に該当する遺跡は弥生時代から格段に増え、台地の縁辺部に多くの古墳が築かれているが、湮滅してしまったものも多いとみられる。集落跡は常名台遺跡群【25～30】で多く確認され、古墳時代前期・後期の竪穴住居跡が多く確認されている。神明遺跡【27】第3次調査では古墳時代前期の住居跡からパレススタイルの漆や結合器台などが出土している。下坂田周辺では赤弥堂遺跡【18】で前期の住居跡が確認されているが、後期の住居跡は確認されていない。上坂田周辺では現時点で集落跡は確認されていないが、上坂田塙原古墳群【5】や上坂田立野古墳群【6】が存在していることから、上坂田にも古墳群の埋葬者に関係する集落が展開していた可能性は十分考えられる。坂H・常名地区で確認された古墳は、前期から終末期まで多岐にわたり、武者塚古墳群【10】と常名天神山古墳【32】は市の指定史跡となる。武者塚古墳群【10】は2基の古墳からなるが、壇丘は削平されてしまっている。古墳時代終末期（7世紀後半）に築造されたとみられる1号墳の主体部は箱型横穴式石室を有し、6体分の人骨が確認され、一部髭や美豆良が残存していた。前室からは全国的に珍しい青銅製の杓が出土するなど貴重な発見が相次いでいる。本調査にかかる坂田台山古墳群【★】は現在3基の古墳からなり、1号墳は昭和39年に国学院大学と土浦第二高等学校により主体部のみの調査が行われ、武者塚古墳1号墳とほぼ同時期の7世紀に築造された終末期の古墳であるとされる。

奈良・平安時代 奈良・平安時代になると遺跡数は古墳時代の半分以下となるが、大多数は常名台遺跡群【25～30】に集中している。弁才天遺跡【30】では竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多く確認され、奈良時代の竪穴住居跡のカマド内からは和銅開刃が出土、隣接する西谷津遺跡【25】の奈良時代の竪穴住居跡からは青銅製帶金具が出土している。八幡下遺跡【34】の平安時代の竪穴住居跡からは円面鏡が出土している。また、同遺跡1号土坑内から丸瓦が出土していることから周辺において守院の存在を窺わせるが、確認を得るものではない。

中世 遺跡周辺には藤沢城跡【3】、峯台館跡【7】、上坂田館の内館跡【9】などの城館跡が台地の縁辺に沿うように存在しており、現在も土塁や堀の跡が確認できる。しかし、調査が及ぶものは少なく、遺跡の範囲

や建物配置等は明瞭になっていない。神明遺跡 [27] では築垣掘や建物跡、山川古墳群 [29] では井戸跡などが確認され、13～14世紀における常名地区の大規模な居館跡の存在が明らかとなっている。

近世 明確に近世に属する遺跡は少なく、赤弥堂遺跡 [18]・神明遺跡 [27]・山川古墳群 [29] などで道路跡や溝跡・土坑などが確認されるに留まる。山川古墳群 [29] で確認された溝跡は畑の境界溝と考えられている。



第2図 遺跡分布図（国土地理院発行「常陸藤沢」1:25,000に加筆）

第1表 調査地点周辺の遺跡一覧

1 高岡委岩塚古墳			●				
2 大煙本田貝塚	●						
3 藤沢城跡			●				
4 上板田北部貝塚	●	●					
5 上板田塙原古墳群	●	●					
6 上板田立野古墳群	●	●					
7 基台砲塹			●				
8 上板田寺裏貝塚	●						
9 上板田館の内跡跡			●				
10 武者塚古墳群	●	●					
11 坂田塙台古墳群	●	●					
12 下板田崎台遺跡	●	●	●				
13 坂田船荷山古墳群				●			
14 下板田馬場先塚	●						
15 下板田八幡神社古墳群		●					
16 下板田向山古墳群		●					
17 下板田風敷内跡跡		●	●	●	●		
18 赤弥堂遺跡	●	●	●	●	●		
19 中原遺跡			●				
20 フラク遺跡			●				●
21 小原の上遺跡			●				
22 板の上遺跡			●				
23 31黒後遺跡			●				
24 西谷浦西遺跡				●			
25 西谷津遺跡				●	●		
26 北西原古墳群				●	●		
27 神明遺跡			●	●	●		
28 北西原遺跡				●	●		
29 山川古墳群			●	●	●		
30 井手天王遺跡			●	●	●		
31 脊坂古墳				●	●		
32 常名天神山古墳				●	●		
33 天神池遺跡				●	●		
34 八幡下遺跡				●	●		
下板田中台遺跡				●	●		
下板田貝塚				●	●		
坂田合山古墳群				●	●		

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法（第3～8図）

本発掘調査は、坂田地区畠地帯総合整備事業に伴う下坂田中台遺跡（南地区）外埋蔵文化財発掘調査として行われ、調査対象地域は事前の試掘調査によって遺構の有無を確認し、調査地区的設定を行った。調査対象地域には3つの遺跡が複合しており、坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚が確認されている。調査は坂田台山古墳群→下坂田中台遺跡・下坂田貝塚（1・2区）の順で行った。発掘調査を進めるにあたり、平面測量は世界測地系の公共座標に基づいて行い、3つの調査区を包括する形で20mの大グリッドを設定。グリッド名は北からA・B・C・・・、西から1・2・3・・・とし、A1・A2といったような名称を付けて各遺構の位置を示すものとした。

調査方法は表土掘削→遺構確認作業→遺構掘削作業→土層確認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進歩状況に合わせて適宜行った。遺構確認作業にはジョレン、遺構掘削作業には移植ゴテを使用して掘り下げを行い、出土遺物は可能な限り平板とトータルステーションを併用して3次元計測による記録を行った。

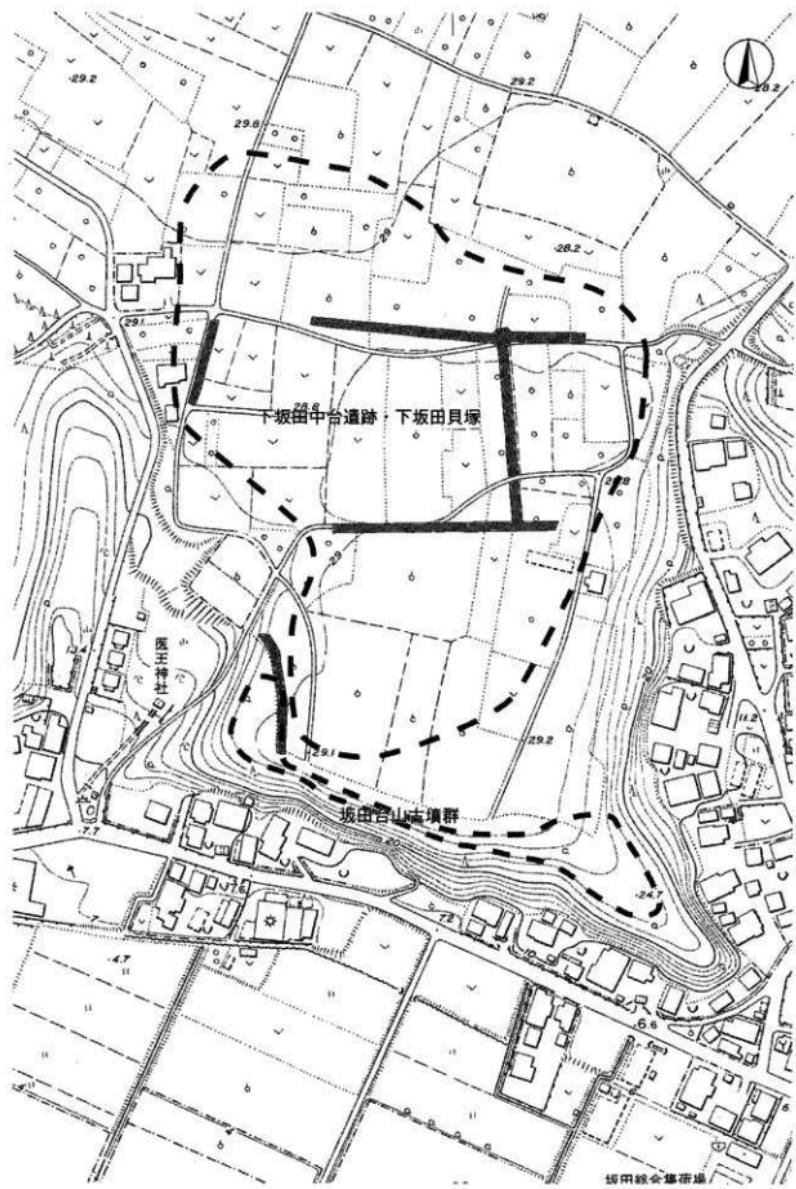
遺構の記録方法は、平面図・セクション図は基本1/20で作成し、平面図はトータルステーションを用いて測量している。遺構の写真撮影は、35mm白黒フィルム・35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（1,400万画素）を使用した。

第2節 基本層序（第3図）

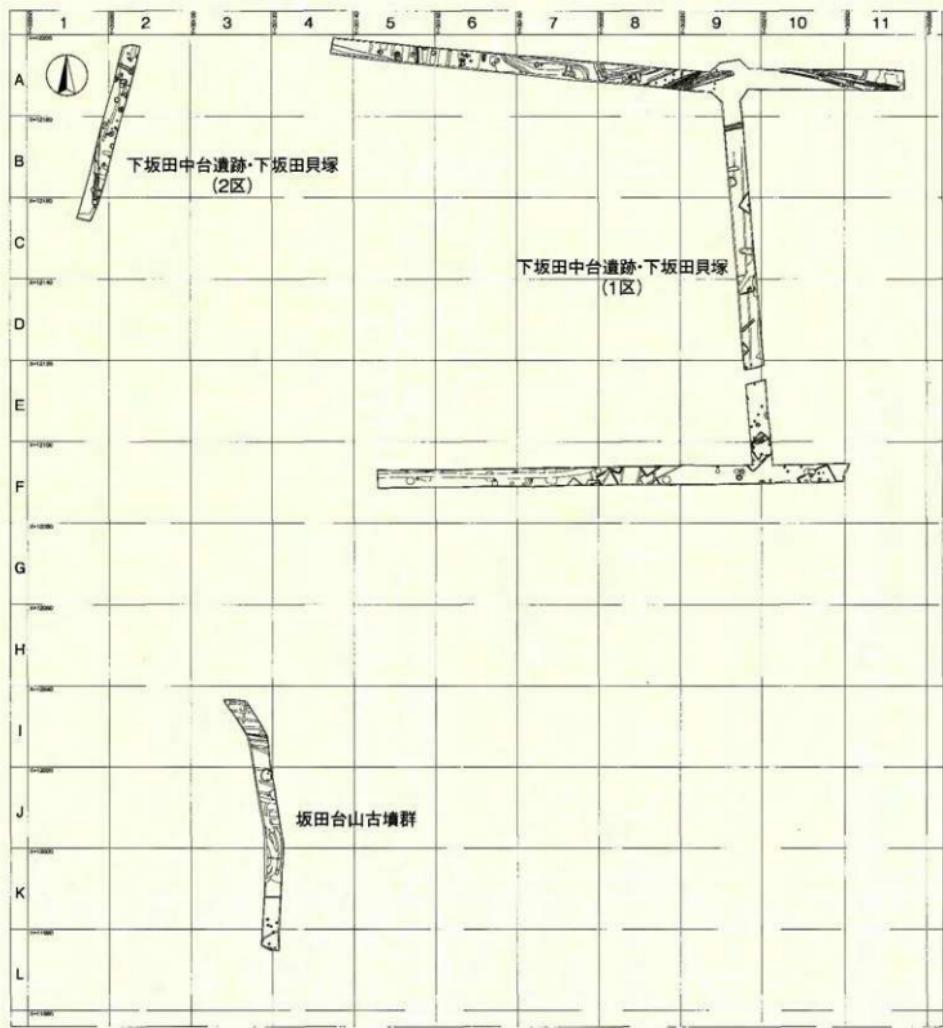
本調査において、3地点で基本層序の確認を行った。A地点は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区北側、B地点は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区井戸跡壁面、C地点は同区東側にあたり、遺構確認面はいずれもII層上面である。A・C地点においてはⅢ層までしか確認できなかったが、B地点は安全に留意し可能な限り井戸跡の壁面において土層の変化を確認したところ、Ⅵ層まで確認することができた。



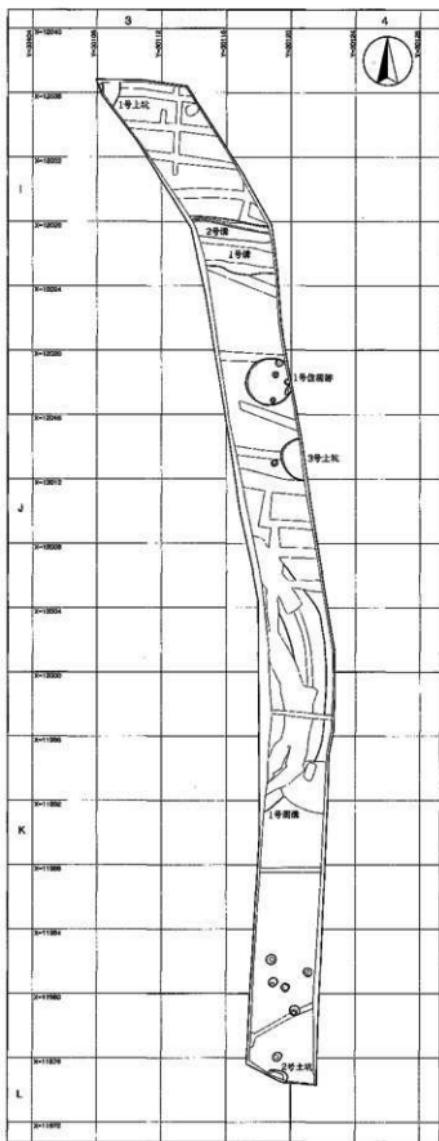
第3図 基本層序（1:60）



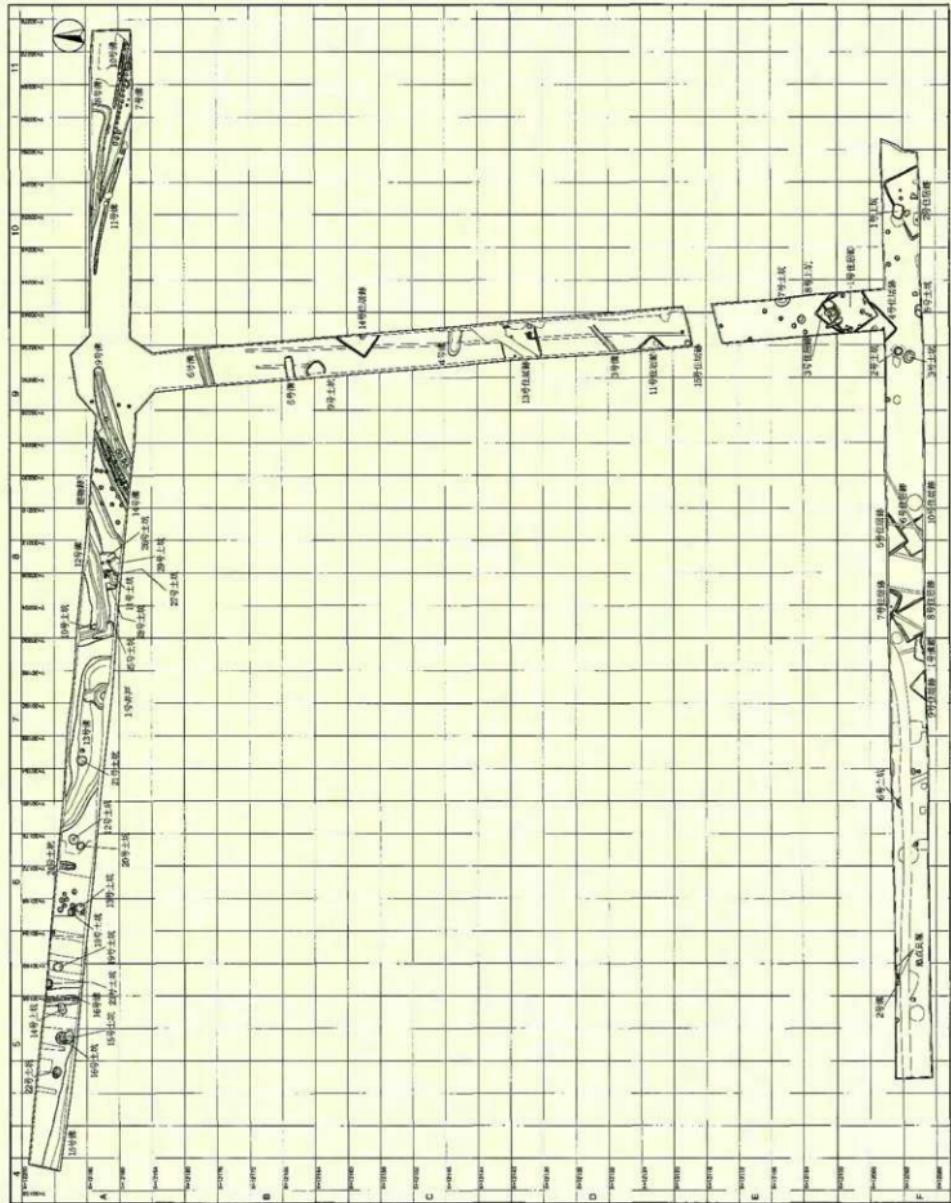
第4図 調査区位置図（新治村都市計画図 1:2,500に加筆）



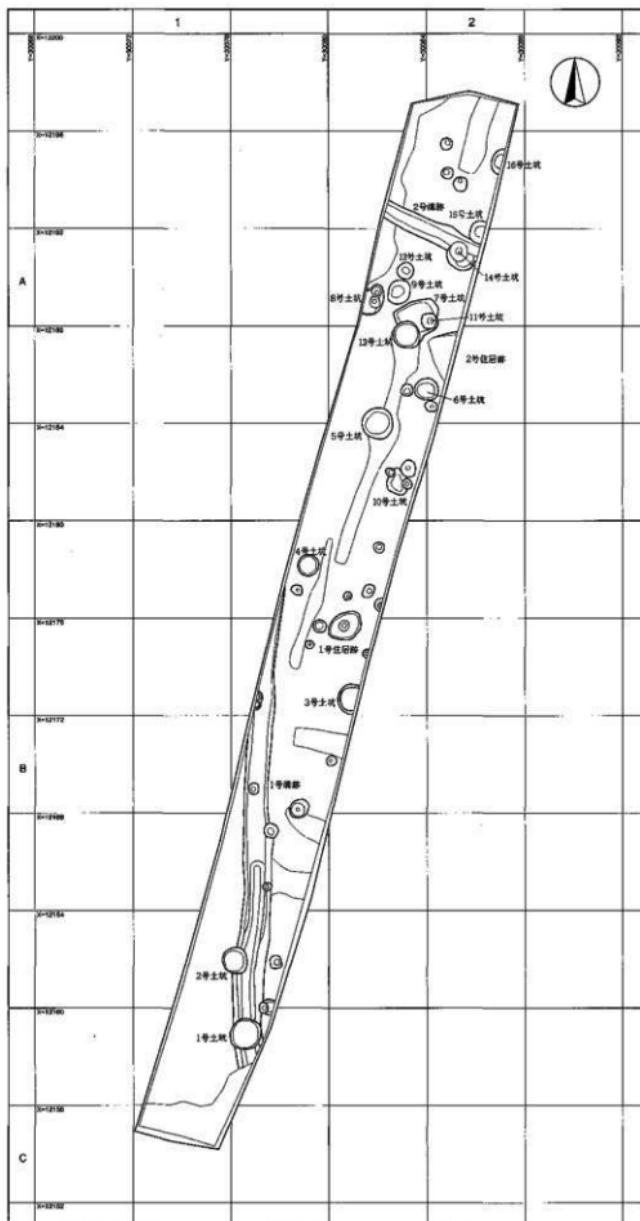
第5図 グリッド配置図 ($S = 1:1.200$)



第6図 坂田台山古墳群全体図 ($S = 1:300$)



第7图 下坂田中台遗迹·下坂田貝塚1区全体图 (S = 1:600)



第8図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区全体図 ($S = 1:200$)

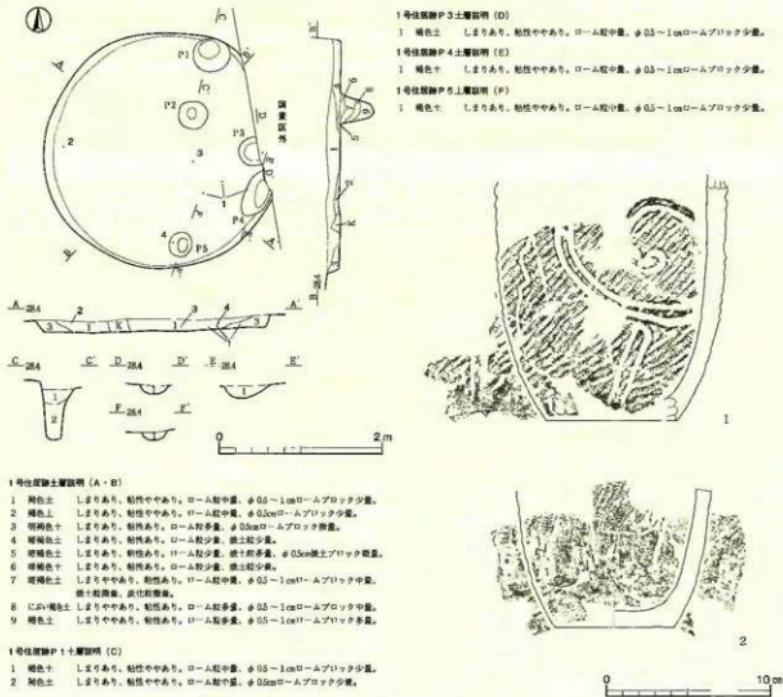
第4章 坂田台山古墳群

坂田台山古墳群の調査は平成23年12月14日～同年12月28日まで行われた。確認された遺構は、堅穴住居跡1軒、溝跡2条、土坑3基、古墳周溝1基、ピット7基を数える。また、隣接する梨畑の土壤改良や散水用パイプの埋設など、搅乱も多くみられた。

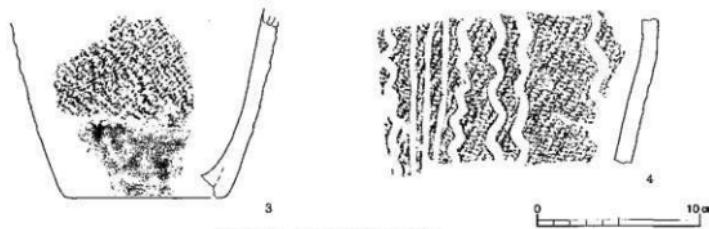
第1節 堅穴住居跡

1号住居跡（第9・10図）

位置 J 3グリッドに位置している。規模 直径2.9mの円形を呈している。主軸方位 不明。壁壁高は15cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、一部根による搅乱を受けていた。硬化面の範囲などを確認することは出来なかった。ピット 5基確認したが、東側に偏っており、明確に柱穴として組めるものはない。炉 確認することは出来なかった。覆土 暗褐色土を主体とした自然堆積とみられる。遺物 覆土上層～下層を中心出土したが、小片が多く個体になるものは少なかった。また、床面直上で確認できた遺物はごくわずかであった。所見 床面から炉跡が確認できなかしたことや、規模が直径2.9mと小型であることから、住居というよりも簡易的な小屋であった可能性も考えられる。出土遺物から縄文時代中期後葉に属するとみられる。



第9図 1号住居跡・1号住居跡出土遺物



第10図 1号住居跡出土遺物

表2 1号住居跡出土遺物観察表

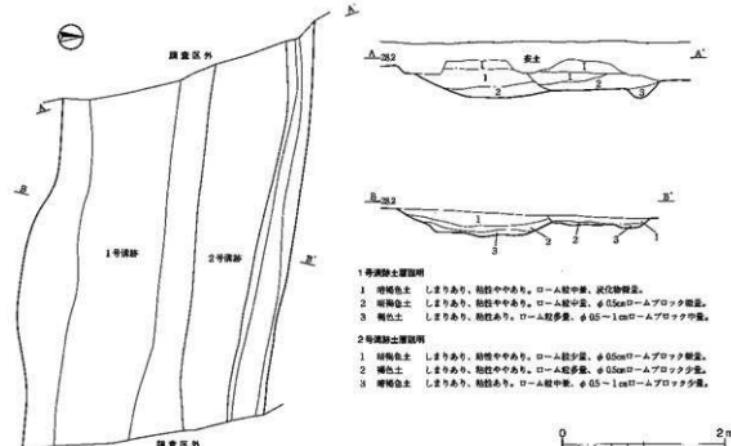
No.	種類	形態	大きさ	状況	測定値		外見	内面	説明
					長	幅			
1	縄文土器	縦跡	—	<15.2>	(B2)	石英・長石 白雲母・金剛石	外→5YR5/6 横 内→7SYR7/1 黒	やや直 内面：ミオキ	外面：L R 単語縄文を施文後、横行斜線・連U字状文を施す。 内面：ナダ。
2	縄文土器	縦跡	—	<35>	72	石英・長石・チャート・ 白雲母	外→5YR5/6 横 内→7SYR7/1 黒	やや直 内面：ナダ。	外面：L R 単語縄文を施文。 内面：ナダ。
3	縄文土器	縦跡	—	<11.7>	(9.6)	石英・長石・白雲母	外→5YR5/6 横 内→7SYR7/1 黒點	やや直 内面：ミオキ	外面：R L 単語縄文を施文。底部 付近ミガキ。 内面：ミオキ。
4	縄文土器	縦跡	—	<8.8>	—	石英・長石・白雲母	外→7SYR5/4 にぶい横 内→10YR5/2 黒質	やや直 内面：ナダ。	外面：L R 単語縄文を施文後、横 行斜線と3条の横堅文を施す。 内面：ナダ。

第2節 溝跡（第11図）

板田台山古墳で確認された溝跡は2条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。遺物は流れ込みとみられる縄文時代の遺物が中心で、わずかに陶器片が確認されたが、明確に時期決定・掲載できる遺物はみられなかった。

表3 溝跡一覧表

No.	位置	南北	東西	長さ	幅	土器	状況	説明
1号溝	I 3	N - 83° - W	2.11	1.07	0.41	縄文土器・陶器器	中・近傍？	2号溝と重複。2号溝より古い。
2号溝	I 3	N - 83° - W	1.2	0.95	0.26	縄文土器・陶器器	中・近傍？	1号溝と重複。1号溝より新しい。底面が一部 礫化しており、道路跡と考えられる。



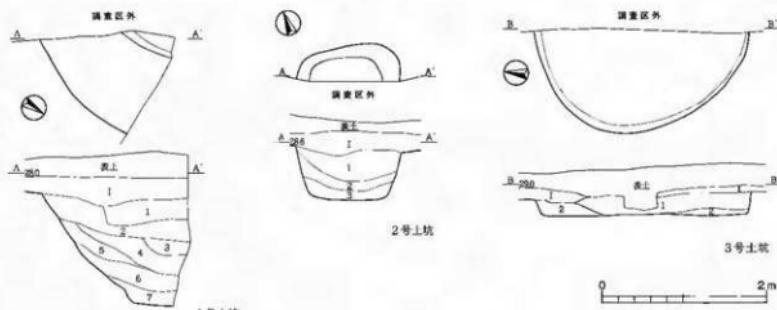
第11図 1・2号溝跡

第3節 土坑（第12・13図）

坂田台山古墳で確認された土坑は3基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。いずれも出土遺物から縄文時代に属するといわれるが、2・3号土坑は小片が多く、掲載遺物はない。

表4 1号坑一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	長軸方位	規模(m)		深さ (m)	平面 形態	遺物	時期	備考
			長軸	短軸					
1号土坑	I 3	N - 2° - W	1.45	1.32	1.4	円形	縄文土器・石器	縄文時代中期後葉	辺り穴。
2号土坑	L 3	N - 66° - W	1.25	0.48	0.61	方形	縄文土器	縄文時代	
3号土坑	J 4	N - 6° - W	2.26	1.37	0.22	円形	縄文土器	縄文時代	



1号土坑断面図

- 褐褐色土 しよりややあり、粘性やあります。ローム状多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
以降無鉱物。表面層付近。
- 褐褐色土 しよりややあり、ローム状多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 褐褐色土 しよりややあり、ローム状多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 褐褐色土 しよりややあり、ローム状多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 褐褐色土 しよりややあり、ローム状多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 褐褐色土 しよりややあり、ローム状多量、φ 0.5~2cmロームブロック多量。
- 褐色土 しよりややあり、粘性あります。I-V段在多量、φ 0.5~2cmロームブロック多量。

2号土坑断面図

- 褐色土 しよりあり、粘性あります。ローム状少量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 褐色土 しよりあり、粘性あります。ローム状少量。
- 泥灰土 しよりあり、粘性あります。ローム状少量。

3号土坑断面図

- 褐色土 しよりややあり、粘性あります。ローム状中量、φ 0.5~1cmロームブロック中量。
- 褐褐色土 しよりややあり、粘性あります。ローム状中量、φ 0.5~1cmロームブロック少量。

第12図 1~3号土坑



第13図 1号土坑出土遺物

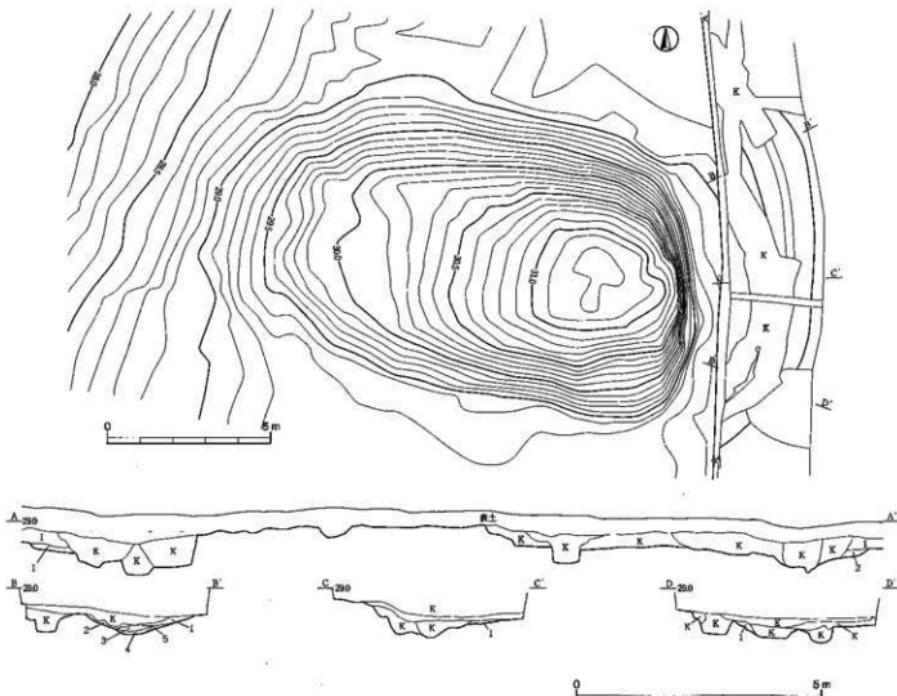
表5 1号土坑出土遺物観察表

No.	種別	分類	重量(g)			胎土	色調	発現	成・整形技法の特徴	備考
			石器	骨器	底質					
1	縄文土器	鉢	-	<29>	-	石英・灰岩 白雲母・金雲母	SYRS/1に近い赤褐色	やや良い	外周：平行凹溝が施され、沈継間は斜め剥落が施される。 内面：ツサ。	加賀利日Ⅱ
2	縄文土器	深鉢	-	<43>	-	石英・灰岩・金雲母	SYR7/1に近い赤褐色	良	外周：汎用で支撑棒を内面。 内面：ミガキ。	加賀利日Ⅱ
3	縄文土器	深鉢	-	<38>	-	石英・灰岩・金雲母	SYR5/6付	良	外周：深谷文をわざかに模写。 内面：ミガキ。	加賀利日Ⅱ
4	石製品	打製石器	<29>	16	0.3	0.076	無色。先端部欠損。チャートを使用。			

第4節 古墳（第14図）

調査区の西に位置している古墳は坂田台山古墳群の一つとして確認されている屋敷付古墳（別称：塚山古墳）で、墳丘の東側は削平されており当時の様子を窺い知ることは出来ない。現在は雑木林である。屋敷付古墳は1964年（昭和39年）に国学院大学と土浦第二高等学校によって主体部の調査が行われている。当時の調査によつて、古墳の規模は約 20×10 mを測り、円墳または前方後円墳とされている。埋葬施設は箱式石棺で、石棺内の側面は赤彩が認められた。確認された人骨は推定5体分で、副葬品は直刀4・刀子2・鉄簇26・鉄環2が出土している。埴輪は確認されておらず、出土遺物・埋葬方法から7世紀に築造されたものと考えられている。出土遺物は現在、土浦第二高等学校と国学院大学にて保管されている。

今回の調査区は古墳の東側を南北に横断する形で設定された。掘り下げを行つた結果、周溝が一部確認されたが、字界のために掘られたとみられる溝が裾部と周溝を破壊し、正確な周溝の幅を確認することは出来なかつた。わずかに確認された周溝は、上端幅2.1m、下端幅0.5m、深さ42cmを測る。覆土中から出土した遺物は搅乱によって混入した近現代の陶器片や金属片に加え、流れ込みとみられる縄文土器片が主体で、古墳築造期を示す遺物はほとんど出土しなかつた。また、主体部調査時以来行はれていたなかったセンター図の作成を再度行つたが、墳丘の形状を特定することは出来なかつた。



第14図 屋敷付古墳・1号周溝

土壤説明 (A)

- 1 希薄色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cm ロームブロック少量。
2 黒色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5~2cm ロームブロック少量。

土壤説明 (B)

- 1 希薄色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cm ロームブロック少量。
2 黒色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5~2cm ロームブロック少量。
3 希薄色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cm~1cm ロームブロック少量。
4 希薄色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cm~1cm ロームブロック少量。
5 希薄色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5cm ロームブロック少量。

土壤説明 (C)

- 1 黒色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量、φ 0.5cm ロームブロック少量。

土壤説明 (D)

- 1 黒色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量、φ 0.5~1cm ロームブロック少量。

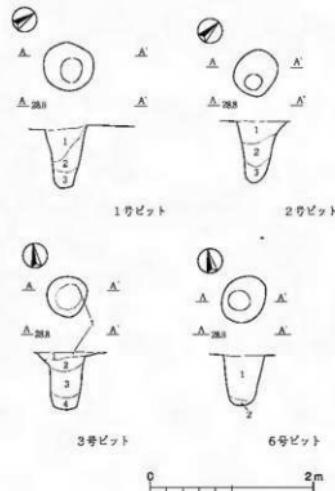
第5節 ピット（第15・16図）

坂田台山古墳で確認されたピットは7基である。位置・規模などの詳細は一覧表にて記載した。1号ピットから5号ピットは密集しており、当初は建物跡を想定したが、明確に組めるものはなかった。遺物の出土は少なく、3号ピットより出土した遺物のみ掲載する。出土遺物から3号ピットは縄文時代中期中葉に属するとみられる。

表6 ピット一覧表

連番名	位置 (グリッド)	規模 (m) 最深×幅輪	深さ (m)	平面 形態	備考
1号ピット	K 3	0.62 × 0.6	0.81	円形	
2号ピット	K 3	0.58 × 0.53	0.81	円形	
3号ピット	K 3	0.5 × 0.48	0.75	円形	
4号ピット	L 4	(0.63) × 0.6	0.68	円形	

連番名	位置 (グリッド)	規模 (m) 最深×幅輪	深さ (m)	平面 形態	備考
5号ピット	K 4	0.52 × 0.52	0.37	円形	
6号ピット	L 3	0.58 × 0.5	0.61	円形	
7号ピット	J 3	0.39 × 0.37	0.49	円形	



第15図 1~3・6号ピット



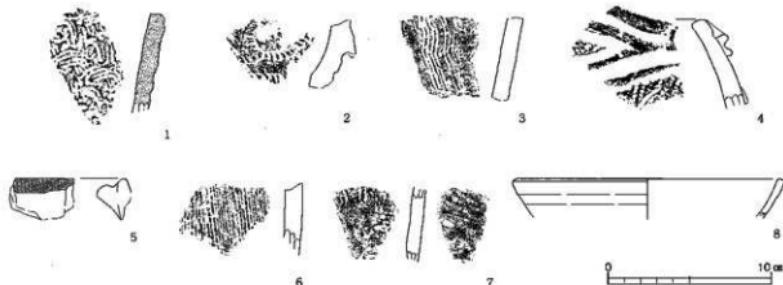
第16図 3号ピット出土遺物

表7 3号ピット出土遺物観察表

No.	復元	形状	直徑 (cm)		底土	色調	焼成	或・整面状法の符號	備考
			上口径	側斜					
1	縄文土器	圓錐	(26.6)	<17.8>	—	石美・灰石・白雲母	外-75TR6.6壁 内-75TR7.4にぶい根	やや良	外削: 細長筒状縄文を施す。 内削: 口縁部ミガキ, 鉢部ナデ。

第6節 遺構外出土遺物

坂田台山古墳群の調査で、遺構外より出土した遺物の中から8点を掲載する。遺構が確認されている縄文時代中期の土器に加えて、前期の土器もわずかに確認された。円筒埴輪とみられる小片も出土しているが、今回の調査区に隣接する屋敷付古墳は埴輪を有していないため、調査区の周囲で湮滅してしまった古墳のものと考えられる。須恵器や土師質土器も確認されたが、出土遺物の主体は縄文土器である。



第17図 遺構外出土遺物

表8 遺構外出土遺物観察表

1	縄文土器	縦縫	—	<5>	—	石英・白雲母・繊維	外—10YR4/2灰黄褐色 内—10YR6/4にぶい黄褐色		やや良	外面：羽状縞文を施す。 内面：ナギキ。	黒浜
							外面	内面			
2	縄文土器	縦縫	—	<47>	—	石英・長石・白雲母 金雲母	外—7.5YR4/1褐紅 内—5YR5/5明赤褐色	やや良	外面：陰莖鉗付後、施密の周間に 竹籠による角押文を施す。 内面：ナゲ。	阿玉台	
3	縄文土器	縦縫	—	<51>	—	石英・長石・チャート 白雲母	外—5YR6/5橙 内—10YR6/4にぶい黄褐色	良	外面：健余状凸凹による想茎文を 施す。 内面：ナゲ。	阿玉台	
4	縄文土器	縦縫	—	<55>	—	石英・長石・白雲母 金雲母	外—7.5YR5/6橙 内—5YR6/5橙	良	外面：L字革縞文を施文後、陰 莖を附付け。文様網を区画す。 内面：ナゲ。	加賀利E I	
5	縄文土器	縫	—	<26>	—	石英・長石・白雲母	外—2.5YR6/8赤褐色 内—10YR6/4にぶい黄褐色	良	外面：口部部・外間に赤褐色。 内面：ナゲ。	加賀利E II	
6	埴輪	(円筒)	—	<45>	—	石英・赤色粒・赤色粒	7.5YR6/6橙	やや良	外面タハケ。内面ナゲ。		
7	須恵器	縫	—	<45>	—	石英・長石	SYS/1灰	良	外面平行引き、ヘラケズリ。内面 ヘラナゲ。		
8	土師質土器	縫	(166)	<23>	—	赤色粒	5YR6/6橙	良	橢球形。		

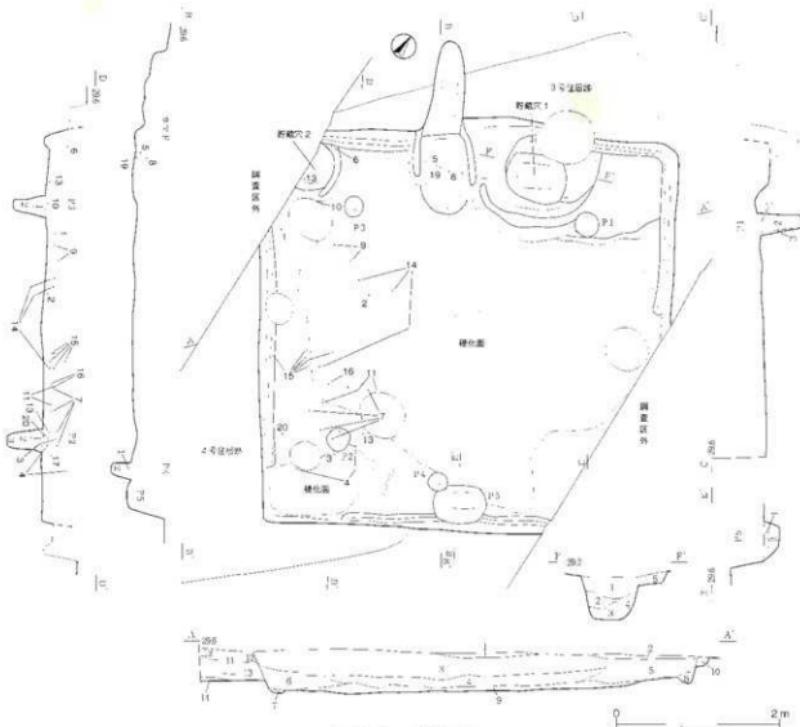
第5章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の調査は平成23年12月21日～平成24年3月13日まで行われた。確認された遺構は、堅穴住居跡14軒、溝16条、土坑27基、井戸1基、地点貝塚2ヶ所、遺物跡、ピット35基を数える。

第1節 堅穴住居跡

1号住居跡（第18～22図）

位置 E9・10、F9・10グリッドに位置している。規模 南北4.90m×東西5.04mの方形。重複関係 出土遺物・土層の観察から、3・4号住居跡より新しい。主軸方位 N・33°・W。壁 壁高は33cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を確認している。カマド東側の貯蔵穴周辺は床面が15cmほど高く、いわゆる棚状施設に分類されるものであると考えられる。壁周溝が巡るが一部途切れる。貯蔵穴 カマドの同蔵と住居南壁際（P5）で検出している。貯蔵穴1は東西幅が長い長方形で2段掘りになっており、上段幅は80cm×112cm、下段幅は55cm×76cmで、深さは54cmである。貯蔵穴2は一部調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、60cm×東西40cm以上である。深さは28cmで、貯蔵穴2



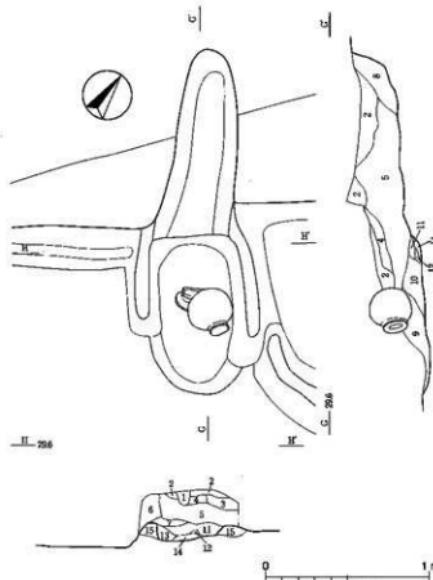
第18図 1号住居跡

1号住居跡土層剖面 (A)

- 1 黒褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 2cm中量。後壁剥離込み。
- 2 黒褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック少量。
- 3 黒褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘中量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 黑褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 2cmロームブロック少量。西土壁剥離。
- 5 細粒土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。後土壁剥離。
- 6 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック微量。後土壁剥離。灰化物微量。
- 7 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック少量。後土壁剥離。灰化物微量。鐵錆。
- 8 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック少量。後土壁剥離。灰化物微量。
- 9 黑褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。後土壁剥離。灰化物微量。
- 10 黑褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック多量。3号住居壁土。
- 11 灰褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量。後壁剥離込み。
- 12 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 13 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 2cmロームブロック微量。4号住居壁土。
- 14 灰褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。

1号住居跡P 4土層剖面 (B)

- 1 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。
- 2 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック多量。



第19図 1号住居跡カマド

の東側は周堤状の高まりが存在している。カマド 北壁中央やや西寄りにあり、袖部はそのほとんどが壊れ、基部が残っている程度であった。燃焼部と煙道部との間には段差があり、煙道部は緩やかに立ち上がりにくく。ピット 床面上では複数のピットが検出されたが、その半数は重複する3・4号住居のもので、1号住居に属するピットは5基である。P 1:30 × 29cm、深さ44cm。P 2:28 × 28cm、深さ39cm。P 3:25 × 23cm、深さ24cm。P 4:22 × 25cm、深さ24cm。P 5:46 × 65cm、深さ19cm。柱穴になるものはP 1～P 3で、検

1号住居跡P 1土層剖面 (C)

- 1 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック中量。灰化物微量。
- 2 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 3cmロームブロック中量。
- 3 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 3cmロームブロック多量。鐵錆。

1号住居跡P 3土層剖面 (D)

- 1 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。灰化物微量。
- 2 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック多量。

1号住居跡P 2土層剖面 (D)

- 1 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。灰化物微量。
- 2 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 2cmロームブロック多量。
- 3 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 2cmロームブロック中量。

1号住居跡P 5土層剖面 (E)

- 1 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。灰化物微量。
- 2 灰褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 2cm以上ロームブロック中量。灰化物微量。

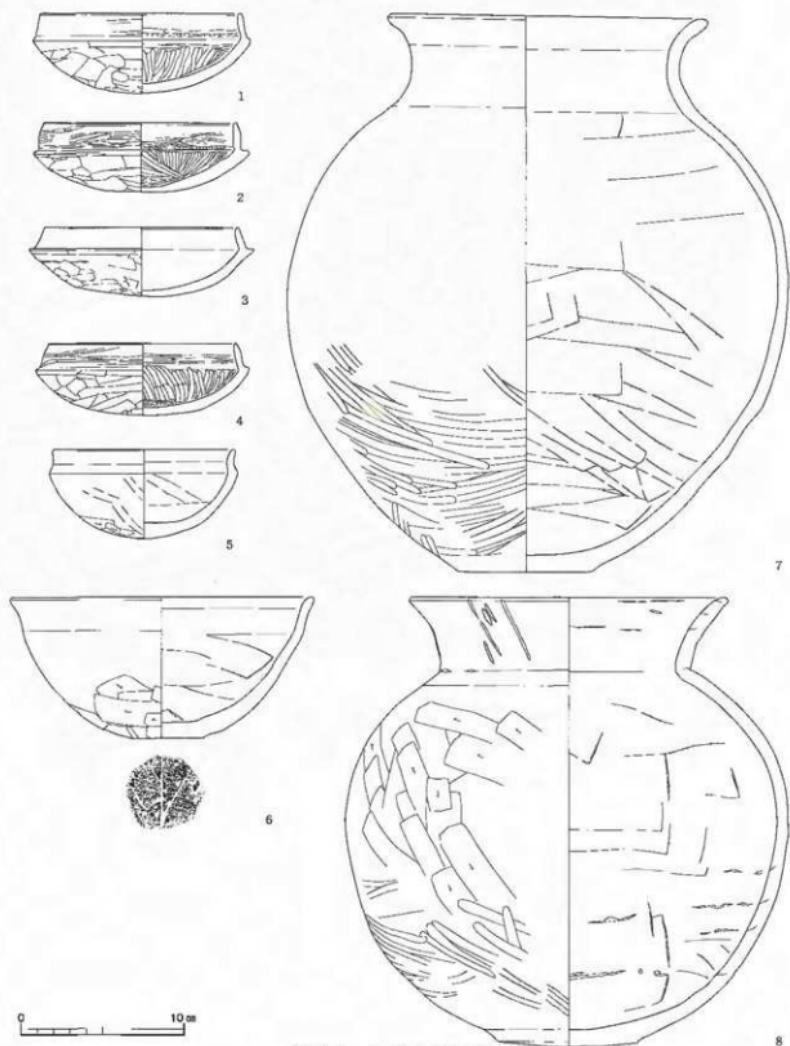
- 3 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 3cm以上ロームブロック中量。灰化物微量。
- 4 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック多量。灰化物微量。
- 5 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。灰化物微量。

1号住居跡地盤剖面 (F)

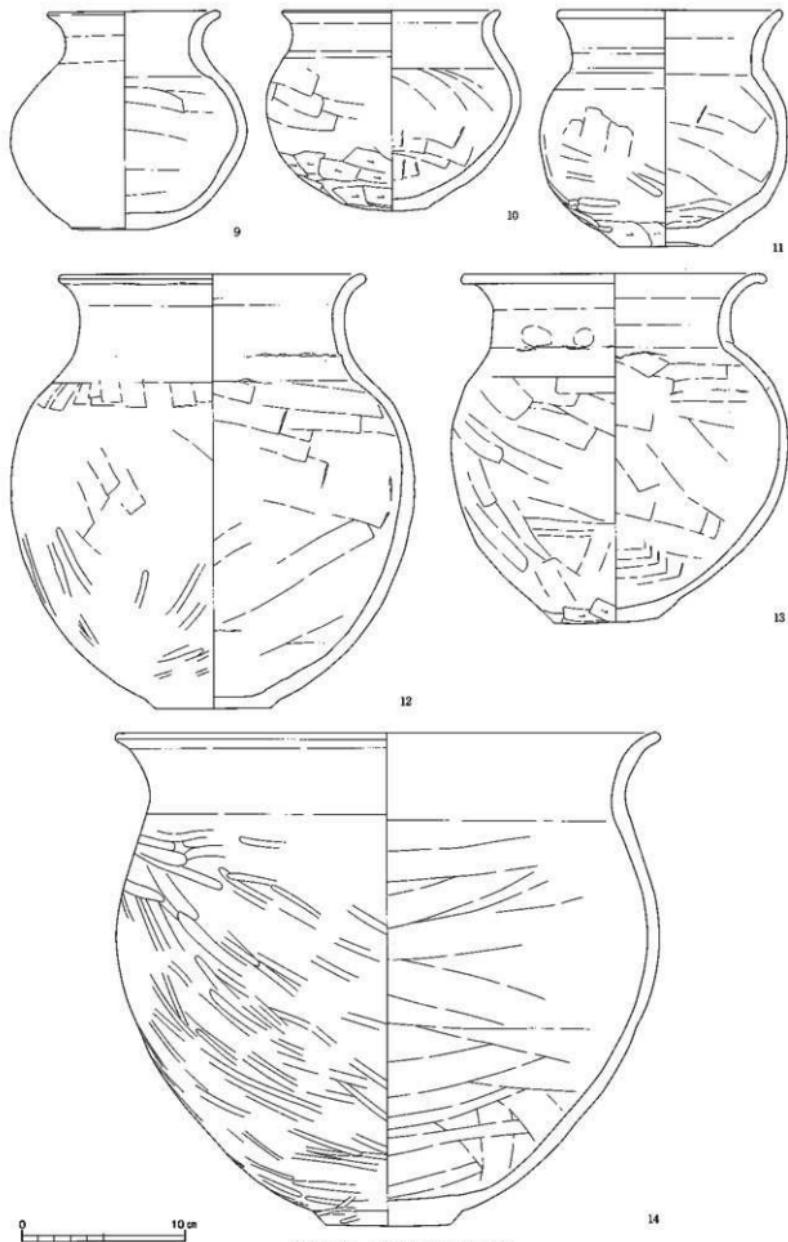
- 1 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。灰化物微量。
- 2 黑褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5 ~ 1cmロームブロック中量。灰化物微量。
- 3 可塑性土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。鐵錆少量、φ 0.5 ~ 1cm以上ロームブロック少量。
- 4 黑褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。鐵錆少量。
- 5 灰褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粘多量。鐵錆少量。
- 6 泥炭土 しまりあり。粘性多量。鐵錆少量。
- 7 泥炭土 しまりあり。粘性ややややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。鐵錆少量。
- 8 泥炭土 しまりあり。粘性ややややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。鐵錆少量。
- 9 黑褐色土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック中量。鐵錆少量。
- 10 泥炭土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘中量、φ 0.5cmロームブロック微量。鐵錆少量。
- 11 黑褐色土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘中量、φ 0.5cmロームブロック微量。鐵錆少量。
- 12 可塑性土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘中量、φ 0.5cmロームブロック微量。鐵錆少量。
- 13 黑褐色土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘中量。鐵錆少量。
- 14 黑褐色土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘少量。鐵錆少量。
- 15 黑褐色土 しまりあり。粘性やややややあり。ローム粘少量。鐵錆少量。

出できなかった南東部の柱穴は調査区外にあるとみられる。P 4 は位置的に出入り口ピットであるとみられる。

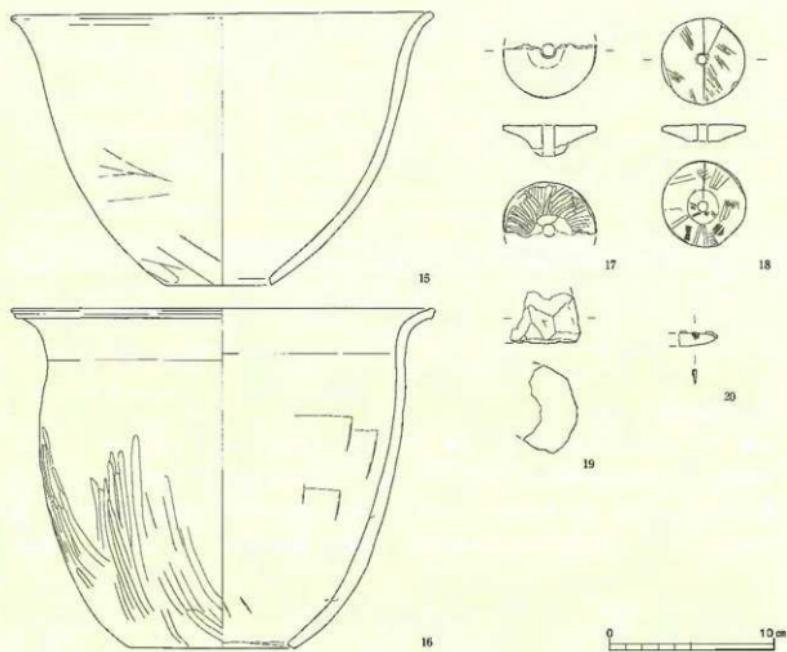
覆土 自然堆積である。遺物 遺物の出土には偏りがあり、住居の西側に集中して個体となる遺物が大量に出土している。しかし、床面直上から出土した遺物少なく、多くは覆土中層から下層にかけてである。カマド内燃焼部からは折れた状態の支脚(19)と逆位の壙(5)が壺(8)の直下で確認された。また、貯蔵穴中から目立った遺物の出土はみられなかった。所見 出土遺物、住居の形態から6世紀中～後葉に属する。



第20図 1号住居跡出土遺物



第21図 1号住居跡出土遺物



第22図 1号住居跡出土遺物

表9 1号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	形態	計量 (cm)	選擇	地土	色調	破損	文・彫刻技法の特徴		備考
								外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	内面: ヘラミガキ。	
1	土器器	平	125	4.9	—	石英・白雲母	7SYR6/4に近い複数	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	
2	土器器	平	120	4.3	—	石英・白雲母	2SYR6/8複数	良	外側: 口縁部ヘラミガキ。体部ヘラケズリ。 内面: ヘラミガキ。	
3	土器器	平	120	4.3	—	石英・白雲母・海綿骨針	7SYR6/6複数	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: ヘラミガキ。	
4	土器器	平	116	4.4	—	石英・長石・白雲母	外: 10YR6/2灰黒褐色 内: 10YR6/2灰褐色	良	外側: 口縁部ヨコナギ後ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ後ヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	外觀内面 黑色處理
5	土器器	平	113	5.5	—	石英・長石・白雲母	外: 7SYR6/6複数 内: 5YR6/6複数	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。	カマド内 出土。
6	土器器	神	187	8.7	54	石英・長石・白雲母	10YR6/4に近い複数	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	英模 本葉底
7	土器器	神	197	34.2	82	石英・長石・白雲母	10YR6/3に近い複数	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	
8	土器器	神	196	27.7	86	石英・長石・白雲母	10YR6/4に近い複数	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	カマド内 出土。
9	土器器	神	105	13.5	65	石英・長石・白雲母	2SYR6/6複数	やや良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	
10	土器器	神	134	12.3	52	石英・長石・白雲母	外: 5YR6/6灰赤褐色 内: 10YR6/2灰黒褐色	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	
11	土器器	神	136	14.6	55	石英・長石・白雲母	7SYR5/5明褐色	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	

12	土師器	甕	(184)	26.8	(7.0)	石英・長石・白雲母	外: SYRS/6号赤褐色 内: IOYRS/4にぶい青 色	真	外側: 口縁部ヨコナデ。体部下キハラケ ズリ後ハラミガキ。上半ヘラナデ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
13	土師器	甕	188	21.5	64	石英・長石・白雲母	SYRS/6種	真	外側: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
14	土師器	甕	(335)	30.3	7.6	石英・白雲母	外: IOYRS/3にぶい青 色 内: IOYRS/1黒褐色	良	外側: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズ リ後ハラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
15	土師器	甕	255	16.8	64	石英・長石	SYRS/6種	やや良	外側: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズ リ後ハラミガキ。
16	土師器	甕	260	23.0	100	石英・長石・白雲母	IOYRS/4にぶい青 色	真	外側: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。

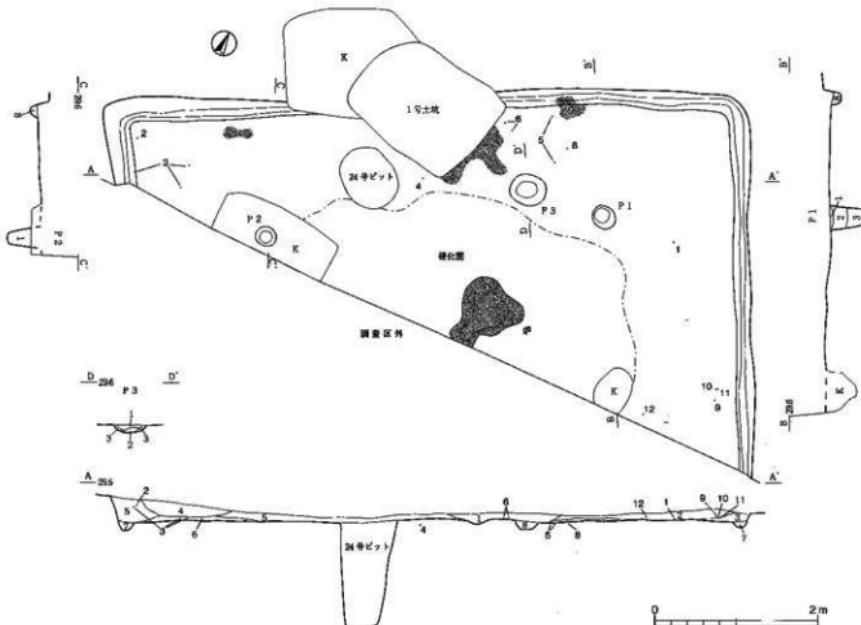
2号居住跡								
17	土製品	絆輪車	直径 57	孔径 0.7	1.9	19.7	ミガキ鏡面。石英・長石・白雲母を含む。	
18	石製品	絆輪車	直径 5.2	孔径 0.6	1.5	39.04	両方側からの穿孔。全面鏡面。	
19	土製品	支脚	<28>	5.4	—	59.38	表面ケズリ。被熱により焼くなっている。石英・長石・白雲母を含む。	カマド内出土
20	陶製品	刀子	(23)	0.8	0.2	11	本質付造。	

2号居住跡 (第 23・24 図)

位置 F 10 グリッドに位置している。 規模 南北 4.75 m 以上 × 東西 7.81 m で、方形になるとみられる。

重複関係 出土遺物・土層の観察から、24号ビットより新しく、1号土坑より古い。 主軸方位 N - 27° - W。

壁 壁高は 31cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。一部 1号土坑と搅乱によって破壊されている。 床 ほぼフラットで、一部搅乱を受ける。壁周溝が巡る。 貯蔵穴 確認できなかった。 ビット 3基確認。



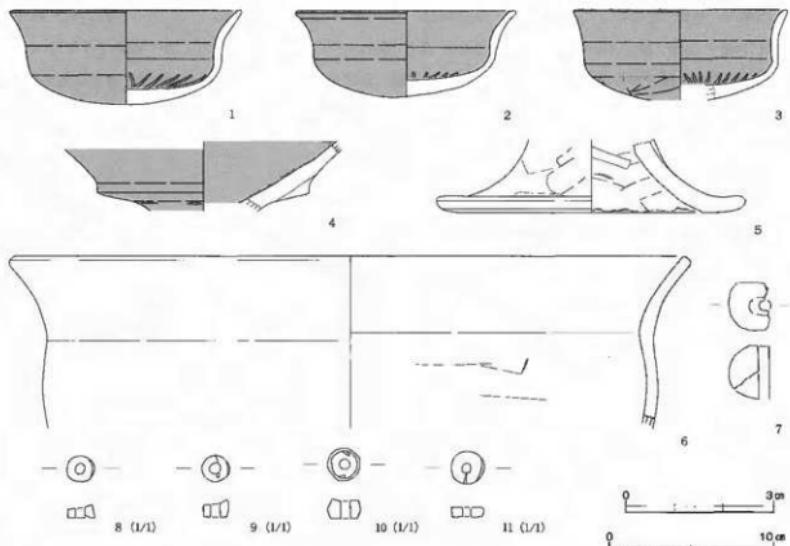
第 23 図 2号居住跡

2号住居跡土層剖面 (A)

- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0cmロームブロック少量。
機械的少量、白色細砂少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
機械的少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
機械的少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 05~1cmロームブロック少量。
φ 05~1cm機械的少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
φ 05~1cm機械的少量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05cmロームブロック少量。
機械的少量。
- P 3 黒土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 05~1cmロームブロック少量。

P 1 : 25 × 25cm、深さ 42cm。P 2 : 30 × 27cm、深さ 29cm。P 3 : 40 × 45cm、深さ 18cm。P 1・2 は柱穴である。P 3 は浅いピットであるが、セクションで確認したところ、覆土中に白色細砂が混入した層を確認した。

炉 住居が方形であった場合、住居中央や北寄りに位置している。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土し、その多くが柱穴の外側で確認されている。臼玉 4点は住居東側で確認されたもので、いずれも床面直上からの出土である。所見 出土遺物、住居の形態から6世紀前～中葉に属する。



第24図 2号住居跡出土遺物

表10 2号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	形状 (cm)			蓋上	内調	焼成	底・變形收法の特徴	備考
			口径	底高	底径					
1	土鍋器	平	142	57	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6赤褐色	良	外面：口縁部ヨコナギ。底部ヘラケズリ後、ナジ。	赤彩
2	土鍋器	平	(135)	53	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6赤褐色	良	外面：口縁部ヨコナギ。体部器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナギ。体部放射状紋。	赤彩
3	土鍋器	平	130	<55>	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6赤褐色	良	外面：口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ後、ナジ。	赤彩
4	土鍋器	高平	—	<44>	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6赤褐色	良	外面：体部ナギ。	赤彩
									内面：体部ナギ。	

5	土器器	萬葉	—	<15>	(196)	石英・長石・白雲母	SYRS/6 明治期	丸	外側：縫合ヘラナダ。 内面：ヘラケズリ、ヘラナダ。	
6	土器器	葉	(41.6)	<10.6>	—	石英・長石・白雲母	SYRS/6 明治期	丸	外側：口縫合ヨコナダ。縫合ヘラナダ。 内面：口縫合ヨコナダ。体部ヘラナダ。	

7	土製品	土玉	直径(4.0)	孔径 0.6	<27>	13.8	ナメによる整形。石英を含む。		
8	石製品	白玉	直径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.07	全面研磨。一方向からの穿孔。		
9	石製品	白玉	直径 0.5	孔径 0.2	0.4	0.14	全面研磨。一方向からの穿孔。		
10	石製品	白玉	直径 0.7	孔径 0.2	0.4	0.27	全面研磨。一方向からの穿孔。		
11	石製品	白玉	直径 0.7	孔径 0.2	0.2	0.17	全面研磨。一方向からの穿孔。		

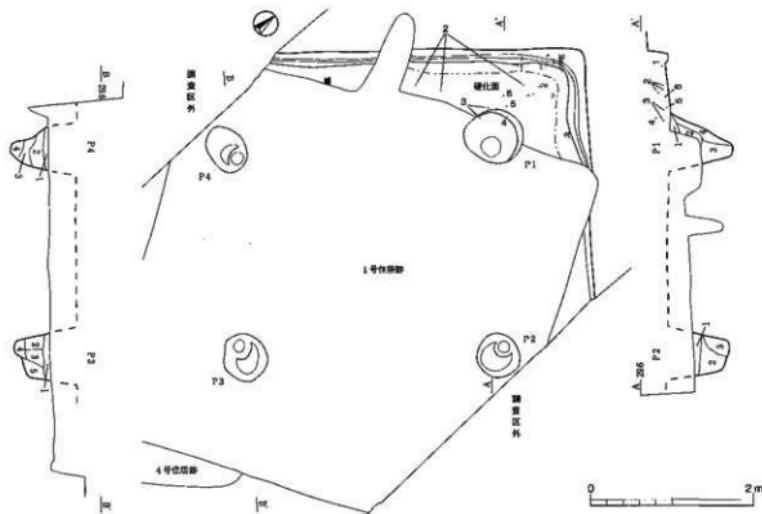
3号住居跡（第 25・26 図）

位置 E 9・10、F 9・10に位置している。規模 南北3.05m以上×東西3.7m以上の方形であるとみられる。

重複関係 出土遺物・土層の観察から1号住居跡より古い。4号住居跡とも若干の重複があったとみられるが、1号住居跡によって重複箇所が破壊されてしまっているため、4号住居跡との新旧関係は不明である。主軸方位 N - 52° - W。壁高は26cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床 フラットで、壁周溝が巡る。

貯蔵穴 確認できなかった。ピット 4基確認。P 1 : 66 × 72cm、深さ 78cm。P 2 : 55 × 52cm、深さ 45cm。P 3 : 60 × 54cm、深さ 44cm。P 4 : 55 × 50cm、深さ 46cm。いずれも柱穴である。炉 確認できなかった。

覆土 自然堆積とみられる。遺物 覆土上層～下層にかけて出土したが、一部の遺物は1号住居跡の覆土中に混入しており、接合関係が認められた遺物も確認している。所見 出土遺物、住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



3号住居跡 P 1 土層断面 (A)

- 1 磨耗色土 しまりあり、粘性やあり。ローム粒中量、φ 0.5cm ロームブロック少量。
- 2 磨耗色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~3cm ロームブロック多量。
- 3 増粘色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cm ロームブロック少量。
- 4 海底土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~5cm ロームブロック中量。

3号住居跡 P 2 土層断面 (A)

- 1 磨耗色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cm ロームブロック多量。
- 2 黄色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~4cm ロームブロック多量。
- 3 黄色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5~1cm ロームブロック中量。

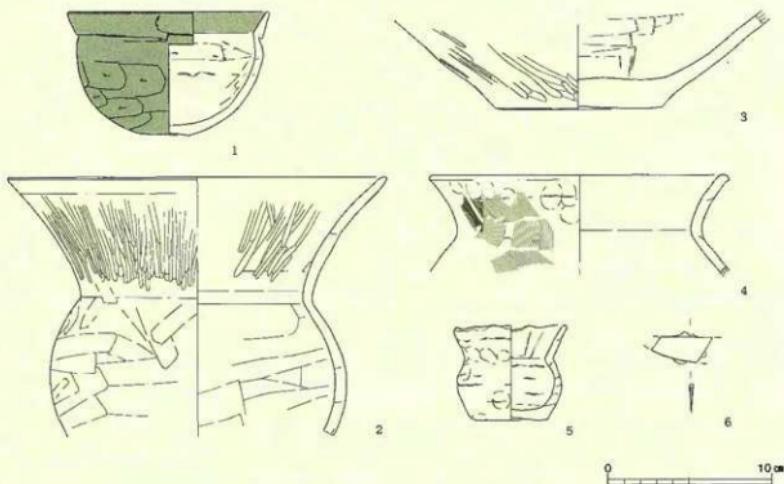
第 25 図 3号住居跡

3号住居跡P3土壤剖面(3)

- 1 塗覆色土 しまりあり、粒性あり。ローム粘多量。φ 05~2cmロームブロック少量。
- 2 磨削色土 しまりあり、粒性あり。1~1.5cm多量。φ 05~2cmロームブロック多量。
- 3 塗覆色土 しまりややあり、粒性あり。ローム粘少量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 4 磨削色土 しまりややあり、粒性あり。ローム粘中量。φ 05~1cmロームブロック中量。
- 5 同色土 しまりややあり、粒性あり。ローム粘多量。φ 05~3cmロームブロック多量。

3号住居跡P4土壤剖面(3)

- 1 塗覆色土 しまりあり、粒性あり。ローム粘中量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 2 磨削色土 しまりあり、粒性あり。ローム粘多量。φ 03~1cmロームブロック中量。
- 3 塗覆色土 しまりあり、粒性あり。ローム粘中量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 4 磨削色土 しまりややあり、粒性あり。ローム粘中量。φ 05~1cmロームブロック少量。



第26図 3号住居跡出土遺物

表11 3号住居跡出土遺物観察表

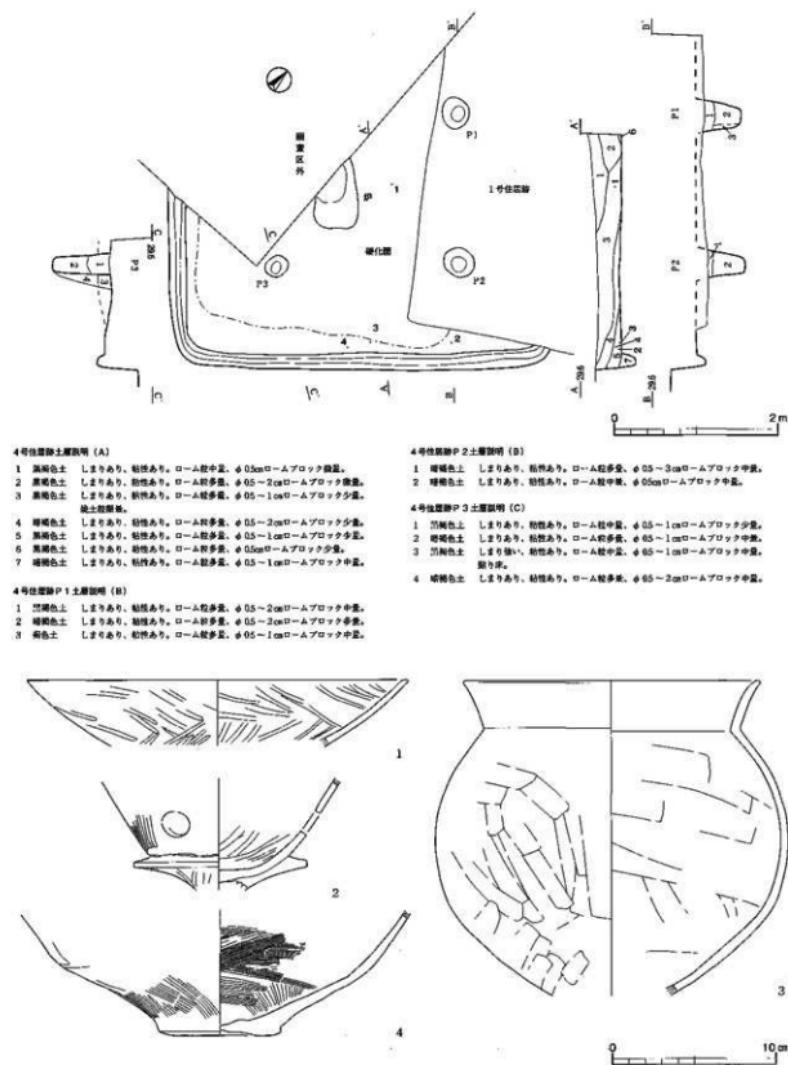
No.	種類	器種	法面(cm)		粘土	色調	形状	成・変形技法の特徴	備考
			口径	高さ					
1	上部器	碗	12.3	7.5	2.8	石灰・長石・白雲母	75YR6/6橙	良	外側: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。
2	上部器	壺	23.2	<16.0>	—	石灰・長石・白雲母	10YR2/6明黄褐	良	外側: 口縁部ヨコナギ。ヘラミガキ。体部ヘラナギ。 内面: 口縁部ヘラミガキ。体部ヘラナギ。
3	上部器	壺	—	<6.0>	10.3	石灰・長石・白雲母	9.5~10YR6/6明黄褐 内: 10YR7/4にぶい黄褐	やや良	外側: 体部ヘラミガキ。底部付近ヘラケズリ。 内面: 体部ヘラナギ。
4	上部器	壺	(18.4)	<6.2>	—	石灰・長石・白雲母	10YR6/6明黄褐	やや良	外側: 口縫部タハケ。底部張痕。 内面: 口縫部ヨコナギ(擦痕)。
5	上部器	ミニチュア土器	6.9	5.8	4.4	石灰・長石・白雲母	75YR6/6橙	良	外側: 斜削。
									内面: 口縫部ヘラナギ。体部擦痕。

No.	厚さ(cm)	形状	法面(cm)		直径(cm)	成・変形技法の特徴ほか	備考
			表上	表下			
6	<3.9>	刀子	1.6	0.1	3.08		

4号住居跡(第27図)

位置 F 9・10グリッドに位置している。規模 南北22.5m以上×東西4.7mの方形であるとみられる。唯一残存している南西コーナーはやや丸味を帯びている。重複関係 出土遺物・土層の観察から1号住居跡より古い。主軸方位 N・45°・W。壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、貼り床が施してあるが、一部根による搅乱を受ける。貯蔵穴 確認できなかった。ピット 3基確認。P 1: 40 × 34cm、深さ44cm。P 2: 35 × 37cm、深さ46cm。P 3: 25 × 28cm、深さ69cm。いづれも柱穴である。炉 住居中央部やや西寄りで確認している。90cm以上×55cmの南北に長い楕円形を呈し、中心部分の火床

面は硬化している。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土したが、その多くは小片で、全体的な出土量も少なかった。個体になるようなものは住居の南壁に沿うような形で出土した。所見 出土遺物、住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



第27図 4号住居跡・4号住居跡出土遺物

表12 4号住居跡出土遺物観察表

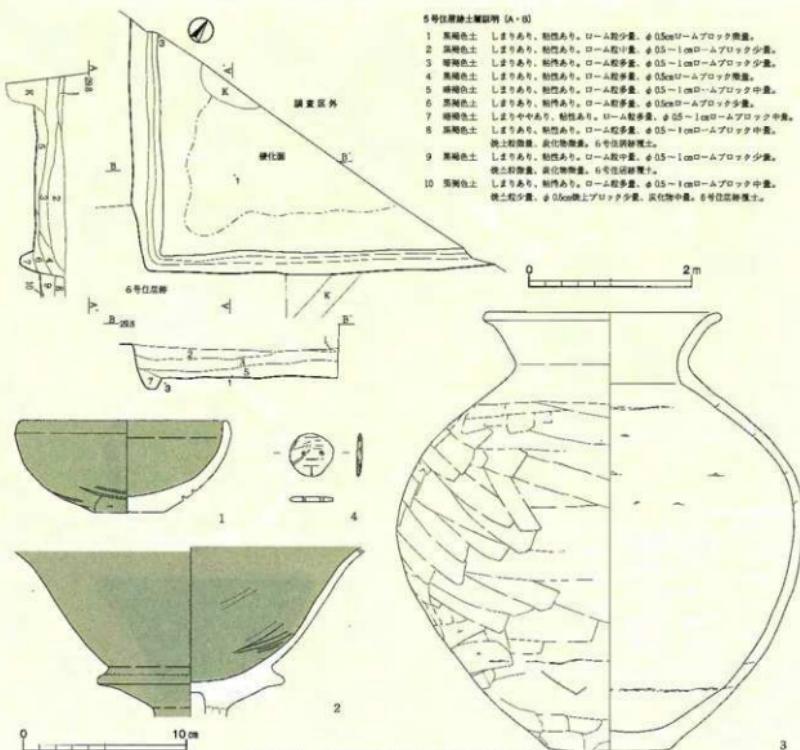
No.	種別	特徴	法面 (cm)			施土	色調	焼成	成・鑿形技法の特徴	備考
			口徑	深さ	底径					
1	土壺器	高環	(11.7)	<4.1>	—	石英・長石・白雲母	外: 75%RS/5 明褐色 内: 10%RS/4 黄褐色	良	外面: ハラケグリ後、ヘラミガキ。 内面: ヘラミガキ。	
2	土壺器	器台	—	<6.9>	—	石英・長石・白雲母	10%RS/6 明褐色	やや良	外面: 体部ヘラミガキ。体部孔3箇所。 内面: ヘラミガキ。	
3	土壺器	壺	(18.2)	<6.0>	10.3	石英・チャート	外: 10%RS/2 黄褐色 内: 10%RS/4 にぶい黄褐色	やや良	外面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナダ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナダ。	
4	土壺器	壺	—	<7.7>	7.5	石英・長石・白雲母	外: 5%RS/4 にぶい黄褐色 内: 10%RS/3 にぶい黄褐色	やや良	外面: 体部ヘラカズリ。底部付近タテハケ。 内面: ヨコハケ。	

5号住居跡（第28図）

位置 F 8グリッドに位置している。 規模 南北 3.1 m 以上 × 東西 4.2 m 以上の方形であるとみられる。

重複関係 出土遺物・土層の観察から 6号住居跡より新しい。 主軸方位 N - 35° - W。 壁 高は 42 cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。 床 ほぼフラットで、硬化面が確認できた。また、一部搅乱を受けてる。

ピット 確認できなかった。 炉 確認できなかった。 覆土 自然堆積である。 遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土したが、個体になるものは少ない。住居北西部の床面直上からはほぼ完形の壺（3）が1点出土している。 所見 出土遺物、住居の形態から5世紀後葉に属するとみられる。



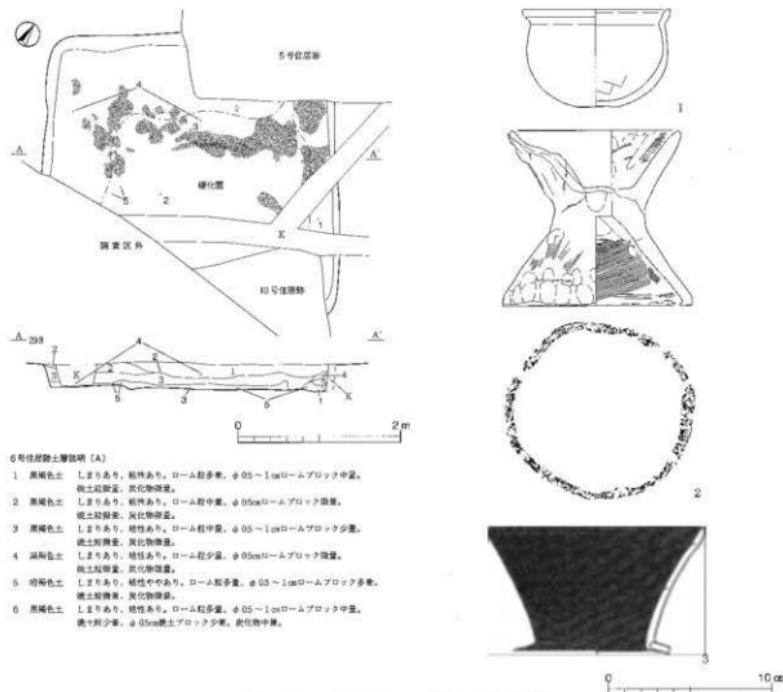
第28図 5号住居跡・5号住居跡出土遺物

表 13 5号住居跡出土遺物観察表

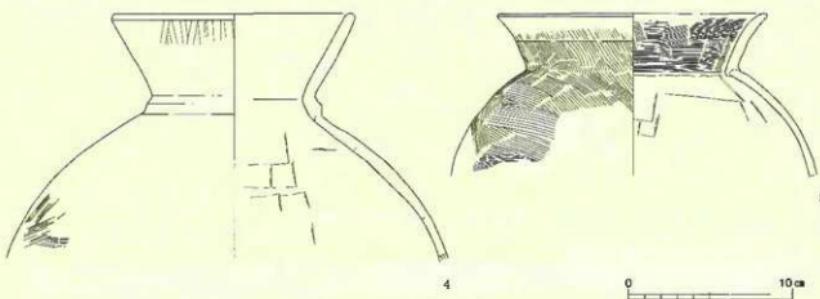
編 號	性 質	形 狀	材 質	規 模	層 位	外 部 形 狀		内 部 形 狀	特 徴
						長 軸	短 軸		
1	土器器	碗	(12.1)	57	43	石英・長石・白雲母	SYR5/8号房施	直 筒	外縁：口縁部ヨコナデ。体部斜面成。 下平ヘラケズリ、キザキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部斜面成。
2	土器器	高環	—	<30.4>	—	石英・長石・白雲母	SYR3/6号房施	やや直 筒	外縁：体部ヘラミガキ。 内面：ヘラミガキ。
3	土器器	盤	(14.8)	271	78	石英・長石・白雲母	SYR6/6号房施	直 筒	外縁：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ 後、上平ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。
4	石集品	灰乳丙酸	直径 25 孔径 0.15	0.4	7.07	全面研磨。一方向からの穿孔。			

6号住居跡（第 29・30 図）

位置 F 8 グリッドに位置している。規模 3.5 × 3.5 m の方形の住居である。重複関係 出土遺物・土層の観察から 5・10 号住居跡より古い。主軸方位 N - 35° - W。壁 壁高は 31cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットである。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。覆土下層では焼土が多量に確認され、炭化物・炭化材も確認された。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土した。所見 出土遺物、住居の形態から 4 世紀前半代に属するとみられる。また、覆土中で確認された焼土・炭化材から焼失家屋であるとみられるが、黒根部材となる炭化材は圧倒的に少ない。



第 29 図 6号住居跡・6号住居跡出土遺物



第30図 6号住居跡出土遺物

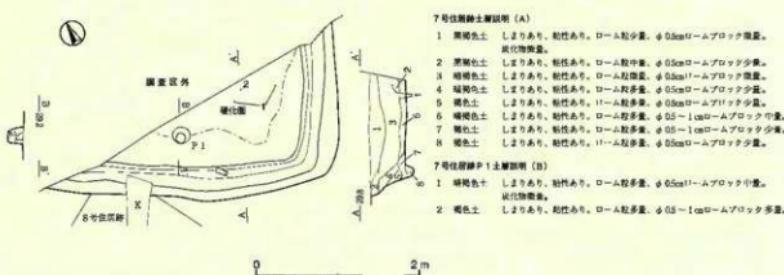
表14 6号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	寸法(cm)			地土	色調	焼成	成・整形技法の特徴		備考
			口径	脚高	底径				外観	内面	
1	土器	碗	91	60	25	白雲母・白色粒	SYR6.6埋	良	外観：口縁部ヨコナダ。体部ヘラケツリ後、丁寧なナダ。	内面：口縁部ヨコナダ。体部ヘラナダ後、ヨコナダ。	
2	土器	粗製器合	(102)	108	117	石英・長石・白雲母	SYR5.6明赤場	良	外観：古部ナダ。脚部タテカケ、底部付近は直面。	内面：合板ハケ後、ナダ。周辺ヨコハケ、指痕。	右側と脚部に穿孔はない。
3	土器	壺	133	<75>	—	石英・長石・白雲母	SYR4.6赤場	良	外観：口縁部ヘラミガキ。	内面：口縁部ヘラミガキ。	赤彩
4	土器	壺	149	<153>	—	石英・長石・白雲母	SYR5.6明赤場	やや良	外観：口縁部ヨコナダ。体部タテハケ後、ヘラミガキ。器底直面。	内面：口縁部ヨコナダ。体部ヘラナダ。	外側赤彩
5	土器	壺	(166)	<100>	—	石英・長石・白雲母	SYR5.6明赤場	良	外観：口縁部タテハケ後、ヨコナダ。体部タテハケ、ヨコハケ。	内面：口縁部ヨコハケ。体部ヘラナダ。	

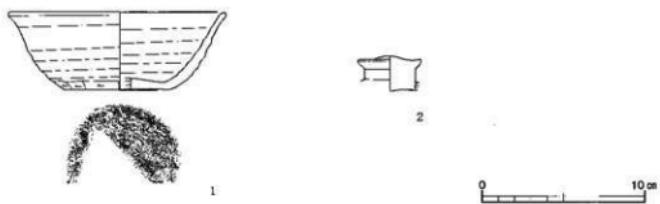
7号住居跡（第31・32図）

位置 F 8グリッドに位置している。規模 南北 22.2 m以上×東西 3.6 m以上の方形であるとみられる。

重複関係 出土遺物から8号住居跡より新しい。主軸方位 N - 29° - E。壁 壁高は 44cmで、緩やかに立ち上がる。一部搅乱を受ける。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を検出している。ピット 1基確認している。P 1: 18 × 21cm、深さ 19cm。住居の南壁際で確認していることから、出入り口ピットであるとみられる。カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。一部搅乱を受ける。遺物 覆土上層～下層にかけて出土した。所見 出土遺物と住居の形態から、8世紀後葉～9世紀前葉に属するとみられる。



第31図 7号住居跡



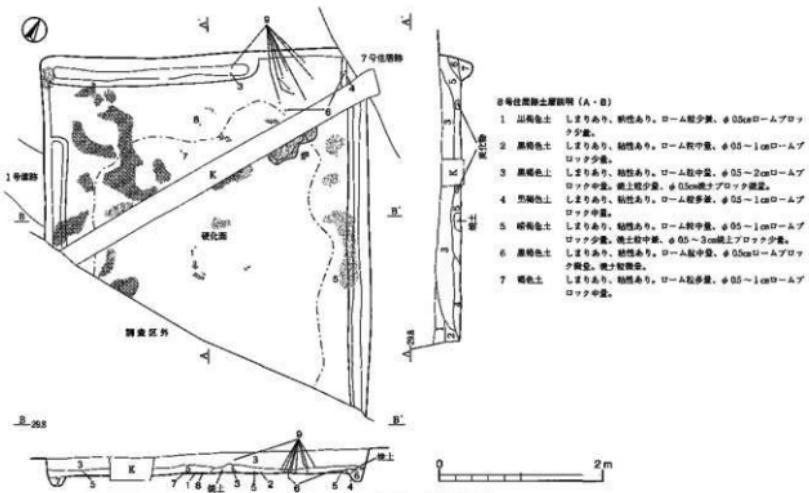
第32図 7号住居跡出土遺物

表15 7号住居跡出土遺物観察表

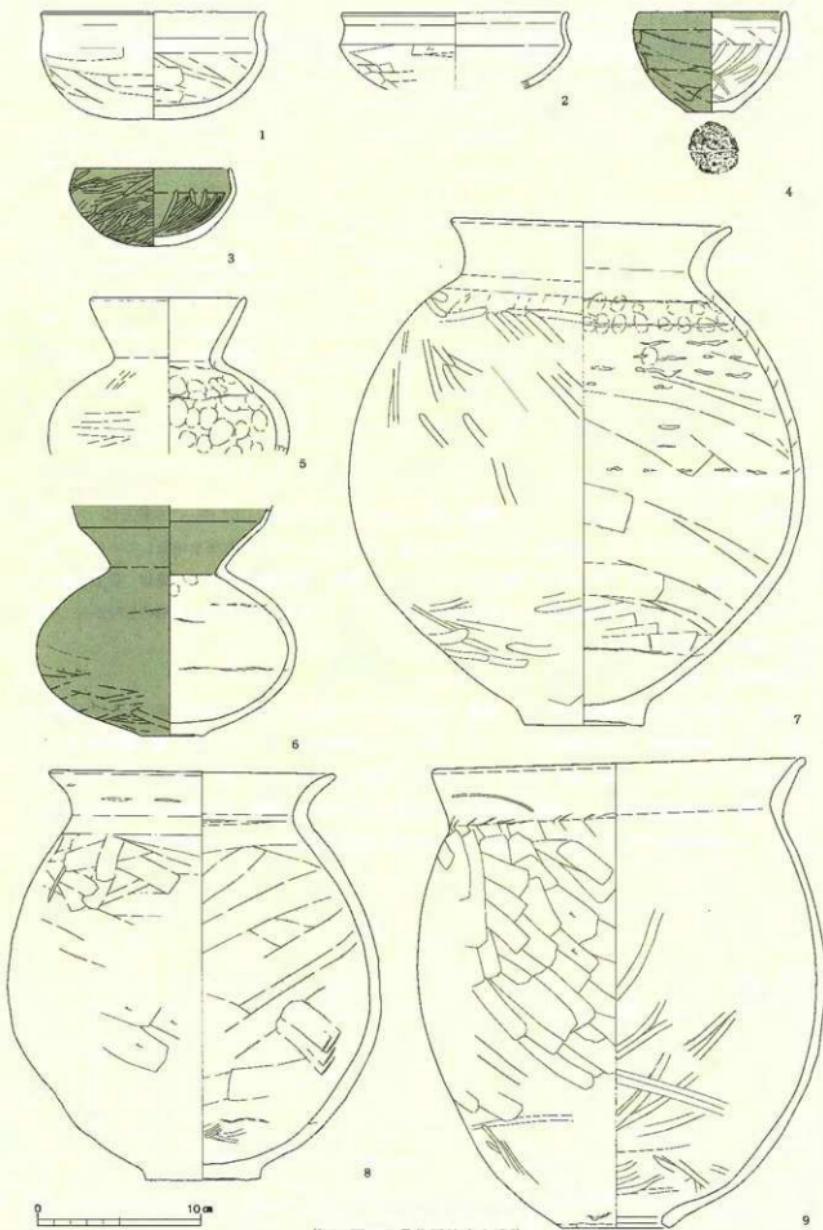
1	灰陶器	坏	133	48	63	石英・長石・白雲母 25TR5/2灰黄	灰	外面：ロクロ壺底。体下部ヘラズリ。 底部ヘザギズ。 内面：ロクロ變形。
2	銀器	素	—	<21>	—	石英・長石・白雲母 25TR5/2灰黄	白	外面：ナデ。 内面：ナデ。

8号住居跡（第33・34図）

位置 F7・8グリッドに位置している。規模 南北4.55m以上×東西4.0mの長方形の住居である。主軸方位 N-30°W。重複関係 出土遺物と土層の観察から7号住居跡より古く、1号溝跡より新しい。壁 壁高は33cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。一部擾乱を受ける。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を検出している。住居の中央部分は擾乱によって床面が壊されている。ピット 確認できなかった。炉 住居内東部においてわずかに焼土の範囲と硬化面を検出した。覆土 自然堆積である。覆土中層～下層にかけて焼土・炭化物が多量に確認されている。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土している。個体となるものは住居北端付近に集中している。所見 住居覆土中から多量の焼土・炭化物が確認されたことから焼失家屋であるとみられる。また、住居北西部で確認された炭化物は簇状の細い形状をしていた。出土遺物と住居の形態から、5世紀後葉に属する。



第33図 8号住居跡



第34圖 8号住居跡出土遺物

表 16 8号住居跡出土遺物観察表

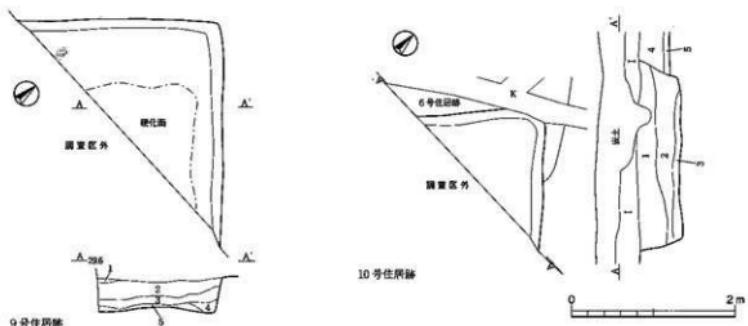
順位	種類	年	寸法	形	材質	外観		記号
						表面	裏面	
1	土器器	年	13.8	6.5	一	石英・黄石・白雲母 外: SYRS-5 明赤面 内: 7SYRS-4 にぶい褐色	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。
2	土器器	年	(14.0)	<4.7>	一	石英・白雲母・チャート SYRS-6 明赤面	やや良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。
3	土器器	年	9.5	4.8	一	石英・白雲母 10SYR-6 赤	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。
4	土器器	破	8.9	6.2	29	石英・白雲母 10SYR-6 赤	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。
5	土器器	壺	(9.6)	<2.6>	一	石英・黄石・白雲母 7SYRS-6 明赤	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。
6	土器器	壺	—	<14.2>	38	石英・黄石・白雲母 5SYR-6 紫	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。
7	土器器	壺	16.2	3L.1	72	石英・黄石・白雲母 外: 7SYRS-6 紫 内: 7SYRS-6 紫	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部上半ヘルミガキ。 下半ヘルケズリ底ヘルミガキ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。 底強度。
8	土器器	壺	17.6	25.7	7.0	石英・黄石・白雲母 外: 10SYR-6/3 にぶい青 内: 7SYRS-6 紫	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 上半ヘルナギ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。 底強度近ヘルミガキ。
9	土器器	瓶	(22.6)	29.0	6.6	石英・黄石・白雲母 7SYR-4 赤	良	外表面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。

9号住居跡（第35図）

位置 F 7グリッドに位置している。規模 南北 2.8 m以上×東西 2.55 m以上の。主軸方位 N - 50°W。壁 壁高は 35cmで、ほぼ直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面を確認している。ピット 確認できなかった。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層から下層にかけて出土したが、個体になるものは見受けられなかった。所見 出土遺物と住居の形態から、平安時代に属するとみられる。

10号住居跡（第35図）

位置 F 8グリッドに位置している。規模 南北 1.8 m以上×東西 1.6 m以上であるが、大部分は調査区外となる。重複関係 土層の観察から S I 06 より新しい。主軸方位 N - 40°W。壁 壁高は 52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラット。ピット 確認できなかった。炉・カマド 確認できなかつた。覆土 自然堆積である。遺物 確認することは出来なかつた。所見 出土遺物がみられなかつたため正確な帰属時期は不明だが、重複している6号住居跡が4世紀であることから、4世紀以降と考えられる。



第35図 9号住居跡・10号住居跡

9号住居跡土層剖面図(A)

- 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~2cmロームブロック中量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック中量。
- 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。

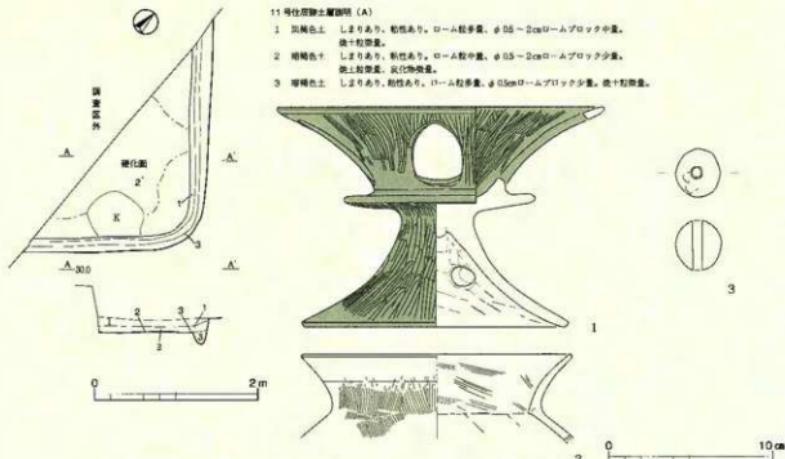
11号住居跡(第36図)

位置 D 9 グリッドに位置している。規模 南北 2.85 m 以上 × 東西 2.2 m 以上であるが大部分は調査区外となる。主軸方位 N - 42° - W。壁 壁高は 18 cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を確認している。壁周溝が巡る。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～覆土下層にかけて出土しているが、出土数は少ない。住居南東隅から器台と土玉が出土している。所見 出土遺物と住居の形態から 4 世紀前半に属するとみられる。

11号住居跡土層剖面図(A)

- 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~2cmロームブロック中量。
後十枚地盤。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~2cmロームブロック少量。
後上枚地盤。
- 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック多量。
後上枚地盤。

- 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。後十枚地盤。



第36図 11号住居跡・11号住居跡出土遺物

表17 11号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	寸法(cm)			施土	色調	焼成	成・変形技法の特徴	備考
			口径	底径	厚さ					
1	土器	器台	20.2	13.6	16.5	石高・海綿骨針	外：25YR5/6赤褐色 内：10YR5/6灰褐色	良	外縁：山鱗形ココナツ。底部ハラミガキ。 内部にV字形の溝孔4箇所。 内面：底部ハラミガキ。斜部ヘラナツ。 円形の溝孔3箇所。	部内面
2	土器	壺	(16.5)	<5.2>	—	石高・白素母	75YR6/6橙	良	外縁：口輪形タケハケ後、ヨコナツ。体部タハナ。 内面：口輪部ココハケ後、ヨコナツ。体部ヘラナツ。	以外部形
No. 種別 器種 施土 色調 焼成 成・変形技法の特徴 备考										
3	土製品	土玉	底径 2.8	底径 0.6	3.0	23.55	ナマによる整型。一方からの穿孔。孔を含む。			

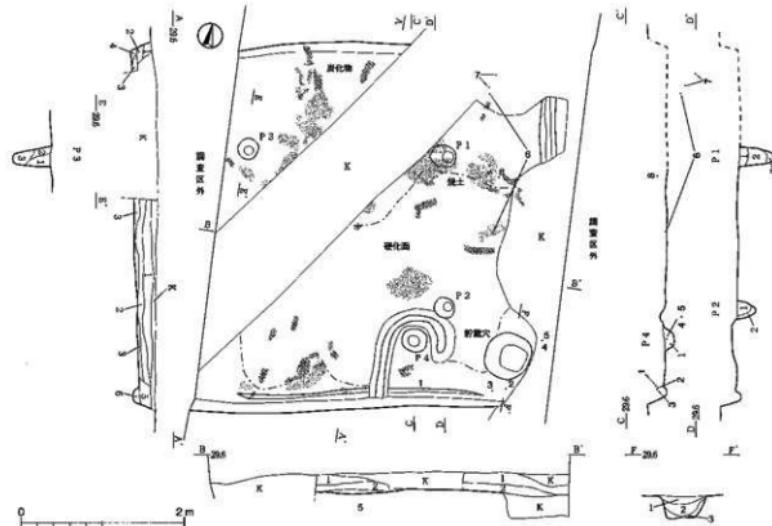
13号住居跡(第37・38図)

位置 C 9、D 9 グリッドに位置している。規模 南北 4.5 m × 東西 4.0 m 以上の方形になるとみられる。

主軸方位 N - 13° - W。壁 壁高は 27 cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで硬化面を

確認しているが、住居中央部分は大きく搅乱を受けている。出入り口とみられる住居南側では、ピットの周囲に周堤状の高まりを有している。 貯藏穴 住居南東隅で検出しており、 $54\text{cm} \times 56\text{cm}$ 、深さ 25cm を測る。 ピット 4 基確認している。 P 1: $26 \times 29\text{cm}$ 、深さ 42cm。 P 2: $24 \times 25\text{cm}$ 、深さ 22cm。 P 3: $25 \times 25\text{cm}$ 、深さ 46cm。 P 4: $28 \times 30\text{cm}$ 、深さ 11cm。 柱穴になるものは P 1～P 3 で、P 4 は出入り口ピットであるとみられる。

カマド・炉 確認できなかった。 覆土 自然堆積である。 覆土中層～下層にかけて焼土・炭化物が多量に確認されている。 遺物 南壁から東壁に沿うような形で遺物が出土している。また、カマドがあったとみられる東壁付近からは、土製の模造鏡（8）が覆土の下層から出土している。 所見 覆土中から焼土・炭化材を多量に確認したことから焼失家屋とみられ、出土遺物と住居の形態から 5 世紀後葉に属するとみられる。



13号住居跡土層説明 (A・B)

- 褐色色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。
灰土質含む、炭化物微量。
- 深褐色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～2cmロームブロック少量。
灰土質含む、炭化物微量。
- 褐褐色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。
灰土質含む、炭化物微量。
- 褐褐色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～2cmロームブロック少量。
灰土質含む、炭化物微量。
- 深褐色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～2cmロームブロック少量。
灰土質含む、炭化物微量。
- 褐褐色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～2cmロームブロック少量。

13号住居跡P 4 土層説明 (C)

- 褐色色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05cmロームブロック微量。

1号住居跡P 1 土層説明 (D)

- 褐色色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05cmロームブロック微量。
灰土質含む。
- 褐色色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。
- 褐色色土 しまりあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～2cmロームブロック少量。

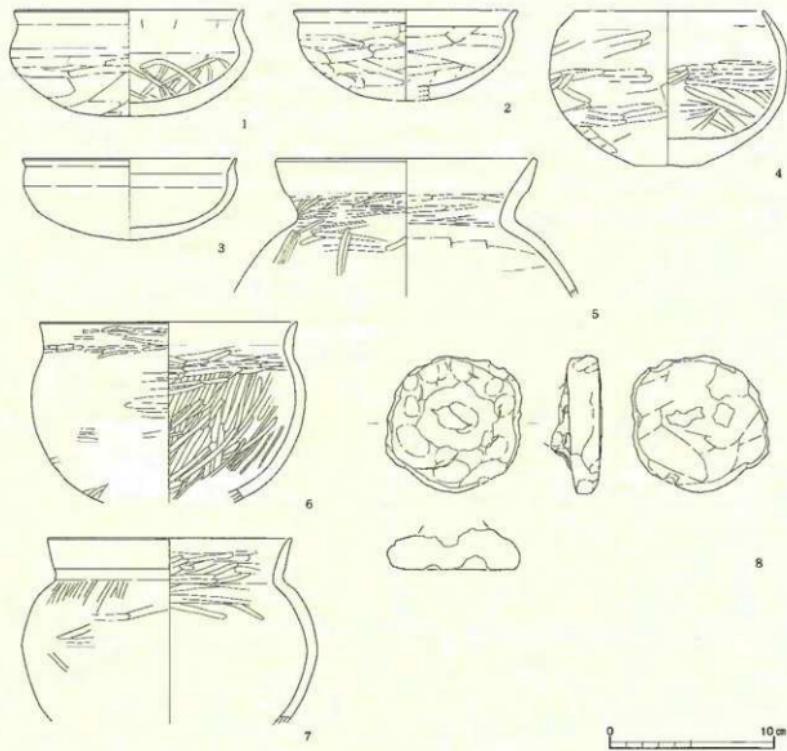
1号住居跡P 2 土層説明 (E)

- 褐色色土 しまりややあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05cmロームブロック少量。
- 褐色色土 しまりややあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。
- 褐色色土 しまりややあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。

1号住居跡P 3 土層説明 (F)

- 褐色色土 しまりややあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05cmロームブロック少量。
灰土質含む。
- 褐色色土 しまりややあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。
灰土質含む。
- 褐色色土 しまりややあり、粒性あり。ローム較多量。φ 05～1cmロームブロック少量。炭化物微量。

第37図 13号住居跡



第38図 13号住居跡出土遺物

表18 13号住居跡出土遺物観察表

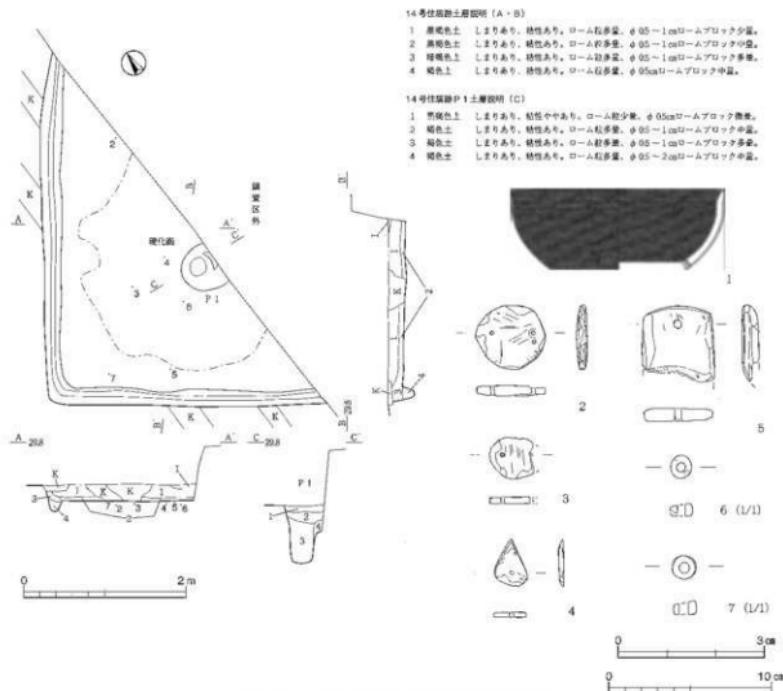
No.	種別	器種	重量(g)			胎土	色調	焼成	成・変形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	土師器	壺	138	65	—	石英・長石・白雲母	SYR5/6明黄褐色	丸	外腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ後、ヘラナギ。 内腹：口縁部ヨコナギ・ヘラナギ。体部ヘラミガキ。	
2	土師器	壺	(138)	<55>	—	石英・長石・白雲母	SYR4/6赤褐色	丸	外腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ後、ヘラナギ。 内腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラナギ。	
3	土師器	壺	132	50	—	石英・長石・白雲母	外：10YR4/2灰黄褐色 内：STY4/6赤褐色	やや丸	外腹：口縁部ヨコナギ。体部表面漆感。 内腹：口縁部ヨコナギ。体部表面漆感。 外腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。	
4	土師器	瓶	11.6	94	4.0	石英・長石・白雲母	10R6/6明黄褐色	丸	外腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内腹：口縁部ナギ。体部ヘラミガキ。	
5	土師器	壺	15.6	<8.2>	—	石英・長石・白雲母		やや丸	外腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内腹：口縁部ヨコナギ・ヘラミガキ。体部ヘラナギ。	
6	土師器	壺	(15.6)	<11.1>	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR4/3褐色 内：5YR6/6褐色	丸	外腹：口縁部・体部ヘラミガキ。 内腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。	
7	土師器	壺	(14.8)	<11.5>	—	石英・長石・白雲母	外：10YR6/4に近い黄褐色 内：SYR5/6褐色	丸	外腹：口縁部ヨコナギ。体部ヘラミガキ。 内腹：口縁部ナギ。体部ヘラミガキ。	

No.	種別	器種	重量(g)			重さ(g)	成・変形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
8	土製品	陶瓦鏡	8.3	8.1	1.8	168.93	無欠損。鏡面はヘラナギによる乾形。文様面は指ナギによる乾形。石英・長石・白雲母を含む。	

14号住居跡（第39図）

位置 B 9・C 9 グリッドに位置している。規模 南北 4.3 m 以上、東西 3.5 m 以上の方形とみられる。主軸方位 N・35°・E。壁 壁高は 20cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで硬化面を確認しているが、一部搅乱を受ける ピット 1 確認している。P 1 : 56cm × 50cm 以上、深さ 70cm を測る。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面上直上にかけて出土しているが、土器は小片がほとんどで、個体になるものはない。床面上からは石製模造品が 4 点出土している。

所見 出土遺物と住居の形態から 5世紀後葉に属するとみられる。



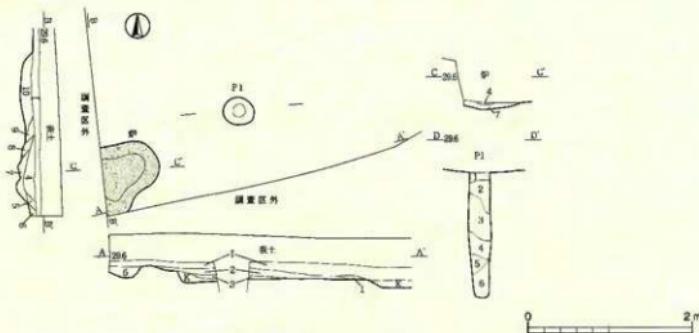
第39図 14号住居跡・14号住居跡出土遺物

表19 14号住居跡出土遺物観察表

No.	種類	名前	(130)	<45>	—	石英・白雲母	外: SYR4/8赤褐 内: 2SYB4/6赤褐	直	表面 外側: 口縁部ヨコナギ。全体ハラケヅリ 後: ハナツ。 内側: 口縁部ヨコナギ。全体ハラナツア	直ち
2	石製品	双孔円盤	38	42	0.7	14.45	全面研磨。一方向からの穿孔。			1箇所未穿孔。
3	石製品	双孔円盤	21	<27>	0.4	491	全面研磨。一方向からの穿孔。			1箇所未穿孔。
4	石製品	卵形模造品	2.9	21	0.3	231	全面研磨。一方向からの穿孔。			
5	石製品	卵形模造品	<47>	45	1.6	30.42	全面研磨。一方向からの穿孔。			
6	石製品	白玉	直径 0.5	孔径 0.15	0.25	0.10	全面研磨。一方向からの穿孔。			
7	石製品	白玉	直径 0.5	孔径 0.2	0.29	0.08	全面研磨。一方向からの穿孔。			

15号住居跡（第40図）

位置 B9・C9グリッドに位置している。規模不明。主軸方位不明。壁不明。床 硬化面等を確認することは出来なかったが、調査区壁面において一部硬化している層を確認している。ピット 1 基確認している。P1 : 34cm×38cm、深さ153cmを測る。炉 62×82cm、深さ10cmを測る。覆土 自然堆積である。遺物 確認できなかった。所見 遺物の出土もなく、他の遺構との重複関係も認められないため、帰属時期は不明である。



第40図 15号住居跡

15号住居跡土質説明 (A~D)	
1 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
2 水成土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
3 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。地上的湿度。地表乾燥。
4 黄色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
5 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
6 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
7 塗褐色土	しまりあり、粘性やや低い。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
8 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
9 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。 地上の湿度。硬化面。
10 塗褐色土	しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。

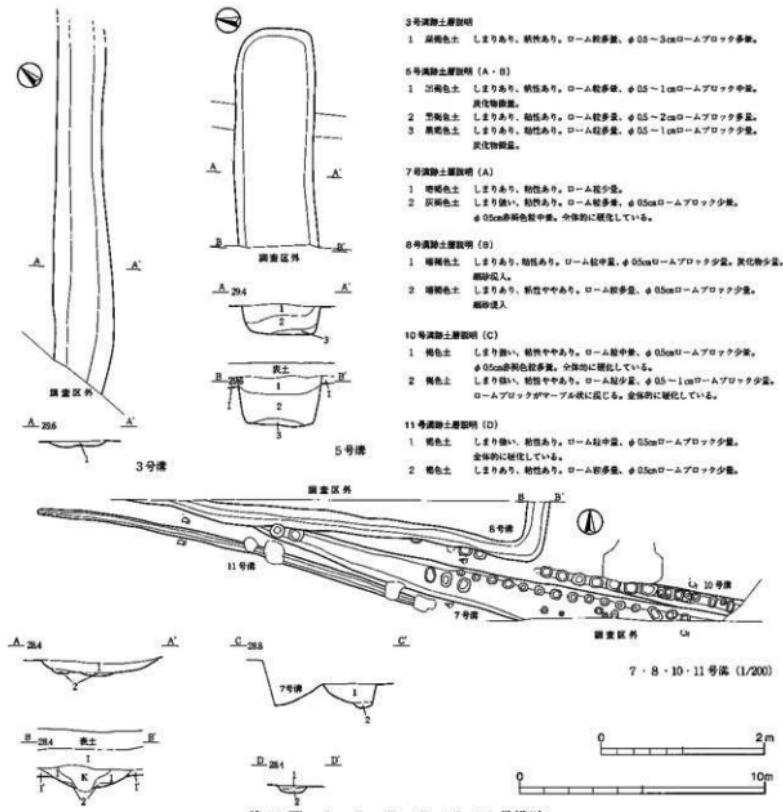
第2節 溝跡（第41～44図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認された溝跡は16条である。位置・輪方位などの詳細は一覧表にて記載した。調査区幅の制約から遺構の全体像が把握できないものが多く、2・4号溝に関しては土坑である可能性が高い。また、溝の多くは調査区の北側で確認されており、そのほとんどは中世に帰属するものである。遺物の掲載に関しては基本的に遺構に帰属するものを主としているが、流れ込みとみられる遺物の中からも特徴的なものは掲載対象としている。

表20 溝跡一覧表

溝跡名	位置 グリッド	輪方位	深度 (m)		遺物	時期 (推定)	備考
			上端幅	下端幅			
1号溝	F7	N - 88° - W	1.2	0.95	0.2	なし	不明
2号溝	F5	N - 18° - E	0.78	0.26	0.14	縄文土器・骨	縄文時代後期～中世 ？坑か？
3号溝	D9	N - 50° - E	0.75	0.4	0.07	縄文土器・上部器、 陶器器、泥面土	近世
4号溝	C9	N - 80° - W	1.6	1.2	0.61	縄文土器	縄文時代中期 ？坑か？
5号溝	B9	N - 80° - E	0.97	0.78	0.43	縄文土器・十脚器、 泥面土	平安

6号溝	B 9	N - 78° - E	1.5	0.45	0.5	埴輪上器・土偶器・ 須恵器	平安	
7号溝	A 10 - 11	N - 74° - W	1.65	1.25	0.17	埴輪上器・かわらけ・ 須恵器	15 ~ 16世紀	底面にビットを多数確認し、覆土は全体的に硬化。道路跡であった可能性が考えられる。
8号溝	A 10 - 11	N - 82° - W	0.9	0.42	0.22	埴輪上器 (天目茶碗)	15 ~ 16世紀	
9号溝	A 8 - 9	N - 72° - E	2.17	0.73	0.4	埴輪上器・麻縄石等・ 須恵器?・かわらけ・鐵・鉢形陶器・ 須恵器	15 ~ 16世紀	覆土中に黒色土の硬化面を確認しており、道路跡と考えられる。
10号溝	A 11	N - 79° - W	0.5	0.4	0.31	なし	15 ~ 16世紀?	道路跡のみられる? 号溝と同様のビットが確認されており、こちらは道路跡に付随する遺構と考えられる。
11号溝	A 10	N - 76° - W	0.43	0.18	0.19	埴輪土器・石皿	中世?	
12号溝	A 7 - 8	N - 78° - E	2.32	0.28	0.95	埴輪土器・土師器・ 須恵器・かわらけ・側 茶葉器 (?)・須恵器・ 須恵器	15 ~ 16世紀	廻路、底面の幅は狭く、断面形状を呈す。北西方から伸び、U字状に折れ曲がり北東方面に延びている。自然の谷地形を利用しているとみられる。
13号溝	A 6 - 7	N - 71° - W	(3.9)	1.28	1.67	埴輪土器・土師垂 鋸?・土器・鏡・須 恵器・骨	15 ~ 16世紀	廻路とみられる。12号溝と違い、裏塗後に掘り込まれておらず、底面は掘がある。1号井戸跡がある。12号溝と重複しており、1号井戸跡が新しい。12号溝と同様に、自然の谷地形を利用しているとみられる。
14号溝	A 8 - 9	N - 68° - E	0.65	0.33	0.18	埴輪土器・須恵器・ 須恵器	15 ~ 16世紀	傾斜面を確認。道路跡と考えられる9号溝跡に付随する遺構とみられる。
15号溝	A 4 - 5	N - 80° - W	(1.83)	(0.7)	1.35	埴輪土器・須恵器	15 ~ 16世紀?	覆土中に硬化面を確認。
16号溝	A 5	N - 6° - W	2.05	0.4	0.55	埴輪土器・土偶	中世?	

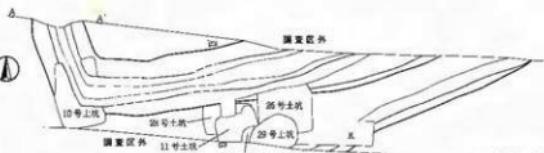


第41図 3・5・7・8・10・11号溝跡



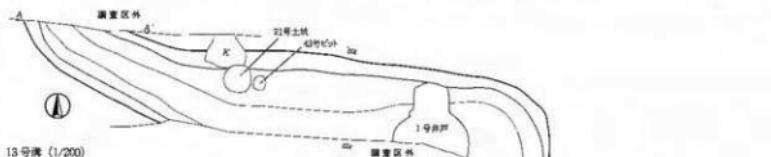
9-14号溝土層剖面図 (A)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。変化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 3 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 暗赤土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 5 黑褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。變化物微量。
鐵筋柱として埋設されている箇所。
- 6 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。表面色較少量。
- 7 暗赤土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cm²~1cm²ロームブロック少量。
- 8 固褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。變化物微量。
- 9 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。變化物微量。
鉄筋柱少量。
- 10 緩褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cmロームブロック多量。
- 11 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。赤褐色鉄筋柱。
- 12 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~2cmロームブロック多量。表面色較少量。

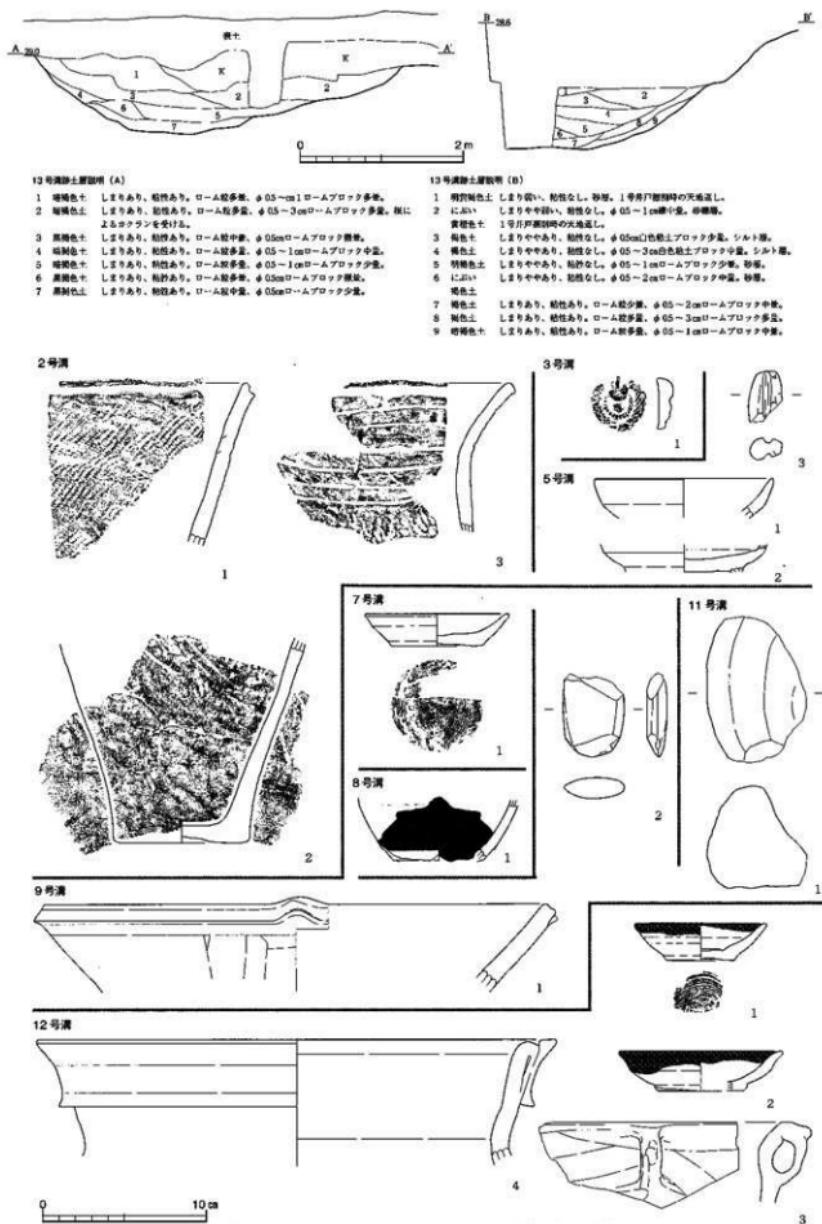


12号溝土層剖面図 (A)

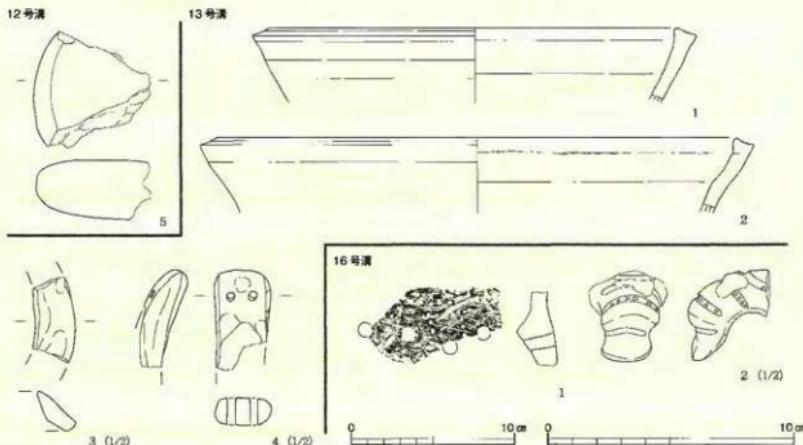
- 1 塗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。
- 3 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 黑褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 暗赤土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 6 暗赤土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cmロームブロック中量。
- 7 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cmロームブロック中量。
- 8 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 9 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 10 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 11 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5~1cm²ロームブロック中量。
- 12 塗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大粒。φ 0.5cm²~1cm²ロームブロック多量。
- 13 暗赤土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大粒。φ 0.5~1cmロームブロック多量。
- 14 黑褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大粒。φ 0.5~1cmロームブロック多量。



第42図 9-12~14号溝跡



第43図 2・3・5・7～9・11・12号溝跡出土遺物



第44図 12・13・16号溝跡出土遺物

表21 2号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	重量(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考	
			口径	高さ	底径						
1	縄文土器	深鉢	—	<10.0>	—	石英・白雲母・白色粒 内: 10YR5/2灰黄褐 外: 10YR7/4に赤い質	灰	外面: 口部断面に芯線を並らす。修飾し又 裏面織文を施す。 内面: ナガ。	周之内I		
2	縄文土器	深鉢	—	<12.6>	8.2	石英・角閃石・白雲母 海綿骨針・赤色粒	SYR6/5褐	やや白	外面: ミガキ。斜位の全縁を2余縫目。 内面: 烧いてガキ。	周之内II	
3	縄文土器	深鉢	—	<9.5>	—	石英・海綿骨針・赤色 粒	外: SYR6/5褐 内: 7SYR3/1灰褐	灰	外面: 平行芯線を造らし、列立状の状況 を示す。 内面: 烧いてガキ。	加賀利 H2	

表22 3号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	重量(cm)			重さ(g)	成・整形技法の特徴ほか			備考
			長径	幅	厚さ					
1	土製品	圓筒子	直径3.5	—	0.9	6.87	面上に粒上を充填して整形。表面に指輪あり。文様は鳥とみられる。 石英を含む。			

表23 5号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	重量(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	土製品	皿	(11.0)	<2.5>	—	石英・白雲母	25YR6/2暗灰青	良	外面: ロクロ彫形。 内面: ロクロ彫形。	
2	須恵器	高台杯	—	<1.7>	—	石英・長石	NS/灰	良	外面: ロクロ彫形。 内面: ロクロ彫形。	
No.	種別	器種	重量(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴ほか	備考
3	土製品	土錐	<3.1>	2.1	1.3	7.48	ナデによる彫形。石英・白色粒を含む。			

表24 7号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	重量(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	土器唇上器	かわらけ	8.9	2.0	5.7	石英・白色粒・赤色粒	SYR6/5褐	良	外面: ロクロ彫形。底部凹軸弁切り。 内面: ロクロ彫形。ナガ。	

表25 8号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	重量(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	陶器	基碗	—	<4.0>	—	白色粒	25YR8/2灰白	堅密	外面: ロクロ彫形。底軸弁切。内面: ロクロ彫形。底軸。	天日

表26 9号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	重量(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	陶器	擂鉢	(3.8)	<5.4>	—	石英・長石	10YR5/2灰黄褐	堅密	外面: 円錐部ヨコナギ。口唇部に指による押印。体部ヘラナダ。	

2	石製品	磨石	<5.2>	37	1.3	38.75	基部欠損。結晶片岩を使用。
---	-----	----	-------	----	-----	-------	---------------

表 27 11号溝跡出土遺物観察表

1	石製品	石頭	<5.0>	<6.0>	6.2	305.45	表面1面使用。多孔質安山岩を使用。
---	-----	----	-------	-------	-----	--------	-------------------

表 28 12号溝跡出土遺物観察表

1	土師質土器	灯明皿	(8.2)	2.3	42	白色釉	75YRS/6 横	良 外面: ロクロ盤形。口部削邊。底部削 底切り。 内面: ロクロ盤形。口部削邊。
2	土師質土器	灯明皿	(10.0)	24	52	白色釉・赤色釉	75YRS/6 横	良 外面: ロクロ盤形。口部削邊。底部削 底切り。 内面: ロクロ盤形。口部削邊。
3	土師質土器	瓶	—	<5.3>	—	石英・白磁母・赤色釉	外: 10YR3/1 黄褐色 内: 10YR5/6 橙褐色	良 外面: ナデ。スヌ付蓋 内面: ナデ。
4	陶器	瓶	(32.0)	<7.1>	—	石英・黄石	10YR4/2 橙黃褐色	鑑定 外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。
5	石製品	磨石	<7.1>	<7.2>	35	215.05	表面1面使用。安山岩。	常滑

表 29 13号溝跡出土遺物観察表

1	土師質土器	鍋	(28.0)	<4.6>	—	石英・白磁母	外: 75YRS/3 黄 内: 75YRS/6 明褐色	良 外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。
2	土師質土器	鍋	(32.0)	<4.6>	—	石英・白磁母	75YRS/6 明褐色	良 外面: ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。
3	土製品	貝殻形	<3.5>	1.6	0.7	5.79	外面ナデ。内面ケズリ。石英・赤色釉を含む。	
4	土製品	貝殻形	<4.0>	2.3	1.1	9.17	手縫織土製品の柄とみられる。ナデによる盤形。穿孔2箇所。石英・白磁母を含む。	

表 30 16号溝跡出土遺物観察表

1	縄文土器	台付鉢	—	<4.5>	—	石英・長石	10YRS/3 にぶい黄褐色	良 外面: 濃い条線を施文化後、剥離痕を加 える。穿孔は一方向から行われ。4ヶ所 発見している。 内面: ナデ。
2	土製品	土偶	<4.6>	25	1.8	23.97	ミミズク型土偶輪郭。ナデによる整形後、辺縁を施し、剥離痕を加える。 石英・長石・白磁母を含む。	安行 1

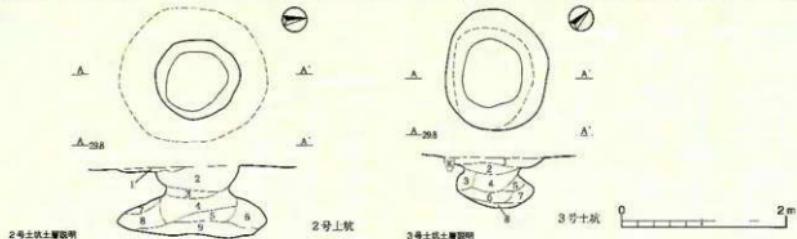
第3節 土坑（第45～52図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認された土坑は27基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。確認された土坑のほとんどは縄文時代に属する土坑で、分布域に若干の差がみられる。調査区の南側～中央部にかけては袋状・フラスコ状土坑がみられ、分布状況は密ではない。調査区の北側に移ると、12号溝（堀）の西側で遺構が多く確認され、炉跡とみられる浅い土坑や検出面から底面まで15m以上を測る円筒形の土坑など、遺構数は増加し、分布状況は密となる。15・21・25号土坑はいずれも円筒形を呈す土坑で、15号土坑は深さが2mを超える。25号土坑は10号土坑に一部削平されていたものの、覆土中から注口土器と大量の貝が確認されたことが注目される。なお、貝の詳細は第7章にて記載する。

古墳時代・奈良・平安時代の土坑はほぼなく、中世の土坑が12号溝の周囲で確認されるに留まる。中でも12号溝に隣接する形で確認された11号土坑は馬が埋葬された土坑で、ほぼ全身が出土している。

表31 上坑一覧表

遺構名 (グリッド)	位置 (グリッド)	鉛方位	実積 (m ³)	深さ (m)	平面 形態	遺物	時期	備考
1号土坑 F 10 N - 77° - W 1.66 × 1.28 0.32 方形 縄文土器・土器 器・武器 古墳～奈良 2号住居跡と並んで、1号土坑が新しいと判断される。								
2号土坑 F 9 N - 5° - E 1.75 × 1.63 0.87 円形 縄文土器 縄文時代中期中葉 痕状土坑。								
3号土坑 F 9 N - 44° - W 1.25 × 0.97 0.62 円形 縄文土器 縄文時代中期中葉 痕状土坑。								
5号土坑 F 9 - 10 N - 84° - E 1.63 × (0.73) 0.69 不整形 縄文土器 (鉢片) 不明								
6号土坑 F 6 - 7 N - 85° - E 1.10 × (0.47) 0.69 円形 縄文土器 縄文時代中期中葉～後葉 痕状土坑。カクランによって遺構の半分は消失している。								
7号土坑 E 10 N - 7° - W 1.95 × (0.85) 0.66 円形 なし 小明								
8号土坑 E 9 N - 58° - W 1.0 × 0.9 0.32 円形 縄文土器 (鉢片) 不明								
9号土坑 B 9 N - 8° - W 2.5 × (1.6) 0.95 円形 縄文土器 縄文時代中期中葉、 後期後葉								
10号土坑 A 8 N - 5° - W 2.79 × 1.8 0.64 方形 なし 15～16世紀?								
11号土坑 A 8 N - 77° - E 1.75 × 1.18 0.68 方形 かわらけ・鏡、 馬骨 15～16世紀								
12号土坑 A 6 N - 20° - E 1.16 × 1.14 1.11 円形 縄文土器・骨、 獸骨・金舟 縄文時代後期前葉								
13号土坑 A 6 N - 21° - W 1.2 × 1.11 0.42 円形 縄文土器 縄文時代後期前葉、 後葉								
14号土坑 A 5 N - 66° - E 1.43 × 0.94 0.73 円形 縄文土器 縄文時代後期前葉								
15号土坑 A 5 N - 85° - E 1.2 × 1.0 2.25 円形 縄文土器 縄文時代後期前葉 大型土坑。16号土坑と重複。15号土坑が新しい。								
16号土坑 A 5 N - 68° - W 1.62 × (1.19) 0.83 小整形 縄文土器 縄文時代後期前葉 15号土坑と重複。16号土坑が古い。								
18号土坑 A 6 N - 84° - W 0.96 × 0.8 0.28 円形 縄文土器 縄文時代後期前葉?								
19号土坑 A 5 N - 6° - W 1.18 × 1.0 0.34 円形 縄文土器 縄文時代後期								
20号土坑 A 6 N - 40° - W 0.97 × 0.82 0.22 円形 縄文土器 縄文時代後期								
21号土坑 A 7 N - 8° - E 1.16 × 1.11 1.53 円形 縄文土器 縄文時代後期後葉～ 後期前葉 大型土坑。遺物少量。								
22号土坑 A 5 N - 67° - W 1.32 × 0.97 0.86 円形 縄文土器 縄文時代後期中葉								
23号土坑 A 5 N - 84° - W 1.18 × (0.63) 0.55 (円形) 縄文土器 縄文時代後期前葉								
24号土坑 A 6 N - 8° - E 2.0 × 0.9 1.51 深掘円 縄文土器 縄文時代後期 陥入穴。別遺構(ピット?)と重複か?								
25号土坑 A 8 (不明) (0.84) × 0.79 0.63 円形 縄文土器・注口 土器・輪輪・貝・ 獸骨・魚骨 縄文時代後期前葉 人面土坑? 貝が人面に堆積した部分の直上にJIS 標準部と注口部が欠損した注口土器が正位置で 出土。貝輪は底面衝上から出土。10号土坑と 重複。26号土坑が古いと判断される。								
26号土坑 A 8 N - 85° - E 2.22 × (1.93) 0.49 方形 なし 15後半～16世紀 29号土坑と重複。26号土坑が古いと判断され れる。ピット2基を確認。底部で一部砂質地 盤を剥離しているが、部分的である。								
27号土坑 A 8 (不明) (0.7) × (0.34) 0.16 (円形) 縄文土器・骨角 器 縄文時代後期後葉～ 後期前葉 11・29号土坑と重複。両土坑より古いと判断 される。								
28号土坑 A 8 N - 86° - E 1.98 × (1.2) 0.2 方形 なし 15～16世紀? 11号土坑と重複。11号土坑より古い。								
29号土坑 A 8 N - 57° - E 1.85 × (1.8) 1.43 方形 縄文土器 15～16世紀? 地下式坑。大井戸は当面。多くの縄文土器は 流れ込みである。26号土坑と重複。29号土坑が新しいと判断される。								



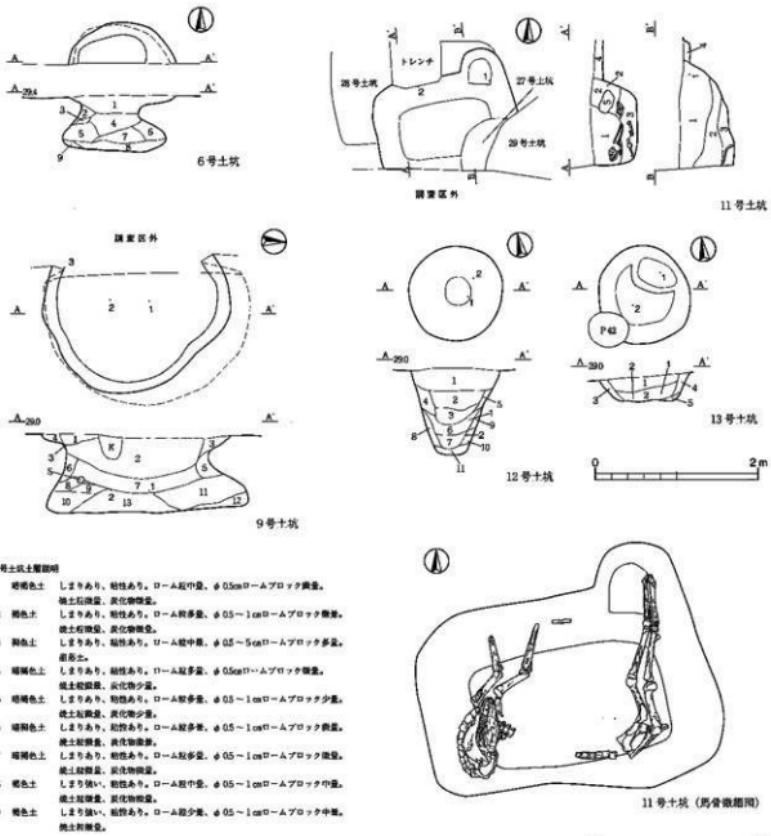
2号土坑土器発明

- 黒褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～1cmロームブロック少量。
後半盛り込み。
- 黒褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物少量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～1cmロームブロック少量。粘土
少し多く、炭化物少量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘多量。φ 0.5～2cmロームブロック少量。
炭化物微量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～1cmロームブロック少量。
炭化物微量。
- 褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5cmロームブロック微量。

3号土坑土器発明

- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。炭化物微量。
- 黒褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～1cmロームブロック微量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。炭化物微量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～1cmロームブロック微量。
炭化物微量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～2cmロームブロック中量。
- 暗褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～1cmロームブロック微量。
- 褐色土 しまりあり。粘性あり。ローム粘少量。φ 0.5～2cmロームブロック中量。

第45図 2・3号土坑



9号土坑断面図 (1~4層部、5~13層部各)

- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック微量。
粘土鉱物質、炭化物微量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック微量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5~5cmロームブロック多量。
直形。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5cmロームブロック微量。
粘土鉱物質、炭化物微量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック微量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック微量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック微量。
炭化物微量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5~1cmロームブロック中量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状少量。φ 0.5~1cmロームブロック中量。
炭化物微量。

- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~2cmロームブロック微量。
炭化物微量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5~1cmロームブロック微量。

11号土坑断面図 (A-A')

- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~3cmロームブロック多量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~2cmロームブロック多量。
φ 0.5cm白色粘土ブロック少量。
- 褐色色土 しまりややあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~2cmロームブロック多量。
- 褐色色土 しまりややあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~2cmロームブロック中量。
φ 0.5~1cm白色粘土ブロック量。

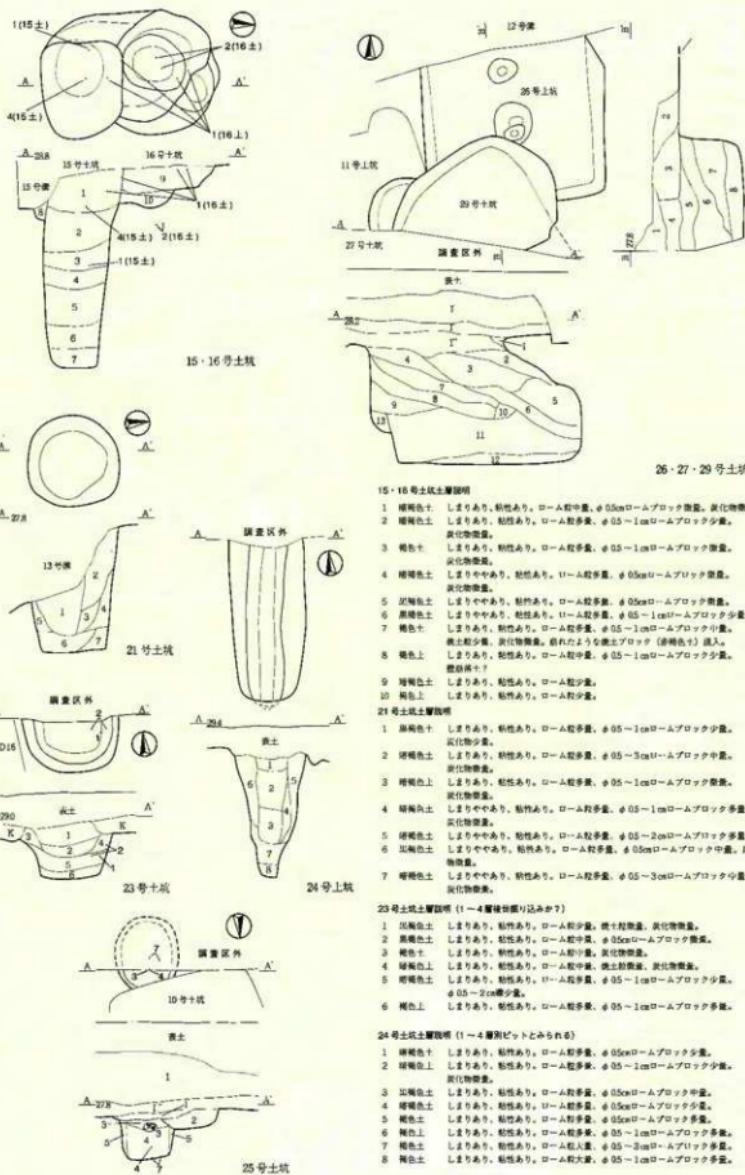
12号土坑断面図

- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック少量。
炭化物微量。黒色斑点。
- 黑褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 黑褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状少量。黒色。只見入。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。
- 黑褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。只見入。
- 黑褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 黑褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 黑褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック少量。只見入。
- 褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。

13号土坑断面図

- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状中層。φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 褐色色土 しまりややあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5cmロームブロック中量。
- 褐色色土 しまりややあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 暗褐色色土 しまりあり。粘性あり。ローム状多量。φ 0.5cmロームブロック少量。

第46図 6・9・11~13号土坑



第47図 15・16・21・23～27・29号土坑

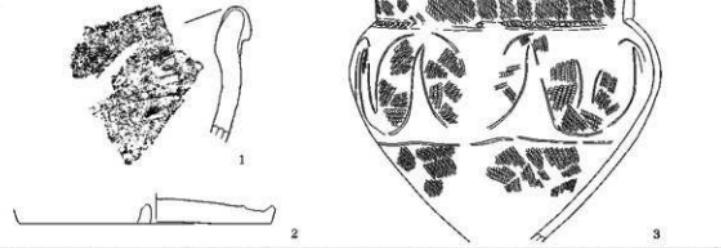
25号土坑土壤剖面

- 1 黄色土 しまりあり、粒状あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック多量。
- 2 墓葬色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 3 黑褐色土 しまりややカリ。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 4 黑褐色土 しまりややカリ。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 5 黑褐色土 しまりややカリ。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック中量。

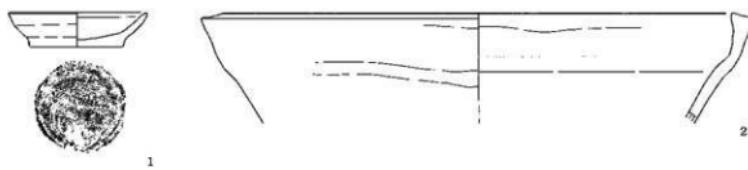
26・27・29号土坑土壤剖面(B)

- 1 墓葬色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~3cmロームブロック中量。
- 2 黄色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~1cmロームブロック少量。
- 3 黑褐色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~2cmロームブロック中量。
- 4 黑褐色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~2cmロームブロック中量。
- 5 黑褐色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~3cmロームブロック少量。
- 6 黑褐色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~3cmロームブロック多量。
- 7 黑褐色土 しまりあり。粒状あり。ローム粒多量。φ 05~5cmロームブロック少量。

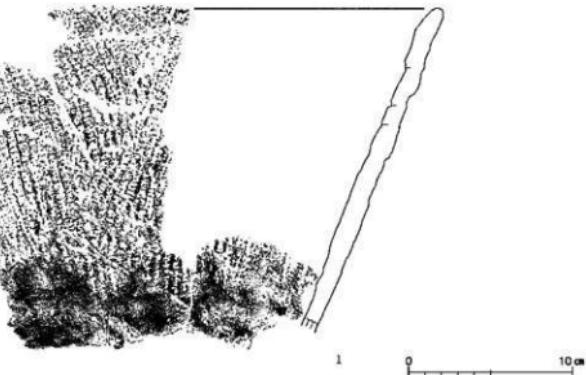
9号土坑



11号土坑

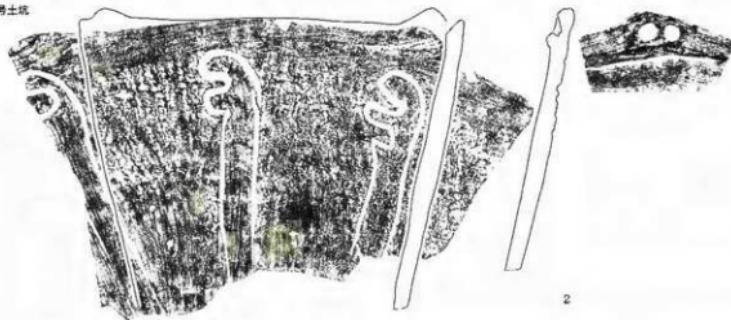


12号土坑

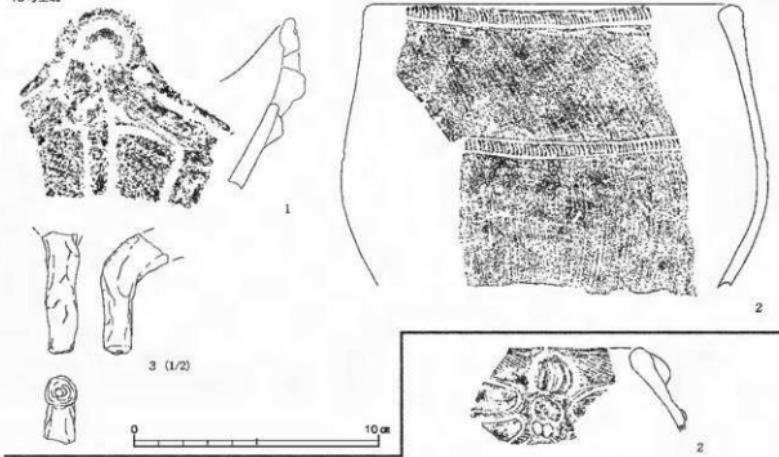


第48図 9・11・12号土坑出土遺物

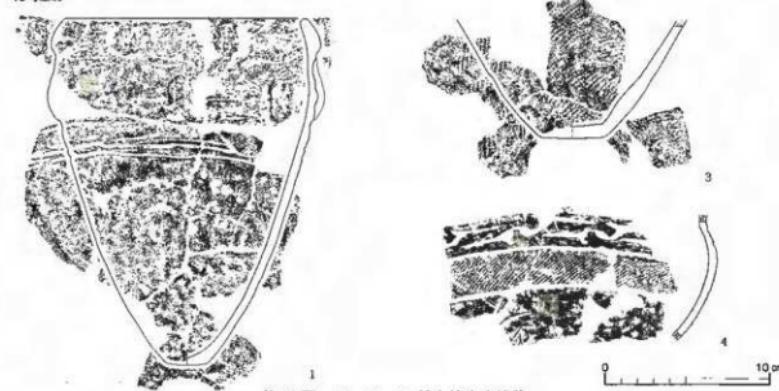
12号土坑



13号土坑



15号土坑

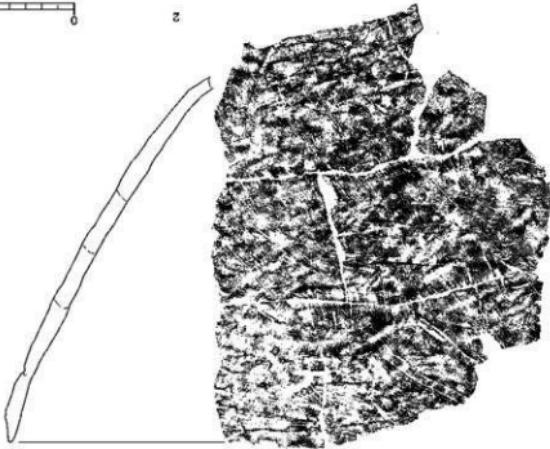


第49図 12・13・15号土坑出土遺物

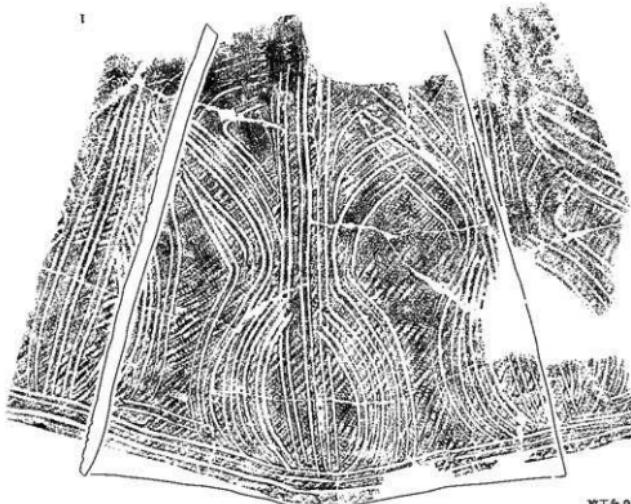
第50圖 15·16號土坑出土遺物



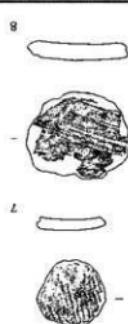
2



1

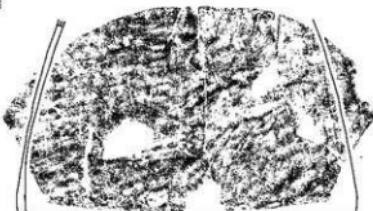


16號土坑



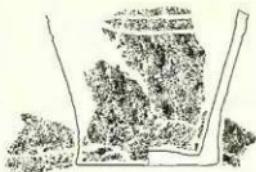
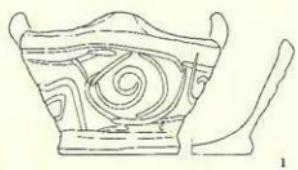
5

9



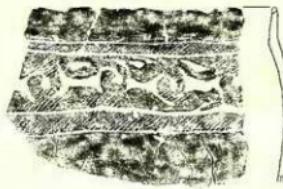
15號土坑

23号土坑

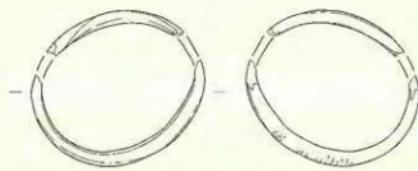
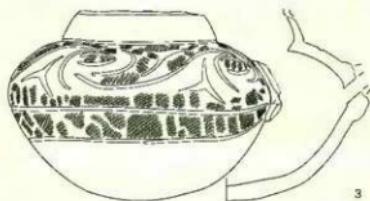
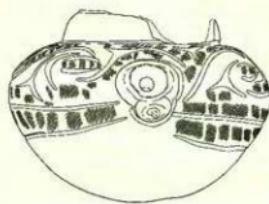


z

25号土坑



0 3cm



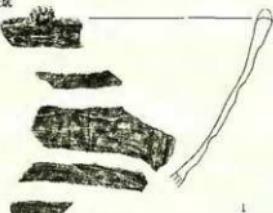
0 10cm

0 10cm

26号土坑

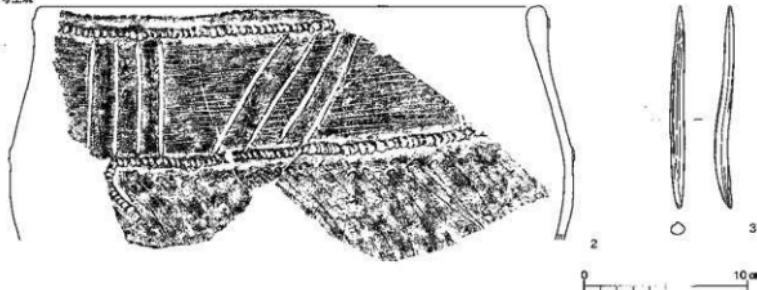


27号土坑



第51圖 23·25~27號土坑出土遺物

27号土坑



第52図 27号土坑出土遺物

表32 9号土坑出土遺物観察表

土器種類	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
1 純文土器	深鉢	—	<6.4>	—	石英・長石・白雲母・金雲母	10YR3/3黒褐色	やや良	外側：口縁部に陳香貼付。 内面：ミガキ。
2 純文土器	深鉢	—	<6.5>	154	石英・長石・白雲母・金雲母	10TR4/2灰黃褐色	良	外側：文様帯を区隔するための施塗が施す。 内面：ナデ。
3 純文土器	楕円土器	(14.0)	<20.9>	—	石英・長石・白雲母	7SYR3/2黒褐色	良	外側：口縁部穿孔。体部に及し单範模文を使用したミ澤模光焼絞繩文を施す。口縁部と底部には刻突表渦が施す。 内面：ミガキ。

表33 11号土坑出土遺物観察表

土器種類	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
1 土師質土器	かわらけ	8.5	21	57	金雲母・白色粒・赤色粒	外：SYR6/6程 内：7SYR7/6程	良	外側：クロコ彫形。底部細軸み切り。 内面：クロコ彫形。
2 土師質土器	鍋	(34.0)	<58>	—	白色粒・赤色粒	SYR5/6程	良	外側：口縁部ヨコナナ。体部スス付番。 内面：口縁部ヨコナナ。

表34 12号土坑出土遺物観察表

土器種類	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
1 純文土器	深鉢	—	<20.0>	—	石英・長石・白雲母・白色粒	外：SYR4/4に近い赤褐色 内：7SYR4/2灰褐色	良	外側：R L 単範模文を施す。体部下半ケメリズ。 内面：想い出テ。
2 純文土器	深鉢	(23.6)	<18.3>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	10YR5/3に近い黄褐色	良	外側：U字形の施塗模文を施す。 内面：ミガキ。U縁部に3対あるとみられる火起の内側には剥落表現が施される。

表35 13号土坑出土遺物観察表

土器種類	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
1 純文土器	深鉢	—	<5.5>	—	石英・長石・白雲母	外：7SYR3/1 黒褐色 内：10YR5/4 有明赤褐色	良	外側：施縫によって支撑帯を区画。R L 単範模文を施す。口縁部に施帶を貼付。内形の前向表渦と穿孔を施す。 内面：ミガキ。
2 純文土器	深鉢	(22.0)	<17.3>	—	石英・長石・白雲母・黑雲母	外：7SYR5/6 明褐色 内：7SYR5/4に近い黄褐色	良	外側：深い斜形の施縫を施す。口縁部と体部に剥落表渦を施す。 内面：ミガキ。
3 土製品 不明 <5.0> 12 16 11.87 粘土を棒状にして折り曲げる。動物あるいは土偶の手か？先端に穿孔あり。石英・白色粒を含む。								

表36 15号土坑出土遺物観察表

土器種類	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法
1 純文土器	体	(14.6)	21.4	26	石英・白雲母・白色粒	外：10YR6/1 桃紅 内：10YR6/4に近い黄褐色	やや良	外側：執土瘤が発達せでない。体部に横位の施縫があるも、全体的に唇面漆成。 内面：唇面漆成。
2 純文土器	深鉢	—	<5.2>	—	石英・海綿骨針・白雲母	10YR5/4に近い黄褐色	良	外側：U縁部に粘土瘤を貼付、隆起と縫合で沈縫を施し文様帯を区画。 内面：ナデ。

3	縄文土器	深鉢	—	<7.5>	3.8	石英・白雲母 内: 7SYR6/6 程	外: 10YRS/3 に ぶい青 内: 7SYR6/6 程	外面: 体部下部まで L.R 単脚鉗文を施す。 内面: ナギ。	大柄
4	縄文土器	往々土器	—	<7.7>	—	石英・白雲母 内: 7SYR6/6 程	25Y4/1 黒灰	外面: 沈縫により支撑棒を仄聞。ヒ部は 上部三爻。下部は L.R 単脚鉗文を施す。 内面: ミガキ。	大柄 b 2
5	縄文土器	製造土器	(20.5)	<12.0>	—	石英・長石・白雲母 内: 7SYR6/6 程	7SYR6/6 程	外面: 口縁部ケズリ調整。体部ケズリ。 内面: ナギ。	安行 3b
6	縄文土器	製造土器	—	<9.3>	—	石英・長石・白雲母 内: 7SYR6/6 程	30YR6/4 に ぶい黄橙	外面: 口縁部ケズリ調整。体部ケズリ。 内面: ナギ。	安行 3b
No.	種別	器種		法量 (cm)	重さ (g)		成・整形技法の特徴ほか		備考
			底径 身高 底径	幅 高 底径					
7	土製品	円盤	42	42	0.7	15.0t	石英・角閃石を含む。		
8	土製品	円盤	5.6	6.3	1.0	40.0t	口縁部外側用。石英・白色粒を含む。		未製品。

表37 16号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			底径	身高	底径					
1	縄文土器	深鉢	29.5	<28.8>	—	石英・白雲母・白色粒 内: 10YR6/2 黄褐色 内: 10YR6/6 明黄色	良	外面: 口縁部に 3 条の沈縫を施す。体 部には L.R 単脚鉗文を施すと、懸垂文 を施す。 内面: ミガキ。	周之内 1	
2	縄文土器	深鉢	—	<22.5>	—	石英・角閃石・金雲母・ 白色粒・赤色粒 内: 7SYR6/6 程 内: 7SYR6/2 黄褐色	やや良	外面: 小型懸垂状工具による斜向の凹線 が施される。 内面: ケズリ後、無いミガキ。	周之内 1	

表38 23号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			底径	身高	底径					
1	縄文土器	鉢	11.2	8.8	7.0	石英・白雲母・白色粒 赤色粒	外: 10YR7/1 に ぶい青 内: 10YR6/2 黄褐色	良	外面: 沈縫による洒文字を施す。 内面: ミガキ。	
2	縄文土器	深鉢	—	<9.2>	—	石英・長石・角閃石・金雲母・ 白色粒・赤色粒 内: 7SYR6/6 程 内: 10YR6/2 黄褐色	やや良	外面: 小型懸垂状工具による斜向の凹線 が施される。 内面: ミガキ。		

表39 25号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			底径	身高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<10.8>	—	石英・白雲母・海綿骨 針・白色粒	SYR2/1 黒	良	外面: 沈縫により支撑棒を仄聞。沈縫内 には L.R 単脚鉗文と玉瓶三爻文を施す。 内面: ミガキ。	安行 3a
2	縄文土器	深鉢	—	<2.5>	(9.0)	石英・長石・角閃石・ 白色粒	SYR2/1 黒	良	外面: ミガキ。近縁網代。	安行 3a
3	縄文土器	往々土器	—	<11.7>	—	白雲母・海綿骨針・白 色粒	2SYR2/1 黒	良	外面: 体部上半は 3 文式・弧縫文・廢り 清文(沈縫)・L.R 単脚文を施す。下半は 3 条の平行沈縫が施す。 内面: ナギ。	安行 3a
4	縄文土器	製造土器	(21.1)	<17.2>	—	石英・チャート・白色 粒	SYR5/6 明赤褐色 内: SYR5/6 赤褐色	良	外面: 口縁部ケズリ。体部ケズリ。	安行 3a
5	縄文土器	手揉土器	(3.0)	2.2	1.1	石英・白雲母 内: 7SYR6/6 程	7SYR6/6 程	良	外面: 手揉痕。 内面: 手揉痕。	
No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか		備考
			底径	身高	底径					
6	土製品	耳飾り	直径 1.3	孔径 0.1	0.8	1.24	ナギによる鑿形。鑿形。石英・白雲母を含む。			
7	貝製品	貝輪	7.1	(6.4)	0.4	5.36	風化が著しい。ベンケイガイを使用か?			

表40 26号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			底径	身高	底径					
1	縄文土器	往々土器	—	<4.2>	—	石英・白雲母・白色粒・ 赤色粒	7SYR5/1 黒褐	良	外面: ミガキ。4 条の条縫を施す。	流れ込み

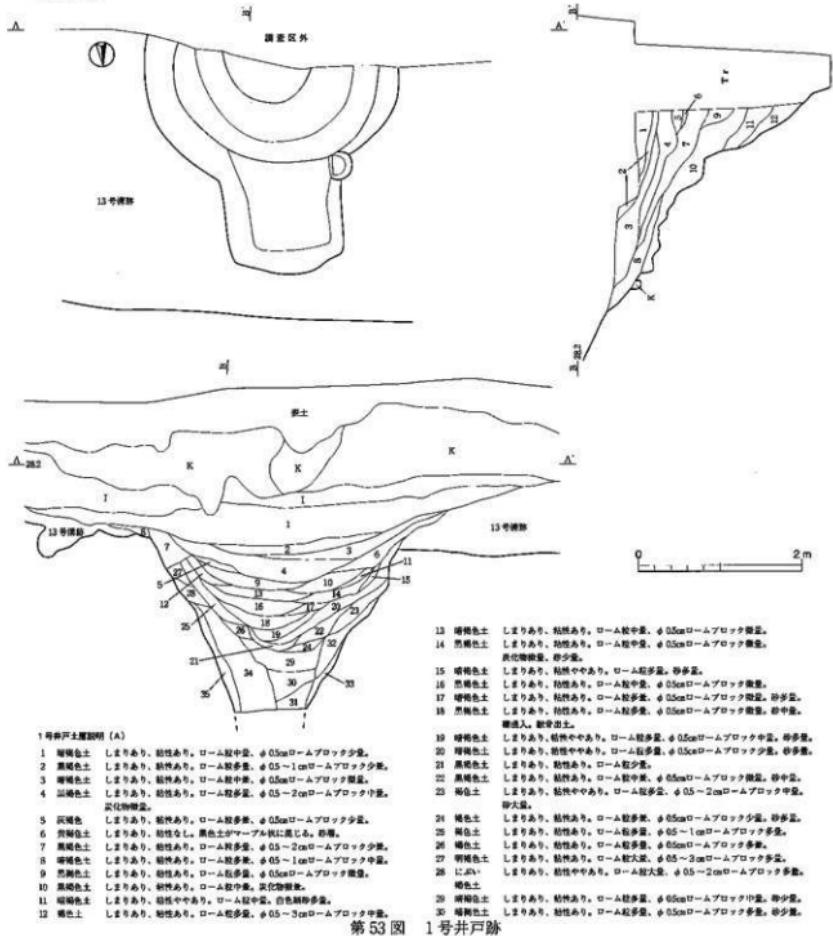
表41 27号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			底径	身高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<10.4>	—	石英・白雲母・白色粒 赤色粒	7SYR6/6 程	やや良	外面: L.R 単脚に粒上瘤貼付。太い沈縫を 施す。 内面: ナギ。	安行
2	縄文土器	深鉢	(30.5)	<14.0>	—	石英・白雲母・海綿骨 針・白色粒・赤色粒	SYR5/4 に ぶい青 内: SYR5/6 明赤褐色	やや良	外面: 口縁部と体部に経路貼付後、体部 上部は 橋脚各条縫を施し、翼脚と斜脚の横 條縫を 4 条文式。傾伏・斜脚各条縫の横 條縫は 剥離される。下部は 扇形斜脚各 条縫を施す。 内面: ケズリ後、ナギ。	安行
No.	種別	器種	法量 (cm)			底径 身高 底径	重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか		備考
			底径	身高	底径					
3	骨角器	ヤス	12.4	0.9	0.8	8.56	複数を使用。被埋により曲がっている。			

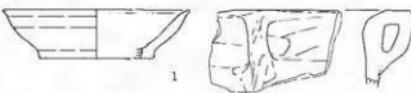
第4節 井戸（第53・54図）

井戸跡は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の北側、13号溝跡と重複する形で確認された。調査区幅の制約から全体像を窺い知ることは出来なかつたが、推定直径3.1mの円形を呈するとみられ、北側には方形状の平場を有している。掘削を行つたが、底面を確認することができず、横出面から約3.5m掘り下げたところで安全面を考慮し掘削を停止した。

調査区の壁面にて確認した土層から13号溝跡より新しいと判明。13号溝跡の覆土には井戸跡を掘削した時の粘土ブロックや砂が大量に混入していた。出土遺物はかわらけ・鍋・陶器が確認されており、15世紀後半～16世紀に属するものと思われる。また、流れ込みであるが、残存状態が良好な石製品が確認できたので掲載する。



- 31 黄色土: しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック多量。
砂中量。
- 32 明褐色土: しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック多量。砂多量。
- 33 にふい: しまりややあり、粘性なし。砂層。
- 34 黄色土: しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック多量。
砂多量。



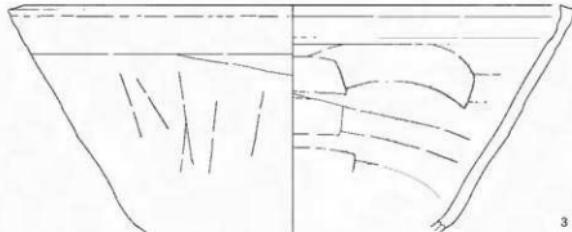
2

1号井戸跡遺物 (B)

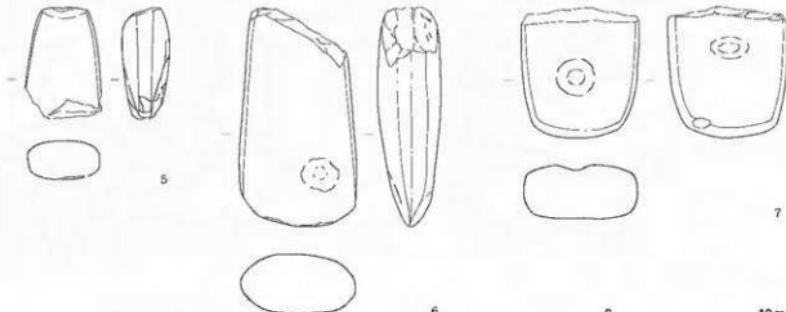
- 1 灰褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック少量。炭化物微量。
- 2 褐褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 黑褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5 \sim 2\text{cm}$ ロームブロック少量。
- 4 黑褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5 \sim 2\text{cm}$ ロームブロック少量。
炭化物微量。
- 5 灰褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック少量。
- 6 黑褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。炭化物微量。
- 7 灰褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ ロームブロック少量。
- 8 灰褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック中量。
- 9 灰褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック微量。
- 10 黄褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$ ロームブロック多量。砂少量。
- 11 黄褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5\text{cm}$ ロームブロック多量。砂多量。
- 12 にふい: しまりややあり、粘性。砂層。



4



3



7

第54図 1号井戸跡出土遺物

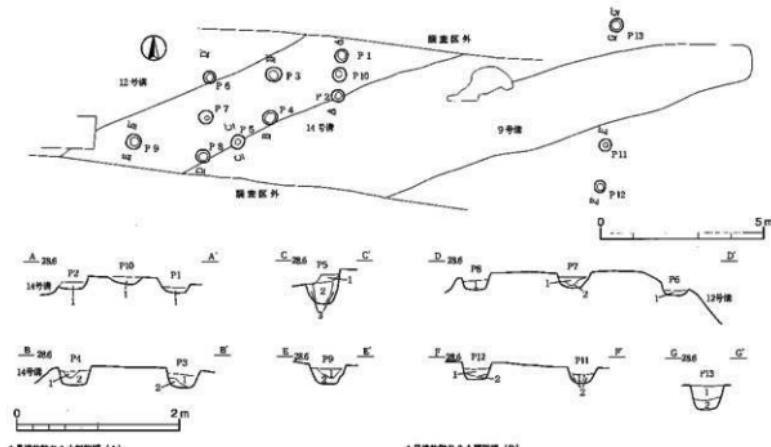
表42 1号井戸跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	法面 (cm)			底上	色質	使用	成・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	上部質土器	かわらけ	(11.4)	3.0	(7.0)	白色粒・赤色粒	7SYR0/6 横	良	外側: ロクロ巻形。 内面: ロクロ巻形。	
2	上部質土器	溝	—	<4.7	—	石英・白雲母	外: 10YR3/1 黒褐色 内: 7SYR6/6 横	良	外側: ナチュラル仕上げ。 内面: ナチュラル。	
3	上部質土器	溝	(33.1)	<14.0	—	石英・白雲母・赤色粒	外: 7SYR4/1 極灰 内: SYR5/6 明灰	良	外側: 口縁部ヨコナギ。 内面: ヨコナギ。 スヌ付。	体部ヘラナゲ。
4	上部質土器	茶釜	—	<2.2	—	石英・白雲母	SYR4/4 ぶじ赤褐色	良	外側: ナチュラル。 内面: ナチュラル。	体部ヘラナゲ。

No.	種別	器種	法面 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
5	石製品	磨削石斧	<6.0	47	29	136	先端部欠損。砂層。	流れ込み。
6	石製品	磨削石斧	<13.0	71	39	610	基部欠損。綠色巖灰岩。	流れ込み。
7	石製品	磨石	<8.0	7.2	3.3	330	青・黒・無色透明。表面に崩落痕。安山岩。	流れ込み。

第5節 建物跡（第55図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の北側、12号溝跡と9・14号溝跡の間で建物跡と考えられるピット群が確認された。いずれのピットも直径は40~50cm前後で、深さは20cm~50cmと浅く、柱痕が確認できたのはP5・11のみである。遺物の出土はなく明確な帰属時期は不明である。このような浅く軸方向を同じくするピットは、12号溝跡と9・14号溝跡の周囲においてしか確認できなかつたため、溝に付随する施設（柵列？）とも考えられる。



1号建物跡P1土解剖図(A)

1 黒褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

1号建物跡P2土解剖図(A)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

1号建物跡P3土解剖図(B)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。

1号建物跡P4土解剖図(B)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。

1号建物跡P5土解剖図(C)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。

2 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。

3 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。

1号建物跡P6土解剖図(D)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。φ 0.5~1cmロームブロック少量。

1号建物跡P7土解剖図(D)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。

1号建物跡P8土解剖図(E)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。φ 0.5~1cmロームブロック少量。

1号建物跡P9土解剖図(F)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

2 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

1号建物跡P10土解剖図(G)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

2 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

1号建物跡P11土解剖図(H)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性低い。ローム较少。φ 0.5cmロームブロック少量。

1号建物跡P12土解剖図(I)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム较少。φ 0.5cmロームブロック少量。

2 黑褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム较少。φ 0.5cmロームブロック少量。

1号建物跡P13土解剖図(J)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

2 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

1号建物跡P14土解剖図(K)

1 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

2 黑褐色土 しまりややあり、粘性やや低い。ローム较少。

第55図 1号建物跡

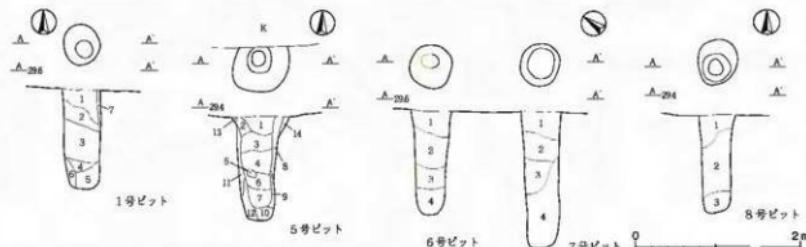
第6節 ピット（第56~59図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認されたピットは36基である。ピットは調査区の南側と北西部に集中しており、南側に位置しているピットの半数は検出面から底面までの深さが1.0mを超えるもので、一部は柱のあたりとみられる硬化面も確認できた。明確に建物跡として組めるものはないが、1・6・7号ピット、20~24号ピットは近接しているため建物跡として機能していた可能性がある。また、遺物の出土が少なく明

確な帰属時期は不明であるが、調査区の南側に位置しているピットは概ね縄文時代中期中葉～後期後葉に比定出来るとみられる。調査区北西部に位置しているピットは比較的浅く、32～42号ピットが密集しているが、こちらも建物跡として組めるものはない。P 35・36 から遺物が出土しており、概ね縄文時代後期中葉～晩期前葉に比定出来るとみられる。

表43 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面形態	備考	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面形態	備考
1号ピット	F 10	0.5 × 0.44	1.17	円形		22号ピット	E 9	0.45 × 0.45	1.18	円形	底面一部硬化。
3号ピット	F 9	0.51 × 0.11	0.31	円形	4号ピットと重複。	23号ピット	E 9	0.71 × 0.62	1.6	円形	底面一部硬化。
4号ピット	F 9	0.46 × (0.37)	0.54	円形	3号ピットと重複。	24号ピット	F 10	0.78 × 0.64	1.27	円形	底面一部硬化。
5号ピット	F 7	0.66 × (0.34)	1.32	円形	底面一部硬化。	27号ピット	E 9	0.38 × 0.36	0.33	円形	
6号ピット	F 10	0.55 × 0.53	1.31	円形		29号ピット	E 9	0.32 × 0.29	0.6	円形	
7号ピット	F 10	0.5 × 0.45	1.67	円形		30号ピット	C 9	0.8 × 0.7	0.79	円形	
8号ピット	F 10	0.55 × 0.49	1.25	円形	底面一部硬化。	31号ピット	B 9	0.82 × 0.75	1.15	方形	
9号ピット	F 7	0.44 × 0.37	0.4	円形		33号ピット	A 6	0.55 × 0.5	0.53	円形	
10号ピット	F 6	0.62 × 0.45	1.44	円形	底面一部硬化。	34号ピット	A 6	0.6 × 0.56	0.96	円形	
11号ピット	F 5		0.66	円形		35号ピット	A 6	0.62 × 0.58	0.74	円形	
12号ピット	F 5	0.56 × 0.55	0.61	円形		36号ピット	A 6	0.47 × 0.44	0.34	円形	
16号ピット	F 5	0.5 × 0.47	0.65	円形		37号ピット	A 6	0.42 × 0.38	0.35	円形	
17号ピット	F 5	0.5 × (0.38)	0.61	円形		39号ピット	A 6	0.57 × 0.55	0.51	円形	
18号ピット	F 6	0.5 × (0.27)	0.58	(円形)		40号ピット	A 6	0.49 × 0.47	0.66	円形	
19号ピット	F 5	0.48 × (0.42)	0.56	楕円形		41号ピット	A 6	0.48 × 0.41	0.51	円形	
20号ピット	E 9	0.5 × 0.48	1.87	円形	底面一部硬化。	42号ピット	A 6	0.5 × 0.43	0.5	円形	13号土坑と重複。
21号ピット	E 9	0.52 × 0.48	1.42	円形	底面一部硬化。	43号ピット	A 7	0.58 × 0.49	1.12	円形	13号土坑と重複。



1号ピット上層説明

- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 埋場灰土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。植生付着、炭化物微量。
- 埋場色土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 埋場色土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック中量。
- 埋場土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック少量。

5号ピット上層説明

- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。植生付着、炭化物微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 埋場地土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 埋場土 しまりあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。

- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 埋場土 しまりやあり、粘性あり。1m-人歯多量、φ 0.5～2cmロームブロック微量。
- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cm～1mブリッカ多量。炭化物微量。
- 埋場灰土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。

- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5cmロームブロック微量。炭化物微量。

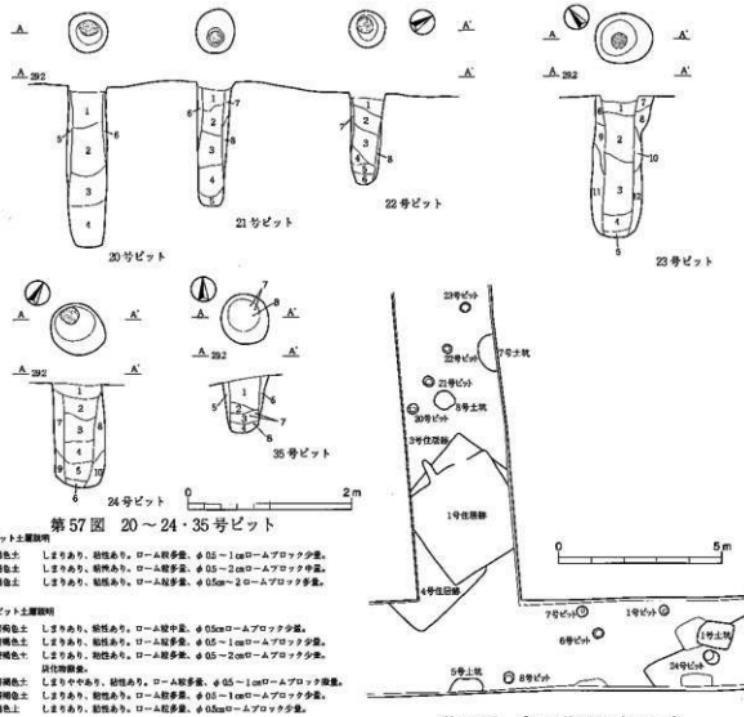
- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。

- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。炭化物微量。

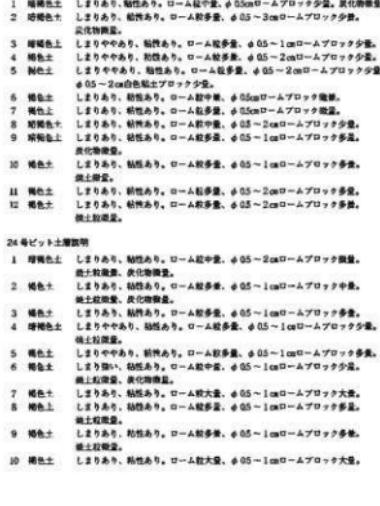
- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～2cmロームブロック微量。炭化物微量。

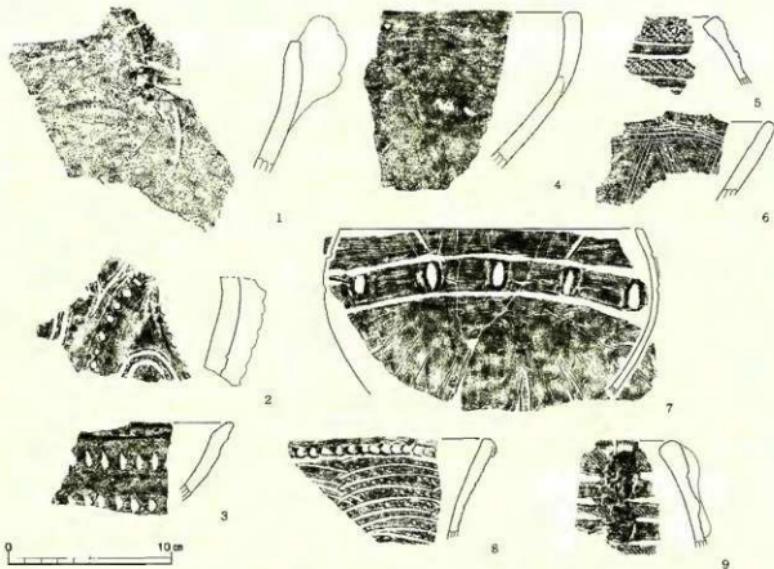
- 埋場地土 しまりやあり、粘性あり。ローム粘多量、φ 0.5～1cmロームブロック微量。炭化物微量。

第56図 1・5～8号ピット



7500





第59図 ピット出土遺物

表44 ピット出土遺物観察表

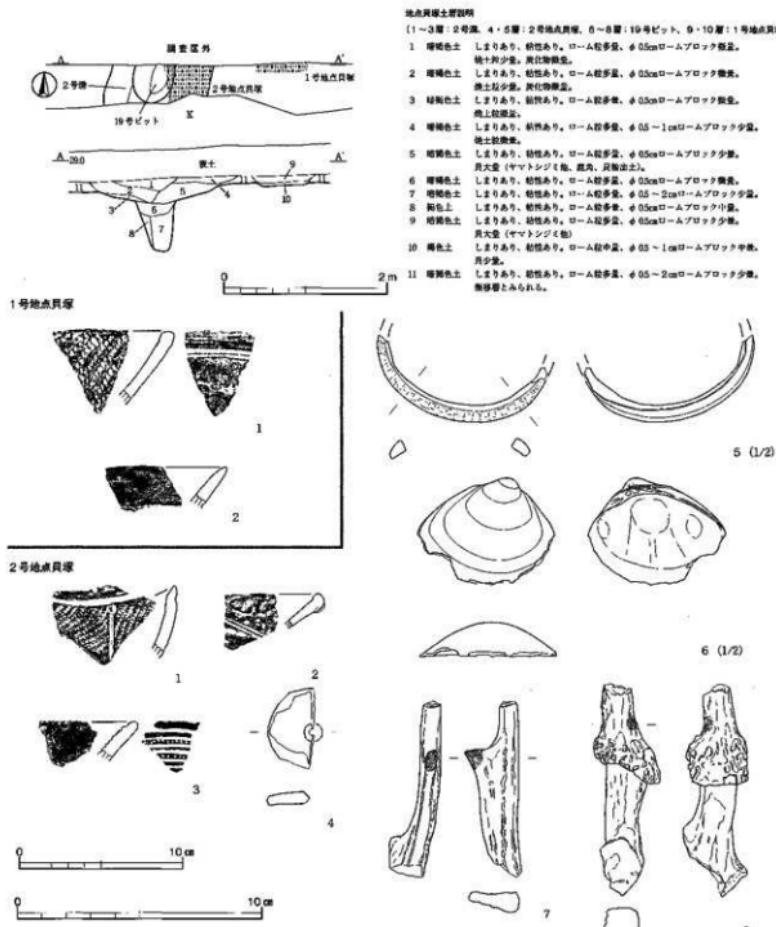
No.	種別	器種	社量 (cm)			胎土	色調	焼成	或・豊形洗浄の有無	備考
			口径	底高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<6.0	—	石英・長石・白雲母 内: 25T3/1 黑斑	やや良	外面: 丹絵柄に3重の軌土帯を附付、突起を表現。 内面: ナデ。	阿玉台 P.5出土	
2	縄文土器	深鉢	—	<6.7	—	石英・長石・白雲母 内: 7SYR6/4 にぶい黄	良	外面: 口絵柄の把手、黒帯を貼付、周縁に波紋を施す。 内面: ナデ。	阿玉台 P.5出土	
3	縄文土器	鉢	—	<4.8	—	石英・長石・白雲母 内: 7SYR6/4 にぶい黄	良	外面: ナマ豊形柄、角脚文を施す。	阿玉台 P.5出土	
4	縄文土器	鉢	—	<3.6	—	石英・チャート・白雲母・金墨母 内: 7SYR6/5 染	やや良	外面: ミガキ。輪縁み痕。 内面: ミガキ。輪縁み痕。	阿玉台 P.17出土	
5	縄文土器	深鉢土器?	—	<4.2	—	石英・白雲母・赤色絞 内: 7YR3/2 黑斑	良	外面: 平行波線を施し、文様帶を区画。 内面: 单脚文を施す。	後原塚 P.20出土	
6	縄文土器	深鉢	—	<4.9	—	石英・白雲母・白色絞 内: 6YR2/1 黑	良	外側: 復原状工具による斜位条線後、口縁に横たる余縫を施す。 内面: ミガキ。	安行 P.33出土	
7	縄文土器	鉢	—	<10.3	—	石英・白雲母・海綿骨針 内: 10YR7/4 にぶい黄	良	外側: 2重の平行波線を施す後、粘土層を施付する。 内面: 丁寧なミガキ。	安行 P.35出土	
8	縄文土器	深鉢	—	<5.1	—	石英・海綿骨針・白色絞 内: 10YR8/4 にぶい黄	良	外側: 粘土層を施す後、口縁に柱縫文を施す。 内面: ミガキ。	安行 P.35出土	
9	縄文土器	深鉢	—	<6.8	—	石英・白雲母・海綿骨針 内: 5YR8/6 黑斑 内: 7YR5/4 にぶい黄	良	外側: 粘土層を施す後、柱縫文を施して文様帶を施す。 内面: ナデ。	安行 P.36出土	

第7節 地点貝塚（第60図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区では、調査区の南西部で2ヶ所の地点貝塚を確認している。確認された地点貝塚は小規模なもので、試掘調査によって判明していた畠地帯の地点貝塚の一部であるとみられる。土層観察の結果、浅い窪地に貝が投棄されて貝塚が形成されたものと考えられる。出土した貝はヤマトシジミを主体としており、貝製品も確認されたが、貝塚の大部分は搅乱によって消滅している。

表 45 地点貝塚一覧表

1号地点貝塚	F 5	0.56 × 0.37	0.12	不整形	縄文土器・骨・貝	縄文時代後期
2号地点貝塚	F 5	0.54 × 0.12	0.24	不整形	縄文土器・骨・貝 鹿角・貝編	縄文時代後期 2号層と重複。2号面が新しい。



第 60 図 地点貝塚・地点貝塚出土遺物

表 46 1号地点貝塚出土遺物観察表

遺物名	形態	大きさ	材質	表面状況	内部構造	特徴	参考文献
1 縄文土器	浅鉢	—	<43>	—	石英・白雲母	HOTR6/4に付い黄銅	良 外面：LR单面織文を施文。 内面：2系の平行状縦を施す。
2 縄文土器	深鉢	—	<25>	—	石英・白雲母	HOTR2/1 黒	良 外面：ミガキ。比翼横行。 内面：ミガキ。

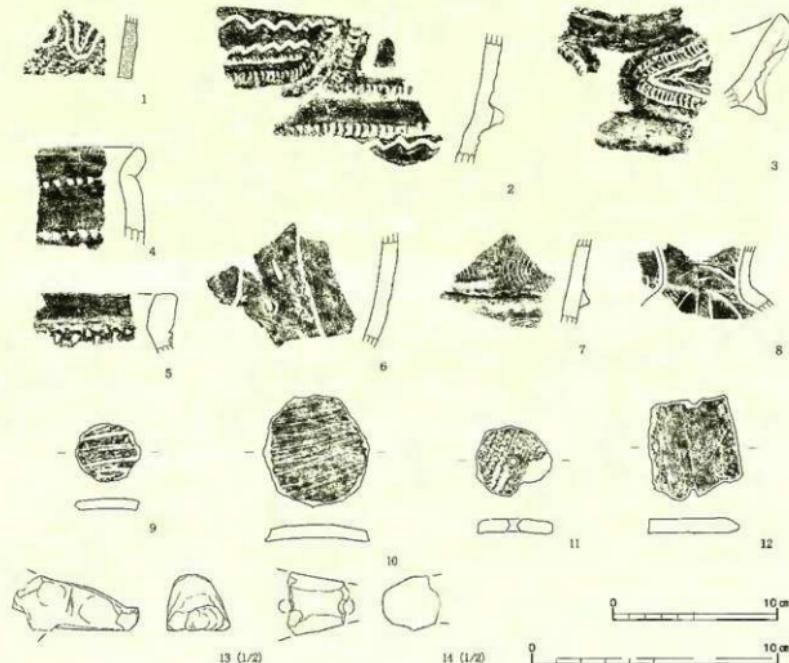
表47 2号地点貝塚出土遺物観察表

No.	種別	器種	底面(cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<4.4>	—	石英・白雲母・白色粗粒	外: SYRS/8 有 内: 10YR5/4 に近い黄 色	良	外側: L3 と新規文を施文法、沈縫と竹 管状の削り表現を施す。 内面: ミガキ。	横之内1 H 1
2	縄文土器	浅鉢	—	<2.1>	—	石英・白雲母・海藻骨 有	外: 10YR3/2 黑褐 内: 10YR5/3 に近い黄 色	良	外側: 斧状条痕を施す。口縁部裏面貼付。 内面: ミガキ。	横之内2 H 1
3	縄文土器	浅鉢	—	<2.4>	—	石英・白雲母	7SYR5/3 に近い褐	良	外側: 平行沈縫を施し、沈縫間に削 き痕を施す。	加賀利 H 1

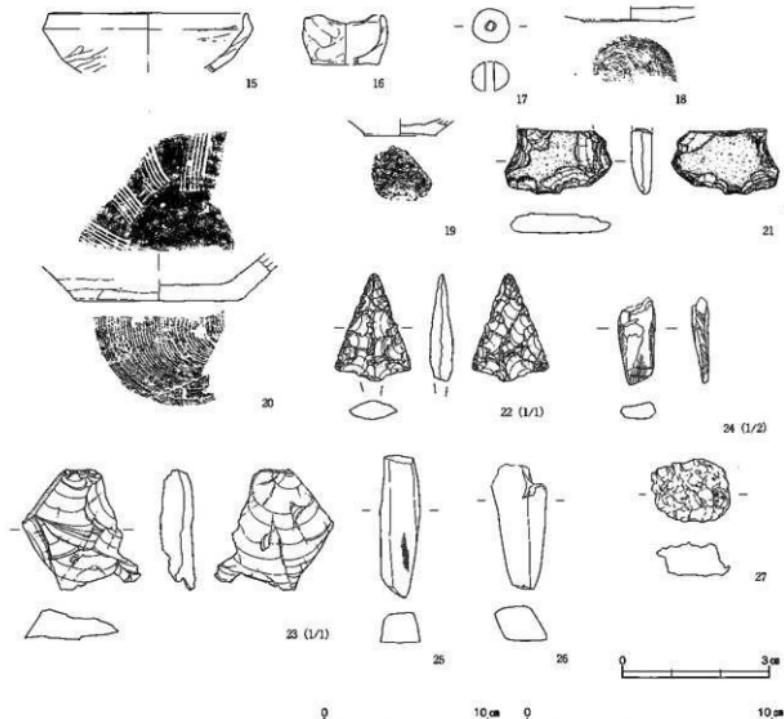
No.	種別	器種	底面(cm)			重さ(g)	成・整形技法の特徴ほか		備考
			長さ	幅	厚さ				
4	土製品	有孔円盤	5.0	<3.6>	0.7	12.15	両方向からの穿孔。石英を含む。		
5	貝製品	貝繩	<7.3>	0.7	0.7	6.94	内外研磨。光沢有。最後の研磨か? ベンケイガイを使用。		
6	貝製品	貝刃	4.3	5.6	1.4	9.35	貝殻形を多く約 60%が刃部として使用。腹殻の一部は使用によって減少。 ハマグリを使用。		
7	砍骨	鹿角	<10.3>	3.3	1.2	19.11	一部被熱により墨黒んでいる。上部は分割する際の折みとみられる痕跡が 確認できる。		
8	砍骨	鹿角	<13.0>	4.0	1.8	50.94	一部被熱により墨黒んでいる。		

第8節 遺構外出土遺物（第61図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の調査で、遺構外より出土した遺物の中から27点を掲載する。坂田台山古墳群と同様に縄文時代前期の土器がわずかに確認される。また、土製品・石器も多数確認された。古墳時代～中世にかけての遺物も出土するが、縄文時代の遺物に比べると出土数は少ない。また、橢形窯も確認されたことから、調査区周辺にて小冶鍛冶が行われていた可能性が考えられる。



第61図 遺構外出土遺物



第62図 遺構外出土遺物

表48 遺構外出土遺物観察表

	名前	形態	大きさ	材質	特徴	位置	状況
1	純文土器	深鉢	—	<10>	—	白素母・纏繩・白色粒 外: 5YRS-6 黒赤場 内: 10YR5/4 に ぶい 黄 褐	外面: L.R. 単線縞文、基部部を施す。 内面: ヒガキ
2	純文土器	深鉢	—	<8.0>	—	石英・長石・白素母・ 金雲母 10YR7/4 に ぶい 黄褐	外面: 斜帶を貼付け、周辺で区画された 内面: ナデ。
3	純文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・長石・白素母・ 金雲母 10YR7/4 に ぶい 黄褐	外面: 斜帶を貼付け、周辺で区画された 内面: ナデ。
4	純文土器	深鉢	—	<6.0>	—	石英・長石・白素母・ 金雲母 10YR7/6 黄褐	外面: 角押文を施す。 内面: ナデ。
5	純文土器	深鉢	—	<5.7>	—	石英・長石・白素母・ 金雲母 7.5YR6/1 に ぶい 黄	外面: 口縁部直下に斜め文が交叉に施さ れる。 内面: ヒガキ。
6	純文土器	深鉢	—	<7.0>	—	石英・長石・白素母 外: 7.5YR6/6 黄 内: 10YR4/1 黑灰	外面: 区画部周内に斜め文を施す。
7	純文土器	浅鉢	—	<5.3>	—	石英・長石 外: 10YR5/3 に ぶい 黄 褐 内: 10YR5/4 に ぶい 黄 褐	外面: 斜帶を貼付け、網目状工具により 施文文を施す。 内面: ナデ。
8	純文土器	壺形土器	—	<1.0>	—	石英・長石・白素母 10YR3/1 黑褐	外面: 体部に斜線と斜位の波線で文様を 区画化。L.R. 単線縞文を施す。 内面: ヒガキ。
15	土器鉢	壺	(12.0)	<3.6>	—	石英・白素母・白色粒 外: 7.5YR4/3 黄褐 内: 10YR5/4 に ぶい 黄 褐	外面: ヒラカズレ 3 線、ヘタヒガキ。 内面: ヘタナダ。

15	土製品	4.2ミリア ル瓶	高さ0	4.0	(30)	石英・白色粒	SYR4-6に近い當所	食	外壁：ナゲ、 内壁：ナゲ。	
18	十葉富士器	小皿	—	<1.0>	4.5	石英・白色粒	SYR6-9型	食	外型：ロクロ多形。実部圓錐形突起。 内壁：ロクロ亞形。	
19	陶器	皿	—	<0.9>	5.8	白色粒	SYR7/1底白	食	外型：ロクロ多形。底部圓錐形突起。 内壁：底白。蓋ね地痕あり。	
20	陶器	擂鉢	—	<2.9>	(10.2)	白色粒・赤色粒	SYR7-9型	食	外型：ヘラケズ刃後、ナゲ。底部圓錐形 突起。 内壁：ナゲ底、壁厚6本。	
No	種別	器種	法量 (cm)	長さ	幅	厚さ	重さ (g)	成・變形技術の特徴ほか		備考
9	土製品	円盤	4.0	3.6	0.7	10.5	石英・白色粒を含む。			
10	土製品	円盤	6.0	6.0	0.7	76.88	石英・薄纖維状・白色粒を含む。			
11	土製品	有孔円盤	4.7	4.3	0.8	17.96	両方向からの穿孔：石英・白色粒を含む。			
12	土製品	土炒子	6.3	5.7	0.8	42.22	白漆器片を用意。2才手に切り込みを入れる。石英・白色粒を含む。			
13	土製品	鉢物	1.7	<5.2>	2.6	2.3	22.46	棒状丸上を指による押打で整形。鉢物の尾？！石英・白火粒を含む。		
14	土製品	不明	<2.9>	2.6	<2.9>	13.78	棒状丸上後による押打で整形。2才手の穿孔を確認。壁厚八割、石英・ 白火粒を含む。			
17	土製品	土炒	直径 20	孔連05	1.8	7.32	ナゲによる整形。一方門からの穿孔。石英・白色粒を含む。			
21	石製品	研磨石等	<0.9>	6.4	1.3	42.05	最初欠損。			
22	石製品	打製石頭	<2.1>	1.6	0.4	1.05	石英・石粉欠損。チートを使用。			
23	石製品	石粉剝片	2.5	2.1	0.7	2.68	未調品か。チャートを使用。			
24	石製品	八角	<3.6>	1.0	0.7	1.49	三面を斜め。被赤泥を確認。照達八角。磨研行燈を使用。			
25	石製品	燧石	6.5	2.4	2.3	57.96	3面を焼削。一般にえ上みられる新鮮な鉱物を確認。安山岩を使用。			
26	石製品	燧石	7.6	3.3	2.1	51.68	小鉢を焼削。起因管を使用。			
27	陶製品	擂鉢	5.3	3.6	2.1	52.52	未調査多面削。			

第6章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区

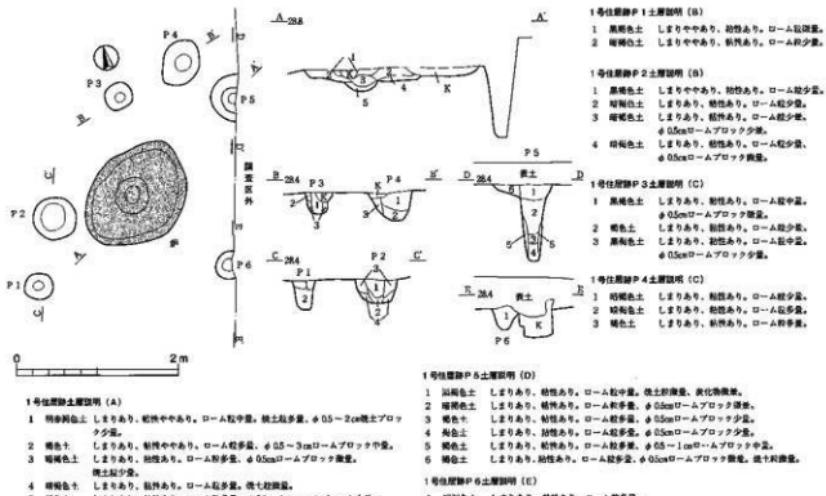
下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区の調査は平成24年3月2日～平成24年3月16日まで行われた。確認された遺構は、堅穴住居跡2軒、溝2条、土坑16基、ピット24基を数える。

第1節 堅穴住居跡

1号住居跡（第63図）

位置 B1・2グリッドに位置している。床 硬化面等は確認できなかった。ピット 炉跡の周囲に6基のピットが巡るが、不規則でピットの深さも一定ではない。炉 長軸145cm×短軸110cm、深さ26cmを測る。

遺物 炉跡内から繩文土器の小片が出土したのみである。所見 検出された炉と、炉の周囲で確認されたピットから住居であると想定したが、明確に住居として捉えられる要素は少ない。帰属時期は不明である。



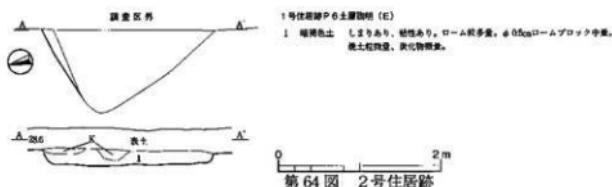
第63図 1号住居跡

2号住居跡（第64図）

位置 A2グリッドに位置している。規模 南北18m以上×東西12.5m以上mの方形を呈すとみられる。

主軸方位 N-20°W. 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットであるが、硬化面は確認できなかった。ピット 確認できなかった。遺物 覆土中から遺物の出土はみられなかった。

所見 住居であると想定したが、明確に住居として捉える要素は少なく、帰属時期は不明である。

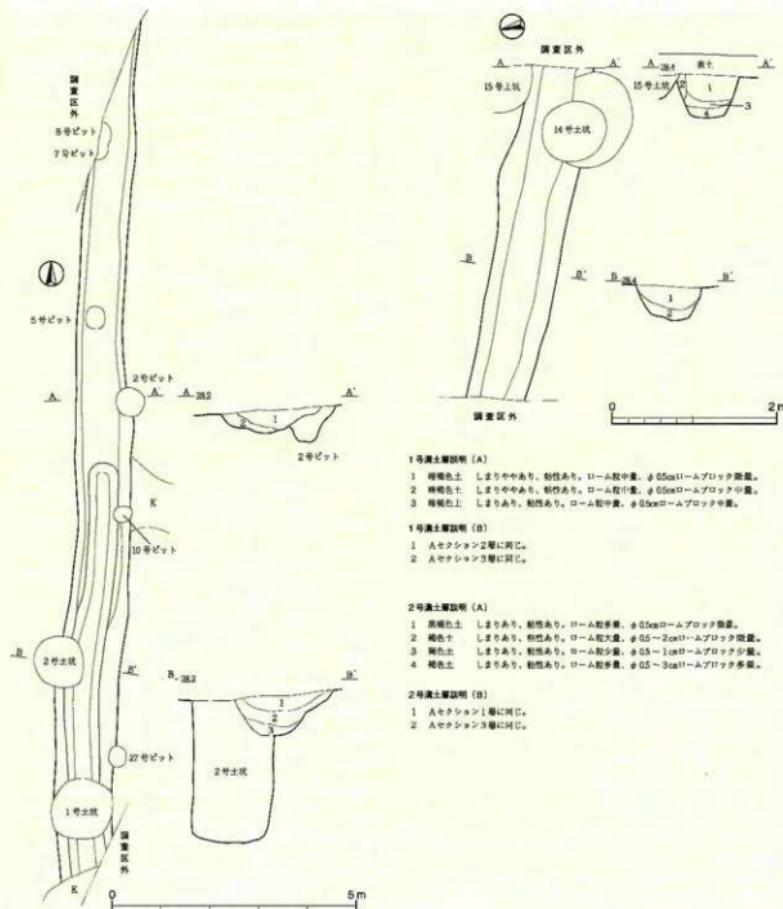


第2節 溝跡（第65図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認された溝跡は2条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。1号溝跡は南北方向に走行し、2号溝跡は東西方向に走行する。いずれも覆土中からは流れ込みとみられる縄文時代の土器片が出土するが、帰属時期は中世であるとみられる。

表49 溝跡一覧表

溝跡名	位置 グリッド	輪方位	深度 (m) 上端面 下端幅	底径 (m)	遺物	時期	備考	
1号溝	I 3	N - 1° - E	1.3	0.34	0.82	縄文土器	中世？	1・2号土坑と重複。1・2号土坑より新しい。
2号溝	I 3	N - 63° - W	0.96	0.42	0.53	縄文土器・陶磁器	中世？	14・15号土坑と重複。15号土坑より古い。



第65図 1・2号溝跡

第3節 土坑（第66～70図）

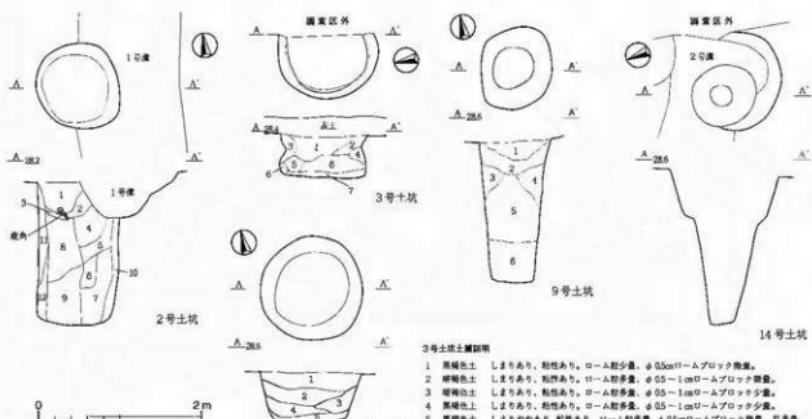
下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認された土坑は16基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。出土した遺物から、確認された土坑のほとんどは縄文時代後期に属するとみられるが、1・2号土坑は縄文時代晚期前業に比定される円筒形の土坑である。1区15・21・25土坑と同様の深い土坑で、覆土中に貝が混入している点では、1区25号土坑と類似している。ただし、1号土坑と2号土坑では覆土中の貝の量に大きな差がある。円筒形の土坑に関しては第7章にて記載する。

表50 土坑一覧表

1号土坑	C 1	—	125 × 125	25	円形	縄文土器・貝・獸骨魚骨	縄文時代後期前業	土坑中の覆土全体に大量的土器と貝が混入。覆土上層は貝の混入が多く、下層は貝を少なくなる。
2号土坑	B 1	N - 41° - W	108 × 10	178	円形	縄文土器・貝・獸骨魚骨	縄文時代後期前業	土坑中の覆土に貝が混入している層が確認できた。底面からはイシシの頭骨とみられる骨が出土。一部は世紀に埋め込まれた。
3号土坑	B 2	N - 16° - E	123 × (0.76)	0.45	円形	縄文土器・貝	縄文時代後期前業	袋状土坑。一部に貝が混入している層を確認。
4号土坑	B 1	N - 33° - E	0.87 × 0.84	0.23	円形	縄文土器	縄文時代後期前業	
5号土坑	A 2	N - 14° - W	0.97 × 0.9	0.48	円形	縄文土器	縄文時代後期前業	
6号土坑	A 2	N - 66° - W	1.29 × 125	0.66	円形	縄文土器	縄文時代後期前業	
7号土坑	A 2	N - 69° - E	1.77 × 146	0.65	方形	縄文土器・陶器	縄文時代後期前業～中業	陶器は複数する13号土坑のものか？
8号土坑	A 2	N - 35° - E	1.36 × (0.73)	0.63	不整形	縄文土器	縄文時代後期	
9号土坑	A 2	N - 9° - W	1.03 × 0.87	1.56	円形	縄文土器	縄文時代後期後業	
10号土坑	A 2	N - 9° - W	1.14 × 0.85	0.21	不整形	なし	不明	覆土中に焼土を確認。伊豫？
11号土坑	A 2	N - 52° - W	0.64 × 0.6	1.34	円形	縄文土器	縄文時代後期前業	
12号土坑	A 2	N - 52° - E	0.69 × 0.65	1.13	不整形	縄文土器	縄文時代後期前業	
13号土坑	A 2	N - 41° - W	1.16 × 1.07	1.0	円形	なし	近世以降？	後世埋り込み。井戸跡か？
14号土坑	A 2	N - 29° - W	(1.22) × 1.18	1.82	円形	縄文土器	縄文時代後期前業	2号井と重複。14号土坑が古い
15号土坑	A 2	N - 17° - E	0.95 × (0.57)	0.3	円形	縄文土器	中世？	2号井と重複。15号土坑が新しい。
16号土坑	A 2	N - 15° - E	1.06 × (0.37)	1.45	円形	縄文土器	縄文時代後期中業～後業	



第66図 1号土坑

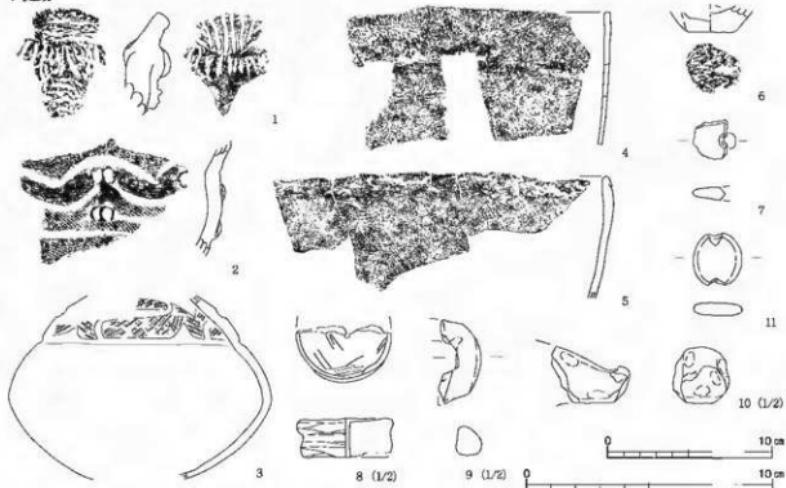


2号土坑圖說

- 1 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5cm$ ロームブロック少量。炭化物微量。
 - 2 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量。炭化物微量。
 - 3 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5cm$ ロームブロック少量。炭化物微量。
 - 4 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック多量。
 - 5 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5cm$ ロームブロック少量。炭化物微量。
 - 6 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック多量。瓦多量。
 - 7 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック少量。
- 2号土坑圖說明
- 1 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒少量、 $\phi 0.5cm$ ロームブロック微量。
 - 2 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック微量。
 - 3 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック微量。
 - 4 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック少量。
 - 5 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5cm$ ロームブロック少量。瓦多量。
 - 6 帶繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック多量。
 - 7 帯繩土 細さあり、粘性あり。ローム粒多量、 $\phi 0.5-1cm$ ロームブロック少量。

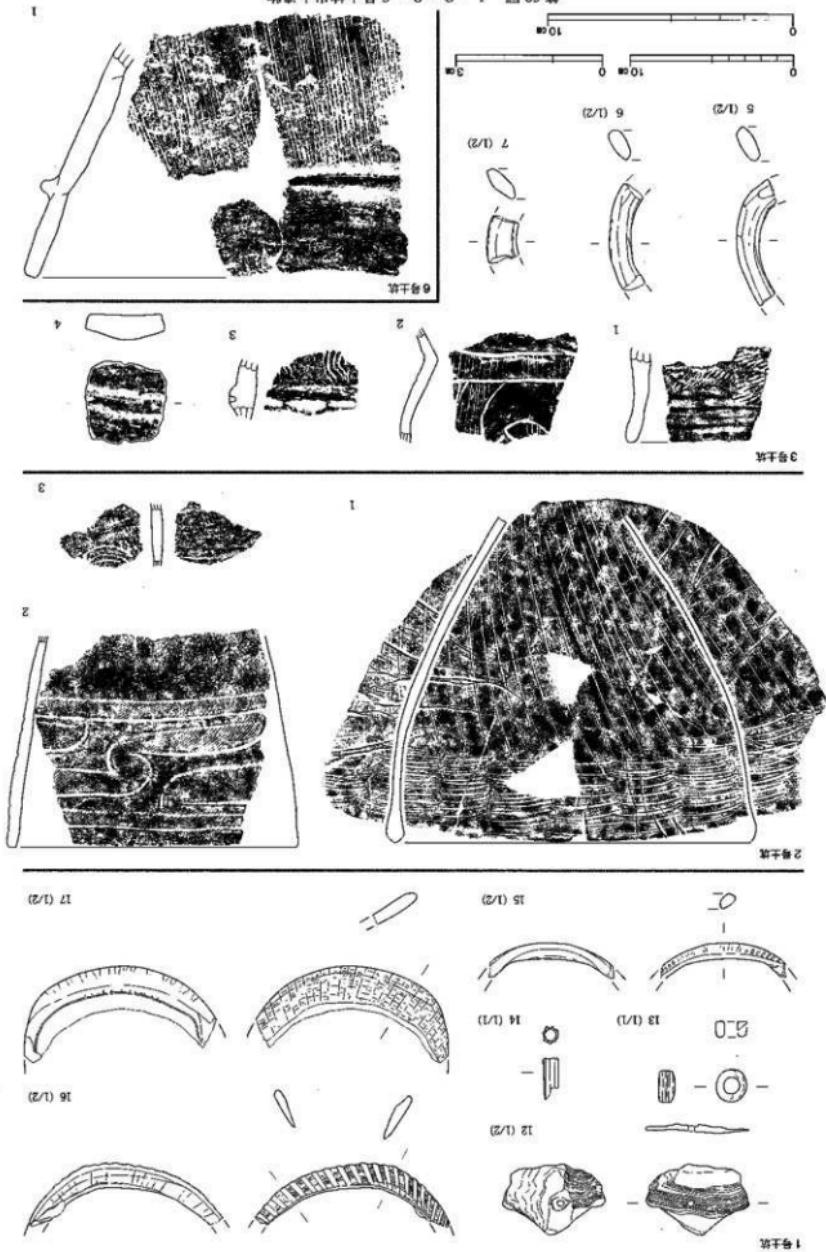
第67図 2・3・6・9・14号土坑

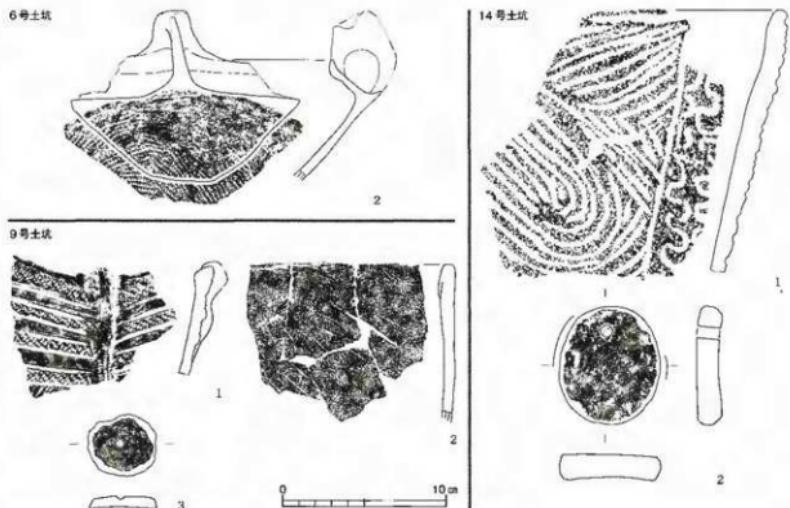
1号土坑



第68図 1号土坑出土遺物

第69圖 1・2・3・6号土坑出土遺物





第70図 6・9・14号土坑出土遺物

表51 1号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量(cm)			地土	色調	焼成	成・整形技法の特徴		備考
			口径	高さ	底径				外縁	内縁	
1	縄文上器	漆鉢	—	<6.3>	—	石英・白雲母・海綿骨針	外: 7SYR17/1 黒 内: SYR5/6 明赤褐色	良	外縁: 沢山口縁の痕跡。執土縁の崩れけ後、沈殿を施す。	内縁: 口縁を施す。	安行 3a
2	縄文上器	漆鉢	—	<7.1>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR2/1 黒	やや良	外縁: 沢山口縁を施す。側面斜面に施し斜面状缺欠を加える。しかし刷毛文を施す。	内縁: 刷毛文を施す。	安行 3a
3	縄文上器	漆口上器	—	<11.3>	—	石英・白雲母	10YR2/1 黒	良	外縁: 斧削で口縁を区画化し、輪郭不明の附加堆積大 L+2v を施す。	内縁: ナシ。	安行 3a
4	縄文上器	漆塗上器	—	<8.2>	—	石英・長石・白雲母	SYR6/6 棕	良	外縁: 周縁摩滅。	内縁: ナシ。	安行
5	縄文下器	漆塗下器	—	<7.5>	—	石英・白雲母・白色粒	10YR6/6 黄褐	良	外縁: ケズリ。	内縁: ケズリ。	2~3a
6	縄文七器	漆塗土器	—	<1.6>	2.9	石英・白雲母・赤色粒	SYR6/6 棕	良	外縁: ケズリ。底面網代板。	内縁: ナシ。	安行
7	土製品	有孔円盤	<2.3>	<1.9>	0.8	4.05	両方向からの穿孔。石英・白雲母を含む。				
8	土製品	瓦飾り	直徑 3.9	孔徑 0.2	1.6	10.33	全面ミガ調節。鉛錆。石英・白雲母・金雲母・赤色粒を含む。				
9	土製品	瓦飾り?	直徑 6.5	幅 1.0	1.2	5.10	ナシによる穿孔。				
10	土製品	動物?	3.3	2.4	0.8	11.86	ナシによる穿孔。				
11	石製品	石錆?	32	29	0.8	10.23	両端に切れ目。				
12	貝製品	装飾品?	4.2	2.8	0.3	2.95	両方向からの穿孔。動物の尾か? 石英・白雲母を含む。				
13	貝製品	平玉	直徑 0.6	孔徑 0.3	0.3	0.06	小巻貝を編みこなしている。ウミニナ無を使用か?				
14	貝製品	貝玉	<0.8>	直徑 0.3	孔徑 0.25	0.05	上部欠陥。ヤツツノガイを使用。				
15	貝製品	貝輪	<0.8>	0.6	0.4	2.84	内外面磨耗。ベンケイガイを使用。				
16	貝製品	貝輪	<7.9>	1.1	0.4	12.37	外表面研磨。米製品。サルボウ蟹を使用。				
17	貝製品	スクリュー?	<7.8>	1.8	0.5	20.46	全面摩滅。土器の文様付けに使用か? ハマグリの大型か?				

表52 2号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量(cm)			地土	色調	焼成	成・整形技法の特徴		備考
			口径	高さ	底径				外縁	内縁	
1	縄文土器	漆鉢	(21.6)	<20.0>	—	石英・白雲母・海綿骨針・白色粒	外: GTB6/6 棕 内: SYR6/8 棕	良	外縁: 傷き落とし、底位欠陥を施す。	内縁: ナシ。	安行 3b
2	縄文土器	漆鉢?	—	<7.1>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR2/1 黒	やや良	外縁: 平面沈縁と入組みで文様帯を区画化し、しまじり新規文を施す。	内縁: 刷毛文を施す。	安行 3b
3	縄文土器	鉢	—	<11.3>	—	石英・長石・白雲母	10YR2/1 黑褐	良	外縁: 周縁摩滅。	内縁: 低いミガキ。弧文縁を施す。	安行 3b

表 53 3号土坑出土遺物観察表

品目	種類	形態	寸法	材質	表面状況	内部状況	記述	
							外観	内面
1	縄文土器	深鉢	—	<5.5>	—	石英・白雲母・赤色粒	7SYR2/6 褐	良 外観：L字型節理文を施す。 内面：ミガキ。
2	縄文土器	深鉢	—	<7.2>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR2/3 にぼい黄褐	良 外観：沈縫によって文様を区画し、藝術工具で磨き文を施す。 内面：ミガキ。
3	縄文土器	深鉢	—	<3.7>	—	石英・長石・白雲母	2SYR4/6 赤褐	良 外観：座帶を貼付け、藝術工具で點墨文を施す。 内面：ナデ。

品目	種類	形態	寸法	材質	表面状況	内部状況	記述	
							外観	内面
4	土製品	土器片断	5.1	4.9	1.5	38.3	両面に切れ目。石英・長石・白雲母を含む。	
5	土製品	貝織形	<7.2>	1.4	2.1	23.79	外観：ケズリ後。ナデ。内面：ケズリ。石英・長石・白雲母を含む。	
6	土製品	貝織形	<6.5>	1.4	1.8	15.79	外観：ナデ。内面：ケズリ。石英・長石・白雲母を含む。	
7	土製品	貝織形	<10.0>	1.8	1.9	6.35	外観：ナデ。内面：ケズリ。石英・白雲母・赤色粒を含む。	

表 54 6号土坑出土遺物観察表

品目	種類	形態	寸法	材質	表面状況	内部状況	記述	
							外観	内面
1	縄文土器	深鉢	—	<14.5>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/3 にぼい黄	やや良 外観：座帶を貼付け、藝術工具で線状条紋を施す。 内面：研いミガキ。
2	縄文土器	浅鉢	—	<10.0>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/4 にぼい黄褐	やや良 外観：口縁部分に把手を取り付け、全体にはR字型節理文を施す。 内面：研磨溝。

表 55 9号土坑出土遺物観察表

品目	種類	形態	寸法	材質	表面状況	内部状況	記述	
							外	内
1	縄文土器	深鉢	—	<6.7>	—	石英・白色粒・赤色粒	外：5YR3/3 赤褐 内：2.6YR2/1 黒	良 外観：既存と粘土層を貼付け、沈縫で支継ぎを区画し、底壁部分にR字型節理文を施す。 内面：ミガキ。
2	縄文土器	深鉢	—	<9.7>	—	石英・角閃石・白雲母 海綿骨片	外：10YR6/4 にぼい黄 内：7.5YR6/6 褐	良 外観：ケズリ。 内面：ナデ。

品目	種類	形態	寸法	材質	表面状況	内部状況	記述	
							外	内
3	土製品	有孔円盤	3.8	4.1	0.6	13.32	穿孔途中で発見か？未調査。石英・白雲母・海綿骨片を含む。	

表 56 14号土坑出土遺物観察表

品目	種類	形態	寸法	材質	表面状況	内部状況	記述	
							外	内
1	縄文土器	深鉢	—	<6.6>	—	石英・長石・白雲母・赤色粒	外：5YR3/3 褐 内：2.6YR2/1 黒	やや良 外観：底壁と粘土層を貼付け、沈縫で支継ぎを区画し、底壁部分にR字型節理文を施す。 内面：ミガキ。
2	土製品	土瓶?	7.3	6.1	1.4	8.14	既成の泡孔。表面には一些凝固の痕跡が確認できるが、全体的に壊滅している。周囲ミガキ。石英・長石・白雲母を含む。	

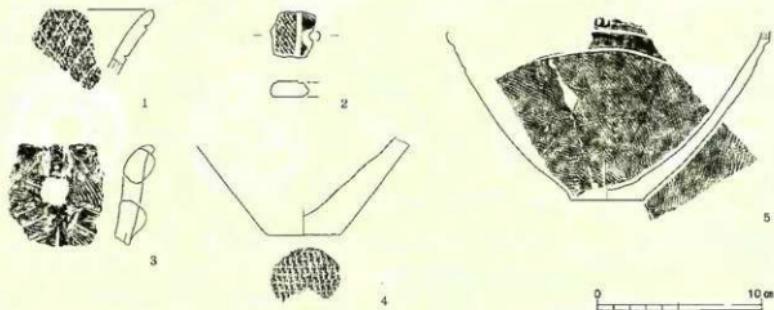
第4節 ピット（第72図）

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認されたピットは24基である。遺物の出土量には差があり、個体となるものはほとんど見受けられなかった。出土した土器は縄文時代後期が主体となり、わずかに晩期前葉の土器を確認している。ピットは1区と比べると全体的に浅く、深さが1mを超えるピットは2基のみである。

表 57 ピット一覧表

品目	位置	寸法	形態	材質	表面状況	内部状況	記述
1号ピット	B1	0.52 × 0.46	0.45	方形			7号ピットと重複。
2号ピット	B1	0.62 × 0.58	0.45	円形			8号ピットと重複。
4号ピット	B1	0.84 × 0.74	0.96	円形			10号ピットと重複。
5号ピット	B1	0.46 × 0.39	0.44	円形			11号ピットと重複。
6号ピット	B1	0.4 × 0.42	0.48	円形			12号ピットと重複。
7号ピット	B1	(0.37) × (0.21)	0.38	円形			8号ピットと重複。
8号ピット	B1	(0.43) × (0.24)	0.48	円形			7号ピットと重複。
10号ピット	B1	0.4 × 0.34	0.44	円形			
11号ピット	B2	0.35 × 0.22	0.31	円形			1号住居跡P6
12号ピット	B1	0.35 × 0.33	0.48	円形			1号住居跡P1

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形態	時期	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形態	時期
13号ピット	B 1	0.54 × 0.54	0.25	円形	1号住居跡 P 2	20号ピット	A 2	0.7 × 0.55	1.15	円形	
14号ピット	B 2	0.37 × 0.32	0.29	円形	1号住居跡 P 3	21号ピット	A 2	0.5 × 0.44	0.67	円形	
15号ピット	B 2	0.58 × 0.45	0.38	円形	1号住居跡 P 4	22号ピット	A 2	0.62 × 0.47	0.44	円形	
16号ピット	B 2	0.58 × (0.3)	0.88	円形	1号住居跡 P 5	24号ピット	A 2	0.49 × 0.46	1.23	円形	
17号ピット	B 1	0.49 × 0.39	0.41	円形		25号ピット	A 2	0.6 × 0.58	0.51	円形	
18号ピット	A 2	0.47 × 0.41	0.29	円形		26号ピット	A 2	0.6 × 0.47	0.81	円形	
19号ピット	A 2	0.4 × 0.34	0.25	円形		27号ピット	B 1・C 1	0.64 × (0.42)	0.38	円形	



第 71 図 ピット出土遺物

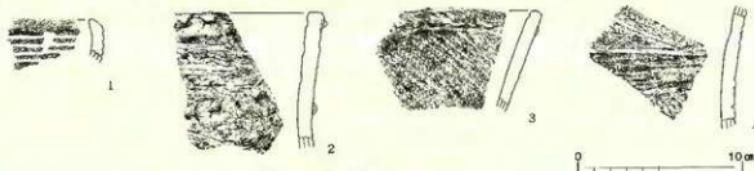
表 58 ピット出土遺物観察表

No.	種別	特徴	重量 (cm)			鉢土	色調	状態	成・整形技法の特徴		備考
			口徑	高さ	底径				外面：斜縁子目文を施す。 内面：ミガキ。	加賀村 B 2 P 1出土	
1	縄文上部	深鉢	—	<4.0>	—	石英・白色粒	10YR2/1 黒	良	外側：斜縁子目文を施す。 内側：ミガキ。	安行村 P 4出土	
3	縄文上部	深鉢	—	<6.1>	—	石英・長石・白色粒	外：SYR2/1 黑褐色 内：7SYR4/6 非褐	良	外側：斜縁子目文を施す。 内側：ミガキ。	安行村 P 4出土	
4	縄文上部	深鉢	—	<6.0>	4.4	石英・長石・角閃石・ 白色粒	SYR6/6 棕	良	外側：ケズリ後、磨いたミガキ。底部研磨 内側：ナダ。	安行村(古) P 17出土	
5	縄文下部	深鉢	—	<10.3>	4.4	石英・長石・白雲母・ 白色粒	10YR4/2 黑黄褐	良	外側：沈浸によって文様帶を形成。体部 下半はR.L.单脚陶文を、上半は沈没上部 に文様帶を加え、抹茶釉貼付文を施す。 内側：ナダ。	安行村 P 19出土	

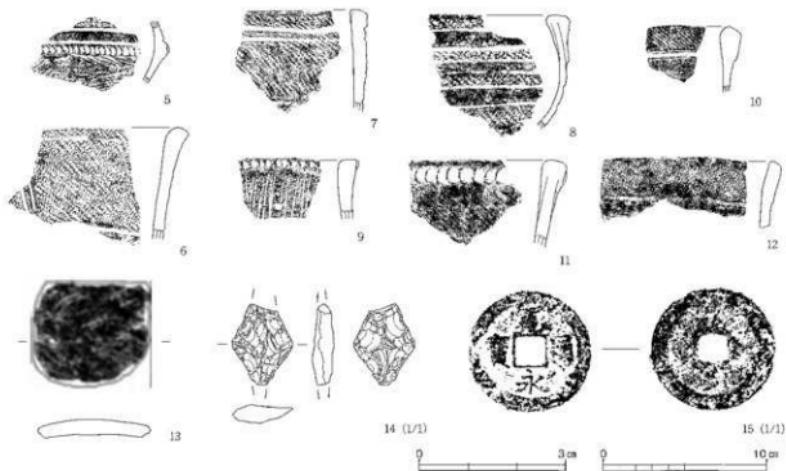
No.	種別	特徴	重量 (cm)			直さ (g)	成・整形技法の特徴ほか		備考
			重さ	幅	厚さ		直さ (g)		
2	土製品	石器	<2.7>	<2.6>	LD	896	両方向から穿孔。石英・長石・白雲母を含む。		P 2出土

第 5 節 遺構外出土遺物 (第 73 図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 2 区の調査で、遺構外より出土した遺物の中から 15 点を掲載する。2 区においては縄文時代中期以前の土器は確認されておらず、掲載遺物のほとんどは縄文時代後期に帰属する。また、直接帰属する該期の遺構は確認できなかったが、「寛永通宝」が 1 点出土している。



第 72 図 遺構外出土遺物



第73図 遺構外出土遺物

表59 遺構外出土遺物観察表

番号	種類	直徑	厚さ	材質	形態	特徴	参考文献
1	縄文土器	鉢	—	<25>	—	石英、白雲母、赤色粒 7SYR6/6 横	良 外面：平行沈線を巡らし、底盤間に直角筋隔を施す。 内面：ミガキ。
2	縄文土器	深鉢	—	<22>	—	石英、白雲母 SYR6/6 横	良 外面：絞線文を貼付け、斜位の巻継を施す。 内面：ミガキ。3列の平行沈線を巡らす。
3	縄文土器	深鉢	—	<51>	—	石英、白雲母、海綿骨針、白色粒 外：7SYR6/2 灰褐色 内：7SYR6/6 横	良 外面：R.L.单筋横文を貼し、口縁部に横筋文を貼付ける。 内面：無い。口縁部に巻継を巡らす。
4	縄文土器	深鉢	—	<75>	—	石英、白雲母、白色粒 軸：7SYR6/6 横	良 外面：R.L.单筋横文を貼した後、沈縫で文様部を区隔。沈縫部は横文を離崩し、文様部には斜位子目文を施す。 内面：ミガキ。
5	縄文土器	台付鉢7	—	<38>	—	石英、白雲母、赤色粒 軸：7SYR3/1 横	良 外側上部は平行沈線を巡らす。 内面：ミガキ。
6	縄文土器	深鉢	—	<69>	—	石英、白雲母、白色粒 外：10YRS3/1 黒褐色	良 外面：R.L.单筋横文を貼し、沈縫で文様部を区隔。沈縫部は横文を崩す。 内面：ミガキ。
7	縄文土器	深鉢	—	<69>	—	石英、白雲母、海綿骨針、白色粒 内：7SYR6/2 灰褐色	良 外面：R.L.单筋横文を貼し、平行沈縫を巡らす。 内面：ミガキ。
8	縄文土器	深鉢	—	<70>	—	石英、長石、白雲母 10YRS5/1 に無い黃褐色	やや良 外側上部に斜位表現を加え、体縁に巻継を施す。 内面：テヅ。
9	縄文土器	深鉢	—	<37>	—	石英、白雲母、白色粒 外：10YRS4/2 反対巻継 内：7SYR3/2 灰褐色	良 外面：口縁部に斜位表現を加え、体縁に巻継を施す。 内面：ミガキ。
10	縄文土器	深鉢	—	<41>	—	石英 10YRS4/4 に無い黃褐色	良 外面：口縁部にR.L.单筋横文を施す。 内面：テヅ。
11	縄文土器	深鉢	—	<51>	—	石英、白雲母 SYR5/4 に無い黃褐色	良 外面：深い斜位巻継を施し、口縁部を折り返して押壓する。 内面：無い。ミガキ。
12	縄文土器	深鉢	—	<41>	—	石英、黄石、白雲母 10YRS4/4 に無い黃褐色	良 外面：口縁部にR.L.单筋横文を施す。 内面：ミガキ。
B	材質	色	直徑	厚さ	形態	特徴	参考文献
13	土製品	土製円盤	6.5	7.1	0.9	61.5 口縁部を利用。朱製品。石英、白雲母、海綿骨針、赤色粒を含む。	
14	石製品	石盤	<17>	1.3	0.4	2.72 有蓋、先縁部と蓋部を欠損。チャートを使用。	
15	陶製品	古鏡	直径26	—	0.15	313 「鏡水蓮堂」	

第7章　まとめ

今回の坂田台山古墳群、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚（1・2区）の調査は調査区に制約があり、遺構の全容像を窺い知ることが困難であった。調査の結果、縄文時代中期中葉～縄文時代晚期前葉・古墳時代～近世にわたる幅広い遺構を確認することができた。以下、時期別の遺構にみる下坂田地区の土地利用、確認された特殊な遺構について述べる。

第1節　遺跡の概観

縄文時代の下坂田地区において明確に人為的な痕跡が確認できるのは、縄文時代中期中葉～後葉からである。遺構の分布は調査区の南～東側にみられ、北～西側では遺構が確認できていない。後期になると遺構の分布は調査区の南側ではみられなくなり、北西側や東側で確認される。後期においては調査区外の柴畑を中心に地点貝塚が形成されるため、其塚の周囲に遺構が展開しているものと考えられる。晩期の遺構数は少なくなるが、次節で述べるような円筒形の土坑が中心となる。おそらく、晩期の遺構分布域の中心は調査区外であるとみられ、今回の調査区で確認された遺構は、その際にあたるものと考えられる。

弥生時代の遺構・遺物は確認することができず、古墳時代前期（4世紀）になると再び土地の利用が内開される。古墳時代における住居跡の展開は調査区の東側を中心としており、6世紀後葉まで集落が営まれたいたことが確認された。7世紀代になると住居跡はみられなくなり、屢敷付古墳を中心とした坂田台山古墳群が形成され、墓域として展開していったようである。

平安期（8世紀後葉以降）になるとわずかであるが調査区の東側で住居跡が確認される。古墳時代の住居が営まれた地点とはほぼ同じであることから、居住域として調査区の東側が適していたということが窺える。その後、15世紀代になるまで土地の利用はなく、調査区の北側に堀や道路跡などが確認されたことから、中期の下坂田地区は台地の縁辺よりも、内陸側の土地が利用されたようである。

第2節　馬埋納土坑について

1区12号溝跡（撫跡）に隣接する形で馬の埋納土坑（1区11号土坑）を確認した。出土した馬骨の詳細については付写にて掲載する。埋納土坑は東西方向に長軸を持ち、馬は背を南、足を北に向けた状態で出土している。頭部と後足部分は土坑に收まりきらず、後足部分は一部土坑を拡張することで埋納しており、頭部はねじって体部に乗せている。供伴する遺物から15世紀後半～16世紀のものと考えられる。

周辺において同様の埋納土坑を有している遺跡として、入ノ上遺跡¹⁾が挙げられる。入ノ上遺跡は土浦市沖宿町に所在しており、本遺跡から南東方向に約10kmほどの霞ヶ浦沿岸の台地に位置する。入ノ上遺跡では馬埋納土坑が6基確認されているが、遺物が伴っているのは104号土坑のみで、出土した遺物は上質質土器の灯明皿で15世紀後半に位置づけられるものである。また、馬は全身が残っているものが多く、丁寧に埋葬された印象を受ける。入ノ上遺跡では複数の馬埋納土坑を確認していることから、周間に牧が存在したことを裏付けるものであるとしている。

本遺跡の馬埋納土坑は肋骨と椎骨が消失しているものの、ほぼ全身が揃っている。また、頭骨の納め方は若干強引のようにも見受けられるが、遺構の掘り込みや後足の一帯拡張など丁寧な部分も多い。出土した遺物も入ノ上遺跡とは同時期である。当初は12号溝跡が発掘された場所であること、周間に館跡（上坂田館の内館）があることから、11号土坑も館跡に伴う場に隣接した埋納土坑と考えられたが、埋葬の方法からすると入ノ

上遺跡と同様に、牧に伴う埋納土坑である可能性も否定できない。

第3節 繩文時代後期後葉～晩期前葉にみられる大型土坑について

今回1・2区の調査で円筒形の深い土坑を複数確認した。1区15・21・25号土坑と、2区1・2号土坑であるが、いずれも出土した土器から縄文時代後期後葉～晩期前葉に属すと考えられる。規模は、直径1m～1.5m、深さは1.5～2.5m、壁面は垂直に立ち上がる。1区25号土坑は検出できた深さが53cmと浅いが、中世の堀跡（12号津跡）によって削平を受けていたため、本来は他の土坑と同様に2m前後の深い土坑であったと考えられる。

このような円筒形の深い土坑は東関東でいくつか事例が確認されている。茨城県内の調査では、土浦市に隣接するつくば市上境旭台貝塚⁽²⁾で6基の円筒形土坑（縄文時代後期後葉～晩期前葉）を、境町本田遺跡⁽³⁾では4基の円筒形土坑（いずれも縄文時代後期後葉）が確認されている。他県に目を向けると、千葉県印西市馬場遺跡⁽⁴⁾（第5地点241号土坑：晩期前葉）、佐倉市井野長削遺跡（第8次28号土坑：晩期前葉）、埼玉県馬場小室山遺跡（第5次調査51号土坑：晩期前葉、第32次調査1・13・14・36号土坑：晩期前葉）などでも類例が確認されている。中でも印西市馬場遺跡で確認された土坑は直径約2.3m、深さが5.46mを測る巨大な円筒形の土坑で、覆土中には貝・炭化物・灰・動物遺体を含み、晩期前葉のまとまった土器が出土している。加えて、中層からは注口土器が正位置で出土し、さらに下層からはシカの頭骨が正位置で出土している。上記（千葉・埼玉）の土坑を比較・検討した田中大介氏⁽⁵⁾は、円筒形の大型土坑に関して①規模が大きい、②若干の時期差はあるものの、晩期前葉の良好な遺物が一括して出土する、③覆土中に炭化物・灰が多量に認められる、としている。

そこで本遺跡の円筒形土坑を振り返ると、1区15号土坑は晩期前葉の土器が出土、1区21号土坑は13号溝跡に削平された影響もあってか遺物の出土量は少なく、確認できた遺物は後期後葉の土器を中心としている。1区25号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・貝製品を含み、注口土器（晩期前葉）が正位置で出土している。2区1号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・貝製品・動物遺体・灰、2区2号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・動物遺体が確認された。加えて2区2号土坑の底面からはイノシシの頭骨が出土している、などの特徴が挙げられる。規模は全体的に小振りな印象だが、晩期前葉の土器を主体とする点や、貝・動物遺体を大量に含む、正位置の遺物が出土する点など、他地域との共通点が多く見受けられる。また、遺構の性格が廃棄するためのものであるのか、もしくは埋納するためのものであるのかといった点については、明確な位置付けが困難である。1区25号土坑では正位置の遺物が出土しているが、他の土坑においては個体になるものは少なく大多数は破片であるといった差異も見受けられるため、個々の円筒形土坑によって用途を区別していた可能性も考えられる。共通して言えることは晩期前葉の東関東において、直径1～2m、深さが2mを超えるような円筒形の大型土坑を掘るという認識を持ち合わせていたということであろう。

第4節 1区25号土坑・2区1号土坑出土の貝について

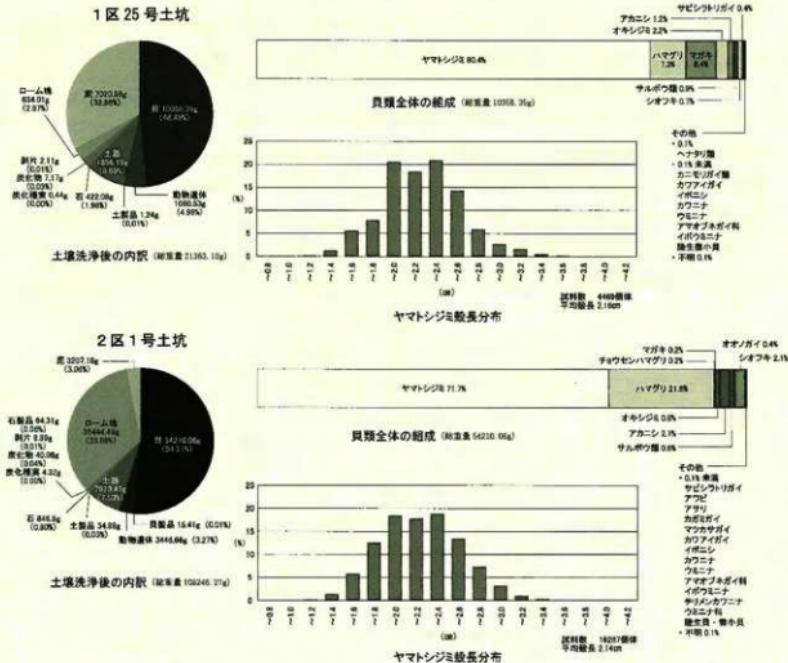
今回の調査を通して、1区地点貝塚（2地点）・1区25号土坑、2区1・2・3号土坑から貝を確認している。地点貝塚は攪乱を受けているため出土した量は多くなく、2区2・3号土坑も同様に出土量は少ないが、1区25号土坑と2区1号土坑は覆土に大量に貝が混入しており、出土量の8割ほどを占める。本節においては、貝が大量に出土した両土坑について、種別と出土量の表を掲載する。出土した貝の種別同定に関しては、西本巖弘氏に依頼した。1区25号土坑は圧倒的にヤマトシジミが多く、次いでハマグリ・マガキ・オキシジミ・アカニシと続く。2区1号土坑も圧倒的な出土量はヤマトシジミであるが、ハマグリ・マガキはほとんどなく

アカニシ・シオフキ・オキシジミ・サルボウ類と続く。両土坑に共通するのは汽水域の貝であるヤマトシジミがほとんあるが、アカニシ・シオフキといった内湾水域の貝も採取している。また2区1号土坑については、わずかではあるがアワビやチョウセンハマグリといった沿岸水域（外洋）の貝もあることから、内陸の下坂田から霞ヶ浦を出て貝の採取を行っていたことが窺える。

註

- (1) 堀田光一・黒田友紀・黒沢春彦『入ノ上遺跡：一都市計画道路田村沖指線道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土浦市教育委員会 1997年8月
- (2) 江底美奈子『上地越日台貝塚2・中根・企田台特定土地地区内埋蔵文化財調査報告書XV』『茨城県教育財団文化財調査報告書』第361集 2012年3月
- (3) 茨城県立博物館『本所遺跡：一般巡回468号首都圏中央連絡自動車道新放事務所内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告書』第313集 2009年3月
- (4) 萩多治明『遺作古墳群（第2次）馬場遺跡第5地点（第1次・第2次）』印西市道00-031号線遺作古墳群・馬場遺跡埋蔵文化財調査一』財團法人印西市古文化財センター収蔵調査報告書 第206集 2011年3月
- (5) 出中大介【資料紹介】印西市馬場遺跡第5地点241号土坑について「遺物出土状況と類似遺構の紹介」『印西の歴史』第6号 2012年3月

表60 土壌洗浄・貝分類表



遺構名	殻長(cm)													殻長 計測数 合計	殻長不明 個体数 合計	殻体數 合計			
	~0.8	~1.0	~1.2	~1.4	~1.6	~1.8	~2.0	~2.2	~2.4	~2.6	~2.8	~3.0	~3.2						
1区 SK25 右舷	0	1	5	33	129	35	608	450	424	312	134	52	39	10	5	2	1	0	2147
SK25 左舷	0	0	2	26	123	318	414	394	480	306	130	56	32	11	1	0	0	0	2922
2区 SKI 右舷	0	0	12	126	527	1075	1558	1400	1638	1122	603	247	77	26	5	0	0	0	8473
SKI 左舷	8	3	17	91	411	963	1446	1440	1425	580	263	76	18	11	3	0	1	7814	16287

ヤマトシジミ殻長計測

付章 動物遺体について

国立歴史民俗博物館 西本豊弘

はじめに

2012年度の下坂田貝塚の発掘調査で少量の動物遺体が出土した。発掘区が1区と2区に分かれており出土遺構も異なるので、動物遺体の内容は遺構ごとに表にまとめた。それらの所属時期は縄文時代晚期前葉と中世の二時期に分けられる。縄文時代晩期はシカとイノシシが主体であり、中世はウマが主体である。

1. 縄文時代の動物遺体

哺乳類ではイノシシが最も多く、その次にシカが多い。その他にタヌキ・アナグマ・ノウサギ・ツキノワグマが見られた。鳥類は、カモ類とツル類、魚類亜クロダイ・ボラ類・フグ類・エイ類・ウグイ類・ヒラメなどが少量出土している。

ヒトの骨や齒も少量見られた。2区1号土坑の頭蓋骨は薄く、女性かも知れない。2区2号土坑の頭蓋骨は厚く、男性であろう。雄合が閉じていないので20~30代であろう。

2. 中世の動物遺体

中世の遺構では、シカ・イノシシ・イヌ・ウマが出土している。1区11号土坑では、ウマ1体が埋葬されていた。出土状態から見ると、解体されずに遺体がそのまま横倒しの状態で埋葬されたようである。消失した骨もあるが、大部分の骨格が保存されていた。ただし骨質の保存状態は悪く、骨は脆くなっていた。

ウマの形質を見ると、頭部は大きいが歯は細くモウコウマ系であり在来馬である。四肢骨の長さから体高を推定してみると約120cmである。臼歯の摩耗は進んでいるが老年ではなく10~12歳程度であろう。犬歯を伴うので雄獸である。

表1 下坂田中台跡・下坂田貝塚1区出土動物遺体一覧表

遺構	時期	種類	部位	L/R	埋蔵形態・式	数量	骨号
13号小坑	縄文	イノシシ	第4中手骨	L	上顎骨	1	
		イノシシ	後臼歯	L	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	L	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		ツクシ	頭骨	R	上顎骨	1	
20号小坑	南文	鳥類	頭骨	L/R	R	3	
21号土坑	西文	鳥類	頭骨	L	上顎骨	8	
		鳥類	頭骨	R	上顎骨	13	
13号中台	縄文	イノシシ	頭骨	L	頭骨・喉骨	3	
		イノシシ	上顎骨	L	上顎骨	1	
		イノシシ	上顎骨	L	上顎骨	1	
		イノシシ	上顎骨	L	上顎骨	1	
		イノシシ	上顎骨	L	上顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	L	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
12号土器	中世	シカ	頭骨	L	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
		シカ	頭骨	R	上顎骨	1	
13号中台	中世	イノシシ	下顎骨	R	M3 後部 1/2	1	雄性・左顎骨
		イノシシ	下顎骨	R	M3 後部 1/2	1	雄性・左顎骨
		シカ	上顎骨	R	M2 ?	1	雄性
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
		シカ	上顎骨	R	遠古部	1	
1号土器	中世	イノシシ	下顎骨	L	DM3	1	雄性 3次元 頭まで近頃
		イノシシ	上顎骨	R	II	1	
		イノシシ	上顎骨	R	II	1	
		ウマ	上顎骨	L	遠古部	1	
		ウマ	上顎骨	R	遠古部	1	
		ウマ	上顎骨	R	遠古部	1	

		ホツキ	シ	リ	2
25号中台	縄文	ツクシ	頭骨	R	
		ツクシ	頭骨	R	2
		ツクシ	頭骨	R	木
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
27号中台	縄文	ツクシ	頭骨	R	750
		ツクシ	頭骨	R	77
		ツクシ	頭骨	R	2
		ツクシ	頭骨	R	2 歳令
		ツクシ	頭骨	L	M2
		ツクシ	頭骨	L	1
35号ビート	縄文	ツクシ	頭骨	R	20
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
地点工具1	縄文	ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
地点工具2	縄文	ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
月桂樹周辺	縄文	ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
		ツクシ	頭骨	R	1
2号土器	中世	シカ	頭骨	R	1
		シカ	頭骨	R	1
		シカ	頭骨	R	1
		シカ	頭骨	R	1
		シカ	頭骨	R	1
		シカ	頭骨	R	1
12号土器	中世	ウマ	上顎骨	R	M1
		ウマ	上顎骨	R	M1
		ウマ	上顎骨	R	M1
		ウマ	上顎骨	R	M1
		ウマ	上顎骨	R	M1
		ウマ	上顎骨	R	M1
13号中台	中世	ウマ	上顎骨	R	M3 後部 1/2
		ウマ	上顎骨	R	M3 後部 1/2
		ウマ	上顎骨	R	M3 後部 1/2
		ウマ	上顎骨	R	M3 後部 1/2
		ウマ	上顎骨	R	M3 後部 1/2
		ウマ	上顎骨	R	M3 後部 1/2
1号土器	中世	イノシシ	下顎骨	L	DM3
		イノシシ	上顎骨	R	II
		イノシシ	上顎骨	R	II
		イノシシ	上顎骨	R	II
		イノシシ	上顎骨	R	II
		イノシシ	上顎骨	R	II

表3 1区11号土坑出土ウマ

部位	LR	残存部位・変式	数量	備考	最大長(mm)	標準体高(cm)
頭蓋骨		頭頂骨部	1	1個保存		
上顎骨	LR	L:(I123CP234M123) R:(I123xP234M123)	2	推定年齢:10~12歳 ♂		
T型骨	LR	L:(I123CP234M123) R:(I123CP234M123)	1			
環椎			1			
前椎			1			
頸椎			5			
胸椎			7			
椎骨		椎体のみ	6	椎弓部分なし		
肋骨		近位部	9			
肩甲骨	L	骨頭と羽状部破損	1			
肩甲骨	R	骨頭と辺縁部破損	1			
上腕骨	L	近位骨端部破損	1			
上腕骨	R	近位骨端部破損	1		260 ± 120	
桡骨	L	遠位部破損	1		305 ± 123	
尺骨	L		1	桡骨に付着		
桡骨	R	遠位部	1			
尺骨	R	遠位部	1	桡骨付着部分のみ残		
中手骨	L?	遠位部	1			
基節骨	L?	近位部	1			
対角骨	L	関節臼~坐骨・腸骨	1			
対角骨	R	関節臼~坐骨・腸骨	1			
大脛骨	L	近位骨端部破損	1			
大脛骨	R	遠位部	1			
脛骨	L	骨幹部破損	1			
脛骨	R	骨端部・骨幹部破損	1			
腓蓋骨	L		1			
中足骨	L	骨幹部破損	1			
中足骨	R	骨幹部破損	1	第2~4中足骨あり		
蹠骨	L	完存	1			
蹠骨	L	完存	1			
蹠骨	R	遠位部	1			
蹠骨	R	1				
尾根骨	L	3				
尾根骨	R	5				
基節骨		近位部	1			

表4 1区11号土坑出土 ウマ歯齒計測表 (mm)

部位	左右	長さ	最大幅	下顎歯	左右	長さ	前輪	後輪	
J.新鹿	P2	L	38.9	21.7	下顎歯	P2	L	31.1	— 137
	P3	L	25.8	25.3		P3	L	26.1	14.9 14.4
	P4	L	24.0	25.5		P4	L	25.5	15.0 15.3
	M1	L	22.2	25.5		M1	L	22.0	14.2 12.5
	M2	L	22.2	23.5		M2	L	24.1	13.4 12.1
	M3	L	27.0	21.9		M3	L	31.2	11.5 —
	P2	R	38.0	21.9		P2	R	30.3	— 13.5
	P3	R	26.4	25.3		P3	R	25.7	13.7 14.2
	P4	R	24.0	24.9		P4	R	24.6	15.0 14.6
	M1	R	21.4	24.6		M1	R	21.7	14.4 12.7
	M2	R	22.1	23.9		M2	R	23.3	13.6 11.8
	M3	R	26.1	22.1		M3	R	31.7	11.7 —

注:Pは前臼歯、Mは後臼歯、数字は歯の番号を示す。

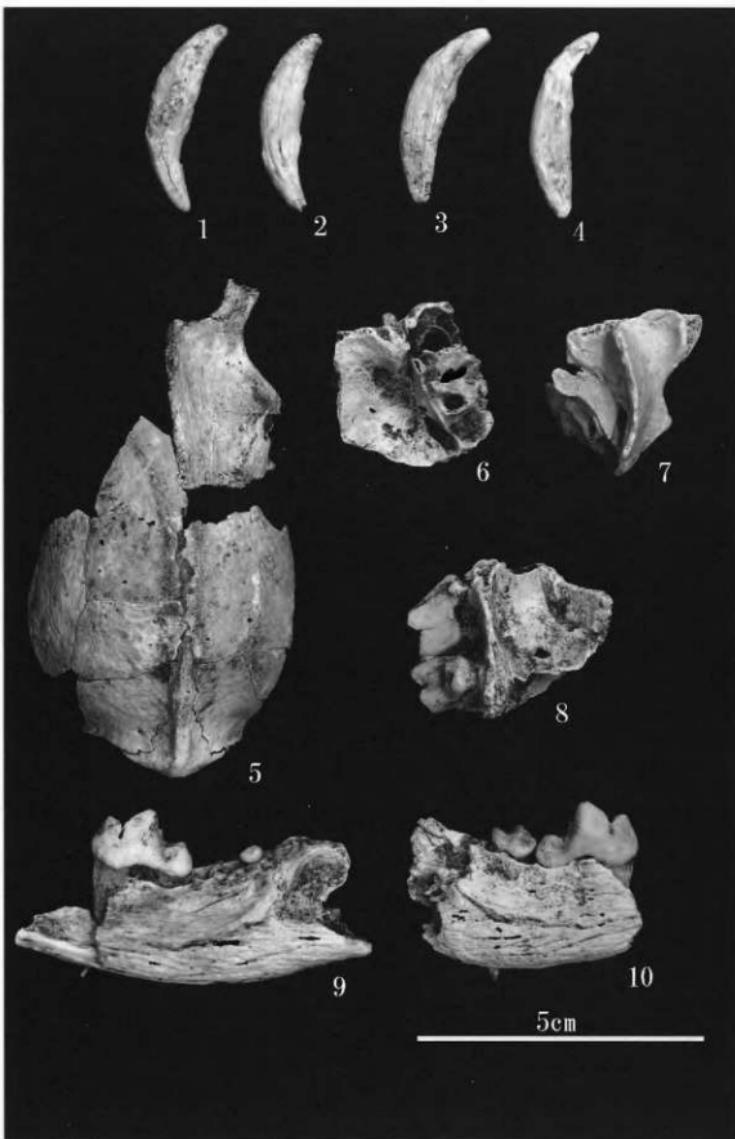


写真1 イノシシ

1：上顎骨（幼獣） 2：上顎骨（成獣） 3：後頭部 4：頸椎 5：尺骨 6：脛骨近位部（若獣） 7：脛骨遠位部 8：寛骨 9・10：下顎骨（雄獣）

（1・6・7・9は左側、2・5・8・9は右側。幼獣・若獣の記載がないものは成獣）



写真2 シカ

1・2：下顎骨 3：頸椎 4：肩甲骨 5・6：中足骨 7：距骨 8・9：基節骨 10・11：中節骨
12：頭骨と角突起 13：鹿角 14：落角
(1・4は左側、2・5・7・12は右側)



写真3 ウマ（1区11号土坑）

1：左右上顎骨 2：左侧下顎骨 3a・b：右侧下顎骨



写真4 ウマ（1区11号土坑）

1：第1頸椎 2：第2頸椎 3：肩甲骨 4：上腕骨 5：桡骨 6：大腿骨 7：胫骨 8：骻骨

9：中足骨 10：中手骨遠位部 11：踵骨 12：距骨

(1・2・10以外は左侧)

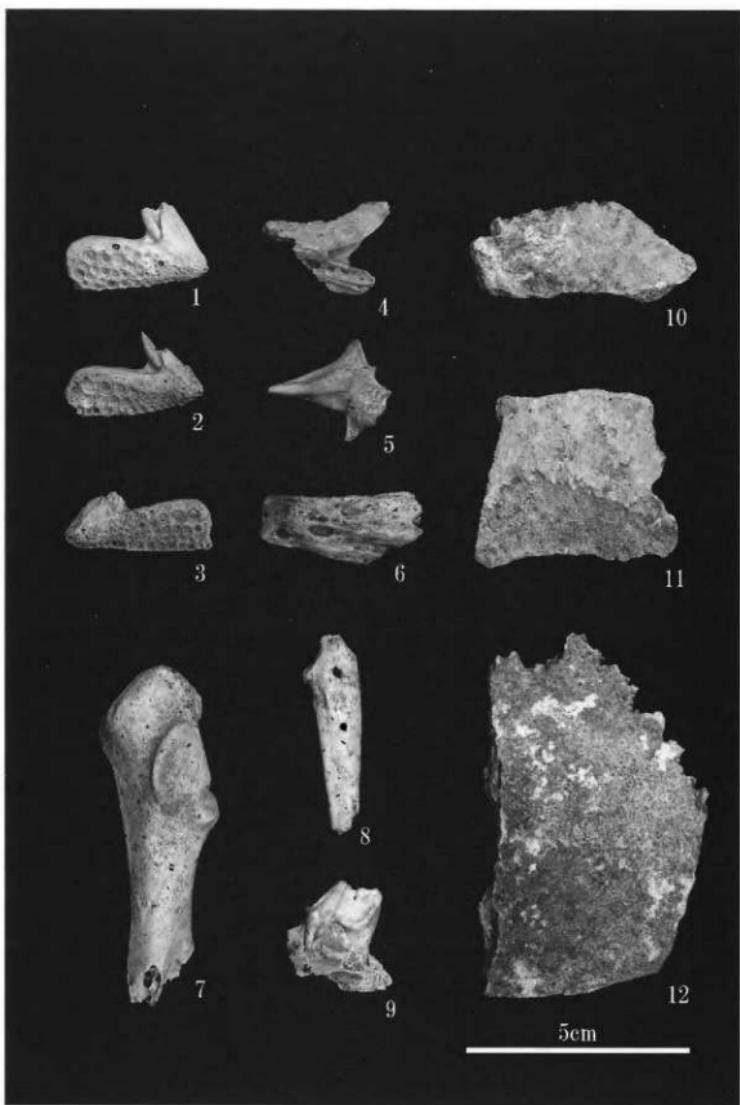


写真5 魚類（1～6）・鳥類・哺乳類・ヒト（10～12）

1～3：クロダイ前上顎 4：クロダイ歯骨 5：タイ類間節骨(角骨) 6：スズキ歯骨 7：ツル類鳥口骨 8：
アナグマ尺骨 9：イヌ上顎骨 10～12：ヒト頭蓋骨
(1・2・4～9は左側、3は右側)

写 真 図 版



1号住居跡全景（南西から）



1号住居跡遺物出土状況（南西から）



1号・2号溝跡全景（東から）



1号土坑（陥し穴）全景（東から）



2号土坑全景（北から）



3号土坑全景（西から）



墓敷付古墳調査前全景（北から）



1号墳周溝全景（北から）



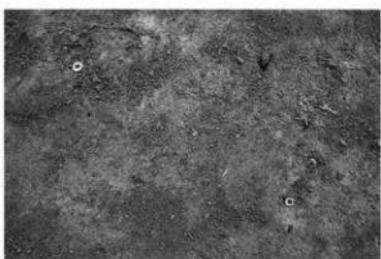
1号住居跡全景（南東から）



1号住居跡カマド（南東から）



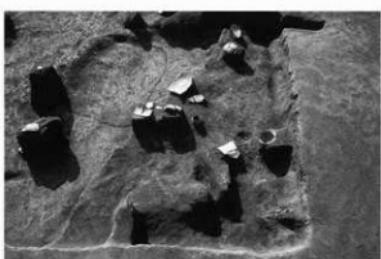
2号住居跡全景（北西から）



2号住居跡臼玉出土状況（北東から）



3号住居跡全景（南東から）



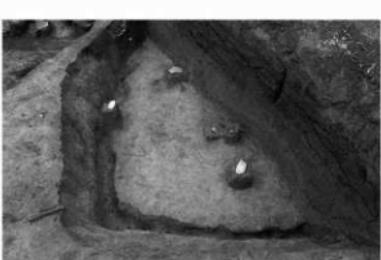
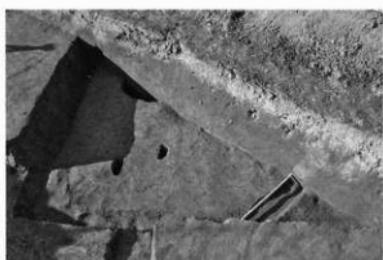
3号住居跡遺物出土状況（北東から）



4号住居跡全景（南東から）

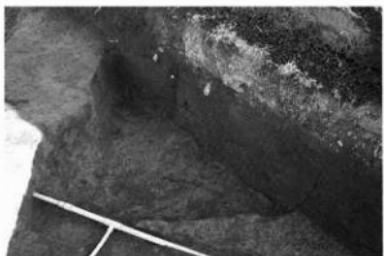


4号住居跡遺物出土状況（西から）

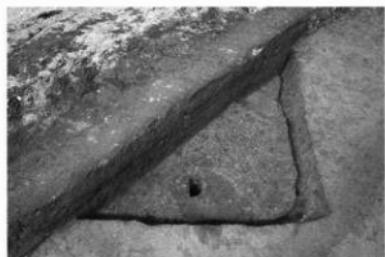




9号住居跡全景（北西から）



10号住居跡全景（北西から）



11号住居跡全景（南東から）



11号住居跡遺物出土状況（南から）



13号住居跡全景（南から）



13号住居跡遺物出土状況（南から）



13号住居跡土製模造鏡出土状況（南から）



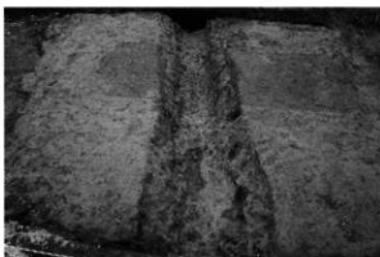
14号住居跡全景（南西から）



14号住居跡石製模造品出土状況（西から）



2号溝跡遺物出土状況（南から）



6号溝跡全景（東から）



7・8・10号溝跡全景（東から）



9号溝跡硬化面検出状況（南西から）



12号溝跡（堀跡）全景（南東から）



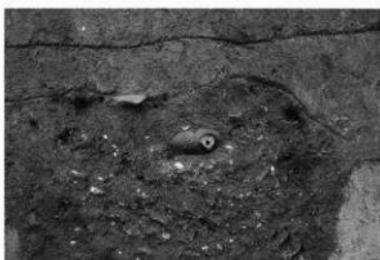
13号溝跡全景（東から）



11号土坑馬骨出土状況（北から）



24号土坑（陥れ穴）全景（南から）



25号土坑注口土器出土状況（北から）



1号建物跡検出状況（南から）



1号井戸跡全景（北から）



地点貝塚検出状況（南東から）



20～23号ビット全景（南東から）



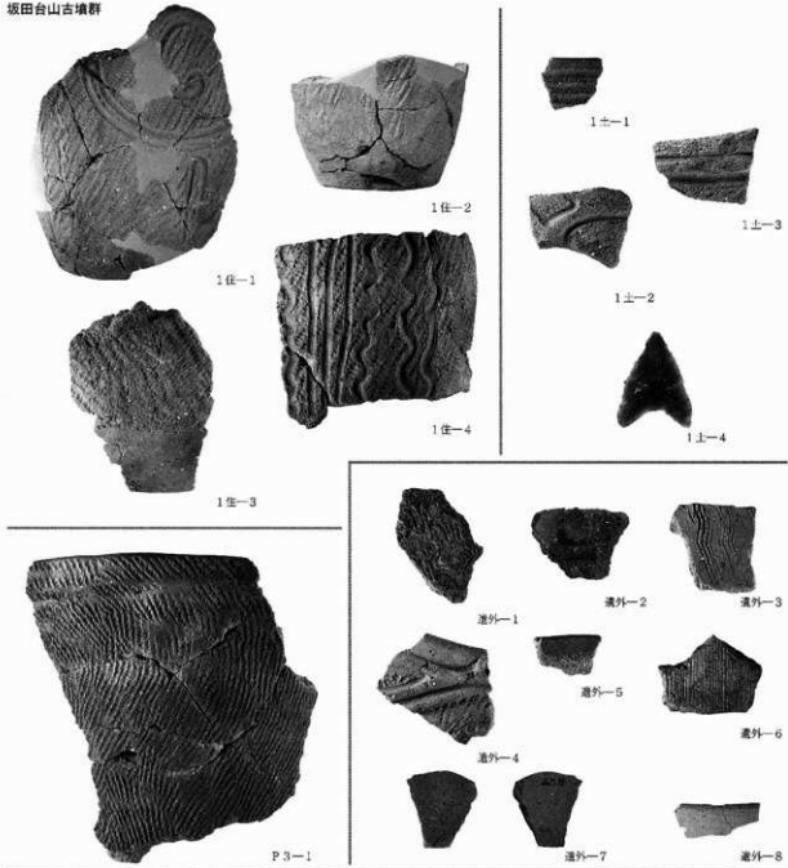
1区南側東西路線全景（西から）



1区北側東西路線全景（東から）



坂田台山古墳群



下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区





1住-7



1住-9



1住-10



1住-11



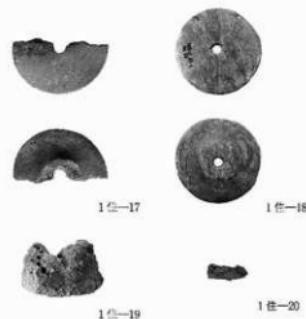
1住-8



1住-13



1住-12



1住-17

1住-18

1住-19

1住-20



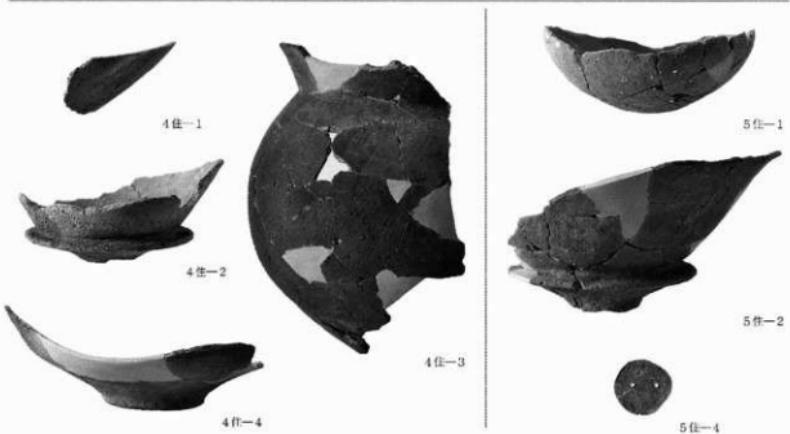
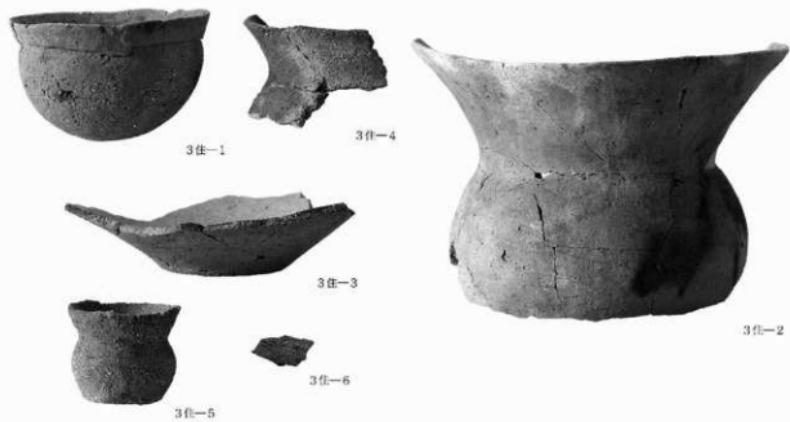
1住-14



1住-15



1住-16







8住-7



8住-8



8住-9



11住-1



11住-2



11住-3



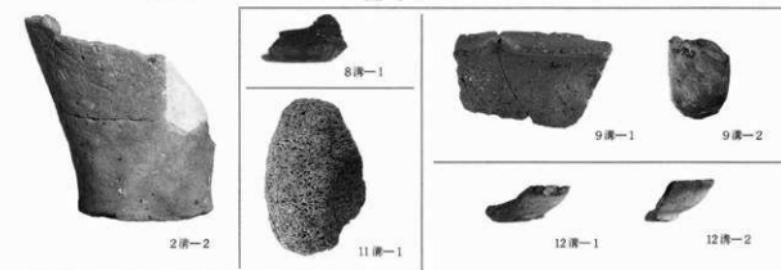
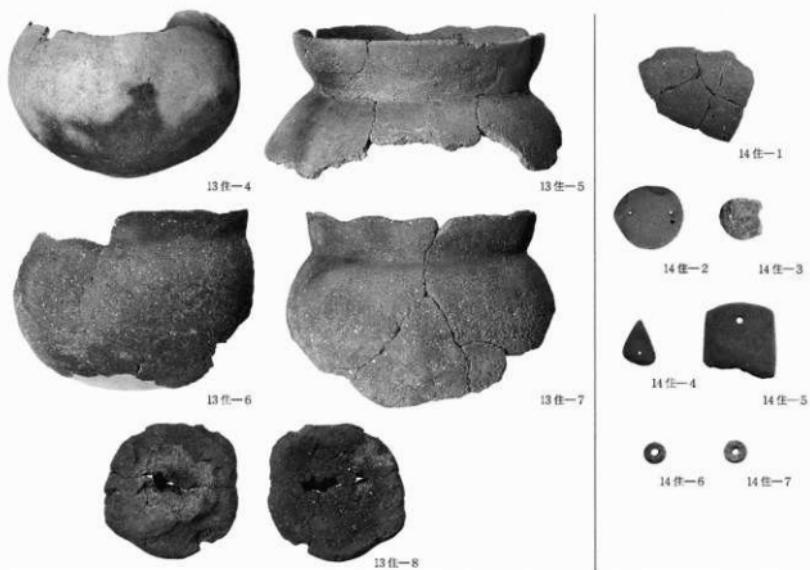
13住-1

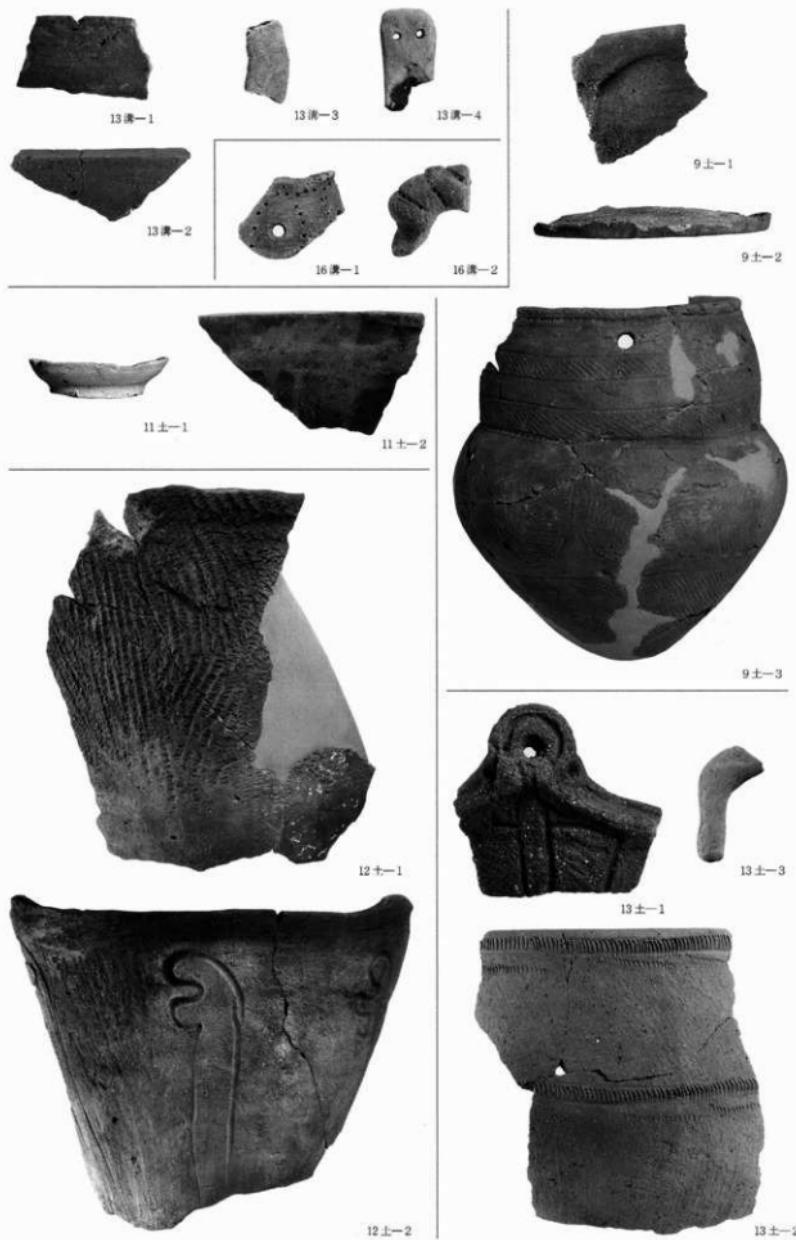


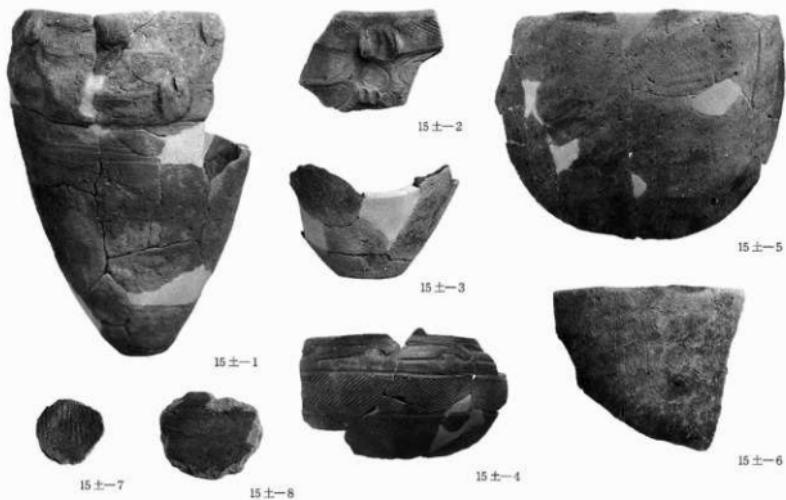
13住-2



13住-3









25 土-1



25 土-4



25 土-2



25 土-5



25 土-6



25 土-7



25 土-3



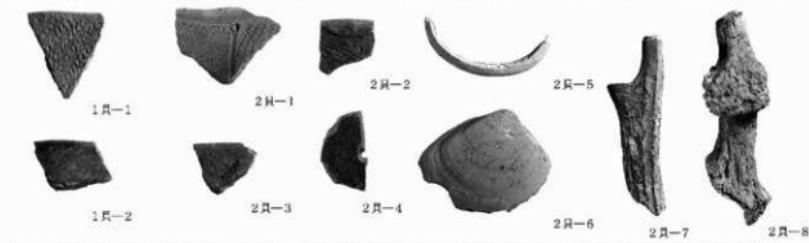
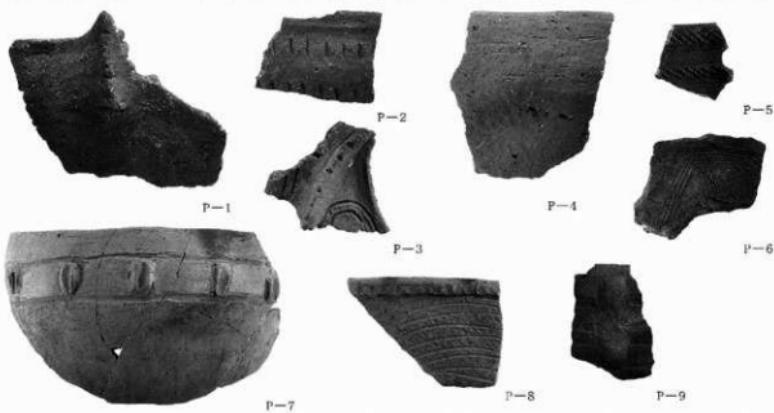
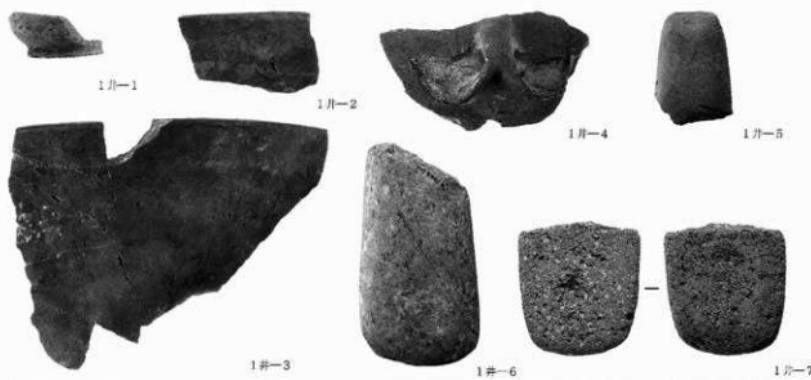
26 土-1



27 土-2

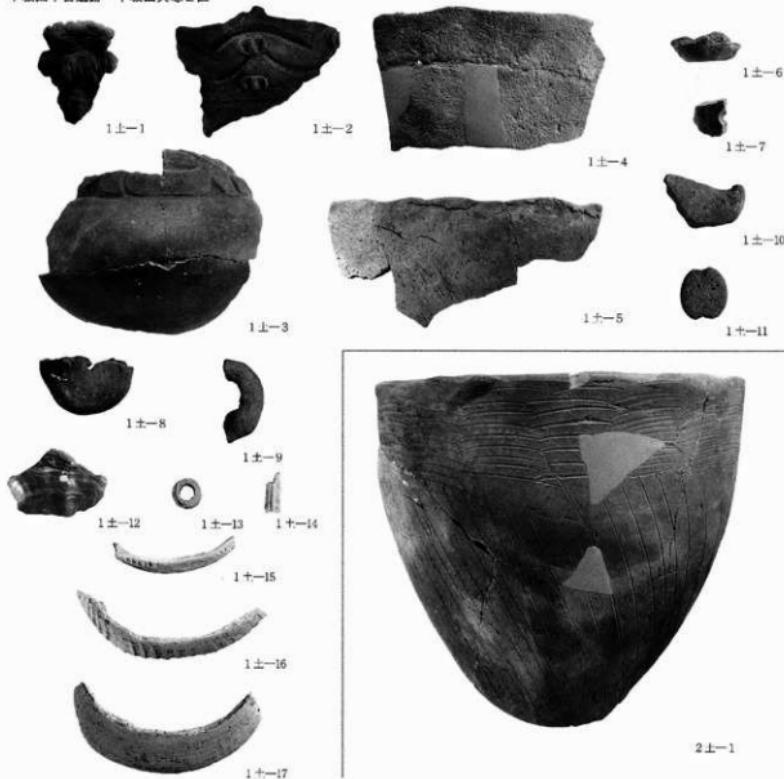


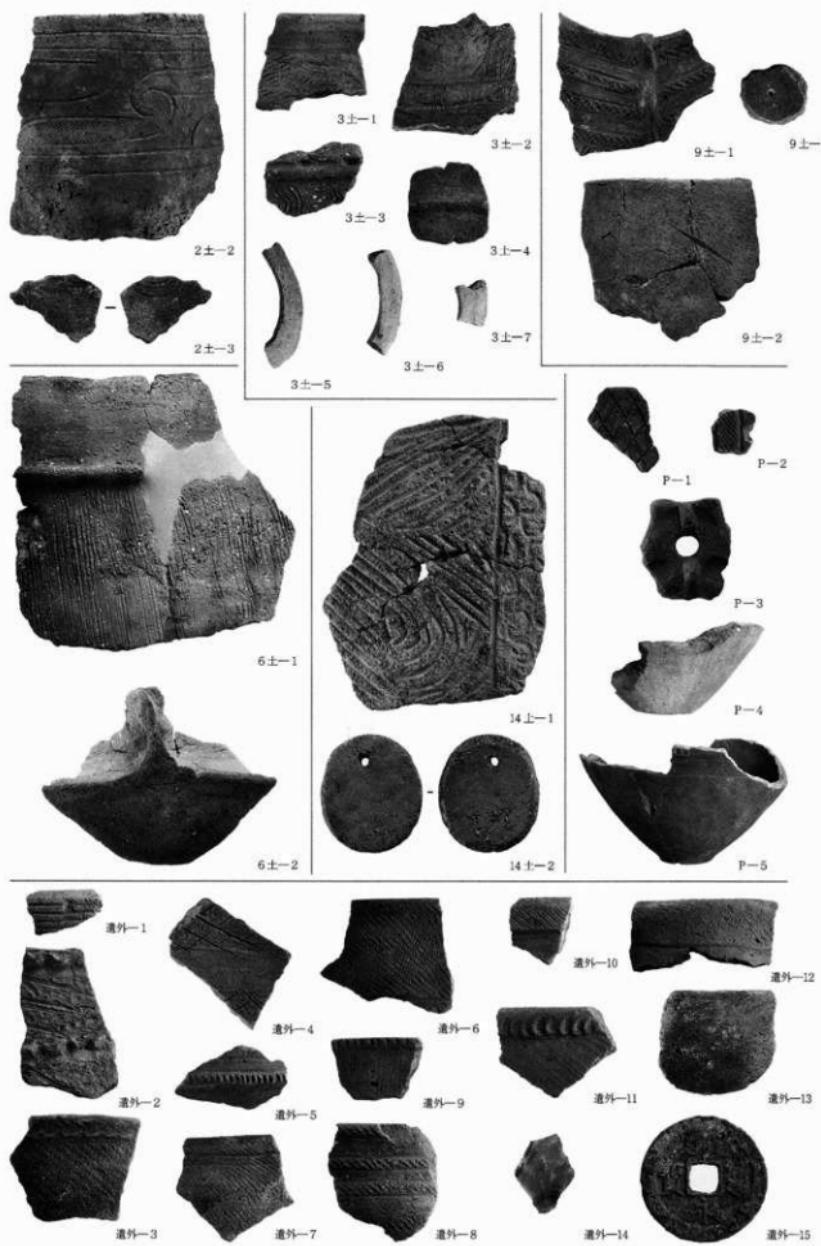
27 土-3





下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区





報告書抄録

ふりがな	さかただいやまこふんぐん・しもさかたなかだいいせき・しもさかたかいづか							
書名	坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚							
副書名	坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名								
編集者名	柴田洋孝							
著者名	比毛君男・西本豊弘・柴田洋孝							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 茨城支所							
所在地	〒 300-0811 茨城県常総市菅生町 2042-1 Tel 0297-27-0722							
発行年月日	平成 25 年 3 月 8 日							
所収遺跡名	所在地		コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	市町村	遺跡番号						
坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚	つちうらししまさかた 土浦市下坂田 1467 番地外	465	008 005 006	36° 06° 31°	140° 10° 05°	2011.12.14 ~ 2012.03.21	2,760m ²	畑地帯総合 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
坂田台山古墳群	集落 古墳	縄文	竪穴住居跡 土坑	1軒 3基	縄文土器・石器(打製石 器)	縄文時代中期後葉の遺 構を確認。 屋敷付古墳の周溝は擾 乱の影響が著しい。		
		古墳	周溝	1基	縄文土器・土師器・陶磁 器			
		中・近世	溝跡 道路状遺構	1条 1条	縄文土器・陶磁器			
下坂田中台遺跡 下坂田貝塚	貝塚 集落 城館	縄文	竪穴住居跡? 土坑 地点貝塚	3軒 36基 2ヶ所	縄文土器・土製品(土偶・ 腕輪・土版・土器片円盤・ 土器片鍾)・石器(打製 石鏡・打製石斧・磨製石 斧)・骨角製品(ヤス)・ 貝製品(貝輪)・貝・獸骨・ 魚骨	縄文時代中期中葉～晚 期前葉までの遺構を確 認。地点貝塚は後期前 葉～中葉にかけて形成 されたとみられる。晚 期前葉においては円筒 形の深い土坑を確認し ており、覆土中から完 形の注口土器や、大量 の貝・獸骨等を確認。 古墳時代の住居跡は前 期から後期までを確 認。1区 13 号住居跡 からは土製の模造鏡が 出土している。		
		古墳	竪穴住居跡	11軒	土師器・土製品(彷彿車・ 模造鏡)・石製品(彷彿車・ 白玉・模造品)			
		奈良・平安	竪穴住居跡 溝跡 土坑	2軒 2条 1基	土師器・須恵器			
	中世	掘立柱建物跡? 溝跡 壠跡 道路状遺構 土坑 地下式坑 馬堀納土坑 井戸跡	1棟 11条 2条 2条 3基 1基 1基 1基	かわらけ・土師質土器 (鍋・茶釜)・陶器(盞・甌)	中世における壠跡は 館跡、もしくは牧に闊 連するものとみられ る。また、馬の埋納土 坑を1基、壠跡に隣接 して確認している。			
		溝跡 井戸跡?	1条 1基	泥面子				

茨城県土浦市

坂田台山古墳群
下坂田中台遺跡
下坂田貝塚

— 番地帯総合整備事業（担い手支援型） —
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成 25 年 3 月 5 日

発行 平成 25 年 3 月 8 日

編 集 有限会社毛野考古学研究所 茨城支所
〒303-0044 茨城県常総市菅生町2042-1
TEL 0297-27-0722

発 行 土浦市教育委員会
〒300-0811 茨城県土浦市藤沢973
TEL 029-826-1111

印 刷 朝日印刷工業株式会社
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町67
TEL 027-251-1212